各種社會問題之研究

滿洲之社會

新年號

第參卷第五號

滿洲社會事業研究會

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

滿洲之社會＝第參卷第五號（大正十四年一月發行）

資本金壹千四百四拾萬圓

關東州地方費現金取扱

大連市金庫事務取扱

日支合辦

株式會社

龍口銀行

大連市浪速町

電話
代表番號 七一五一番
宿直用 五七三六番
公衆用 三三二八番

振替口座大連 一五五〇番

支店所及出張所在地

龍口、青島、哈爾賓、安東、鞍山、公主嶺、瓦房店、松樹

派出所

大連市内磐城町

日本内地及臺灣、朝鮮、滿洲、支那各地に爲替取引先有之

一般銀行業務便宜に御取扱仕候

本店　東京市麴町區有樂町一丁目一番地

支店　大連、青島、奉天、哈爾賓、京城、釜山、大邱、大田、木浦、元山、裡里、沙里院、平壤、

出張所　間島

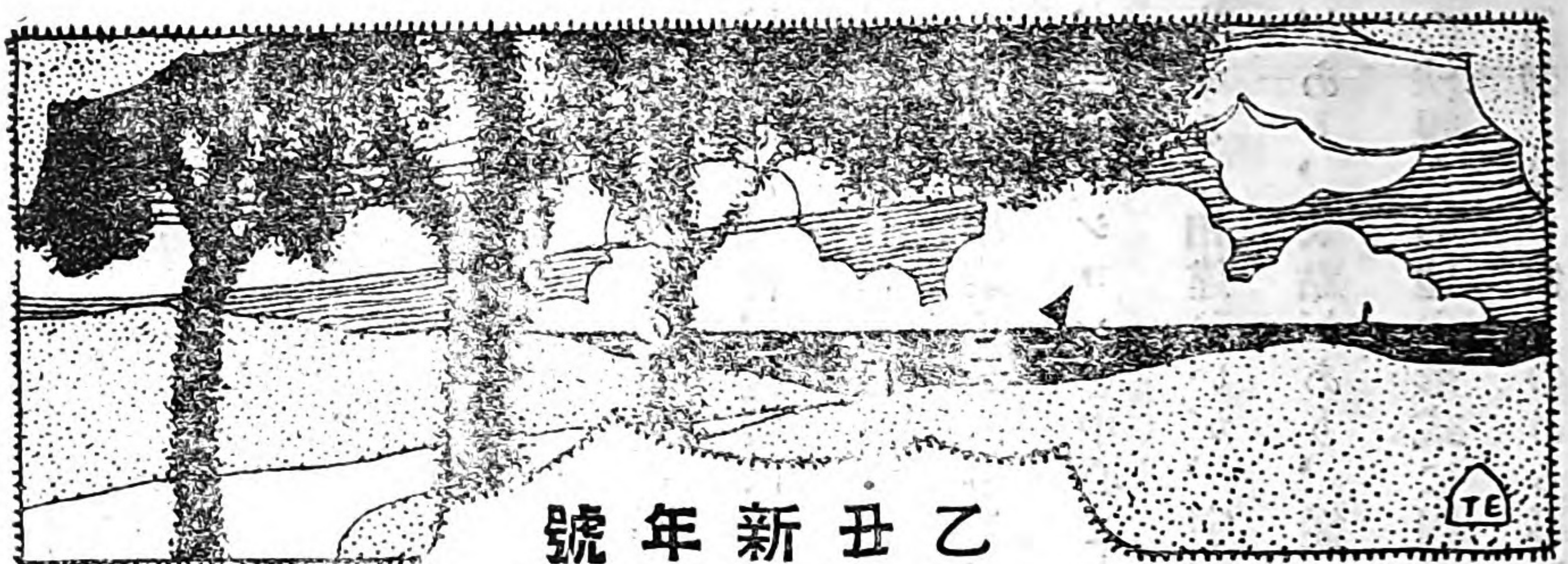
東洋拓殖株式會社

大連支店
電話（長）七一四七番
　　（　）七一四九番
振替口座大連一九七八番
受信略號タイレン、トタク

奉天支店
電話（長）六五七番
　　（長）三九七番
振替口座大連一九六八番
受信略號ホウテン　トタ

營業科目

一、拓殖ノ爲メ必要ナル資金ノ貸付
一、農業、水利事業及土地ノ經營
一、農業者ニ對シ其ノ必要ナル物品ノ供給及其ノ生産物品ノ分配
一、移住民ニ關スル業務
一、委託ニ因ル土地ノ經營及管理
一、其他拓殖ノ爲メ必要ナル事業ノ經營
一、定期預リ金



尚武と尚利

日本は尚武の國なり。尚武とは正義、人道、公理のために不義、横暴、邪惡を挫ぐ事なり。破邪顯正は實に尚武の眞髓たらずんばあらず。故に尚武は弱國弱民を壓迫して非理不法を敢行する軍國主義とは固より同一ならず。蠻勇を揮つて他を傷くるが如きも尚武の本旨に反す。尚武には人情あり、正理及び公道あり、而して其の究極の目的は人生と社會に和平を齎らすに在りて存ず。尚武の國民たる大和民族は大平和を理想とせざるべからざる也。

然るに近時の社會相は尚武變じて尚利となれる傾向あり。謂ゆる實業家なるものゝ多くは私利を射るに急にして社會の公利公益を無視し、人間としての眞の情味なく、德の罪人より法の罪人となる者も尠からず。今の政治家にも功利の徒多きを占む。神洲正大の氣の衰へたるも怪むに足らず。是れ我が邦家のために何よりも憂ふべき事なり。浮華輕佻の陋俗も、奢侈贅澤の弊習も、尚武の氣萎れて尚利の風益々旺んなるの致す所ならずんばあらず。

尚武は質實剛健を旨とし、不義を排し、不德を懲らし、直きを舉げて曲れるを抑ね、嚴正以て萬事に臨む。尚利は然らず、華美虚榮を事とし、譎詐權謀を弄し、理を非に狂げても私利私慾を逞うせずんば已まず。尚武は王道的にして尚利は覇道的なり。人生と社會に眞の和平を齎らさんと欲せば、尚武の氣を復活せしめて尚利の習を打破し、以て我が國民魂を淸むるより急なるはなし。社會の廓淸も尚武の精神を以てせざれば全きを期し難からむ。



年頭の社會觀

山田芙峰

或る學者の說に從へば、社會にはゲマインシャフト的類型のものと、ゲゼルシャフト的類型のものとがあつて、多少その實質を異にして居るらしい。爾く嚴密に區別するのは困難だが、前者は自然的にすら〱と發達した社會、後者は人爲的に無理に作り上げた社會であると云へるかも知れない。大分變つて來たとは申せ、農村には尙ほ前者の面影があり、都市には後者の面影が著しいやうだ。

當今の事業と云ふ事業、施設と云ふ施設、殊に都市における夫等は、總べて科學を基調とし、そしてオルガニゼーションを中心として居る。謂ゆる有機的なるが現代事業の特性である。之れは慥に社會の進步を意味するに相違ないが、宇宙における自然の體系、人體における自然の組織と違つて、何處かに無理なところがあり、缺點があり、從つてまた崩壞し易い弱味を有つてゐる。最も遺憾なのは社會組織の骨であるところの法規その他の形式に囚はれ、形式によつて人事の多くを律し、細胞神經のうちに動いてゐる不斷の生命を閑却し易い傾きのある事である。つまり末節に拘泥して本源を遺却すると云つたやうな所がある。之を政治

た觀ても、之を經濟に看ても、本を棄てゝ末に走るといふ本末顚倒なことが隨所に現はれて居る。裁判の如きも形式理論に偏して社會の實勢に伴はない冷かな判決を下した事がある。

牧野法學博士の說に從へは、近頃の我が大審院の判例は、刑法、民法、商法の法規に泥まず、先づ以て事件の實相に眼をつけ、公けの秩序とか、善良の風俗とか、信義誠實の原則とかに重きを措いて、それを展開させて居るといふ事だ。債權者の過酷な主張に對して債務者の正直な立場を保護するが爲めに信義誠實の原則を論じ、或は權利の濫用を制するが如き、蓋し其の一例であらう。橫暴なる强者を取挫いで善良なる弱者を擁護するのが行政の要道、司法の要義であり、人道上當にさう有らねばならぬのであるが、特權階級を重んずる行政や强者に弱き司法は、之まで其の當然の人道に背いた事が多かつた。立法とてもさうした傾きがあつた。遉に大審院がそれに目醒めて來たのは、時代の力とは申しながら、大いに喜ぶべき事と謂はなければならぬ。併しながら我が社會の全面はまだ〳〵十分に目醒めて居らぬ。

印度の詩聖タゴール翁が見ねた時、彼は力强く『西洋の文明は機械的、物質的で、この方が勝つて居るため、その社會に活きた人間の情味が溢れて居ない、東洋はまだそれ程にならない。殊に日本にはその美しい所が保たれて居る、日本は東西兩洋の文化を綜合して眞に人間味のある新らしい社會を創造して欲しい』と言つた。次いで日本に赴いた支那の碩學辜鴻銘翁はクルツールの本義を說き、ポリチカルエコノミーの眞諦を論じ、資本家が金力を恃んで我利我慾と橫暴を事とする社會を難じ、眞の文化は信義、友愛、情誼を本と

すべきものであると述べた。義は君臣、情は父子と云ふ人道に依つて特殊の國體を成してゐる我國は、金子雪齋翁の言はれた通り、商工立國でなくて正義立國であらねばならぬ。有形の富を作ることに熱中して無形の魂を腐らしてはならぬ。詩聖の聲、碩學の言、取つて以て他山の石とすべしだ。

人爲的に細工して無理に作り上げたゲゼルシャフト的類型の社會は化石の様なものだ。斯うした社會は兎もすれば形式理論に囚はれて本源の信義誠實を無視する樣になる。人情が全然失はれない迄も、形式に泥む結果、人情の露はれが鈍つて來る。社會がゲマインシャフト的でなくなると、主智的、打算的、自我的の人が多くなつて、爭ひが不純となり、下らぬ葛藤や悶着が起り、煤煙と砂塵が都市の空氣を濁らすやうに社會の空氣を濁らしてしまう。さうして其處には最う人情も、正義も、博愛も光を失つてしまつて、權利だとか權力だとか、契約だとか云ふ物ばかりが無暗に幅を利かす樣になる。

さて社會政策の基調、社會施設、社會事業の本源は何であるかと云へば、申す迄もなく、美しい人情、正しい道理、強い彈力性に富んだ信義と誠實であらねばならぬ。再び牧野法學博士の言を借用する。博士は曰ふ『今日の社會事業はモハヤ富裕階級の慈善事業でもなく有閑階級の遊び仕事でもない、國家をして眞に國家たらしめ、社會をして眞に社會たらしめんが爲めには、生存競爭を本位とし、所有權及び契約の自由を基疑とし、ソーシアル●エリミネーションを基點とした從來の組織に代へて、生存協同を基本とし、信義誠實の原則を基準とし、ソーシアル●アシミレーションを理想とする新らしい制度を樹立せねばならぬ、さうして此

の意味において、社會事業は國家の基本政策に屬するものと考へられねばならぬ』と。吾輩もさう信ずる者である。然るに我國の社會政策や社會事業はまだ其處まで進んで居らない。

社會政策として生産事業をどう改めねばならぬかと云ふことは、こゝに暫くその論議を留保し、クルッールに對する一般人の考へ方、殊にエコノミーに對する現代人の考へ方が、今尙ほ概して古い思想に囚はれて居るのは、吾等の最も遺憾とする所である。資本主義の基調が個人主義、利己主義、自由競爭主義、營利主義であると云ふことは、恐らく何人も否定しないであらうと思ふが、之がために信義誠實を無視し、正しい道理が行はせず、美しい人情が露はれず、天に逆って譎詐權謀を事とする策士や功利の徒が社會の表面に幅を利かして居るのに對して、眞にこれを憂ふる者が果して幾人あるだらう乎。印度の詩聖がその純眞無我の心境から叫び出した精神文明の熱唱も、支那の老碩學が東西の兩思想を嚙み分けた其の深奥なる學識からの經濟政策眞諦の提唱も、これを馬耳東風と聞き流して居るものが多い樣であつては、社會政策の前途は暗澹たりで、國民をして眞に自覺せしむるのも容易なことではないと思ふ。

農學の大學として知られたフォート博士も昨年中來朝して『丁抹の農業』と『丁抹の農業教育』について我が國人に敎ゆる所があつたが、此の裏に大きな社會問題が伏在して居るのを觀取し得たものが何れほど有つたらう乎。都市は人爲的細工の勝つた處だ。從つて都市には自然味が乏しい。然るに年々增加し行く人口は雪崩れを打つて都市に集中し、さうして農村を衰頽せしめ、さうして勞働問題を發生せしめ、さうして小

作爭議を頻發せしめた。瑞穗の國と云はれた我國が斯うなつたのは憂ふべき事でないと云へる乎。フォート博士の說を嚙み占めて我國は今後大いに農村の復興に鋭意すべきではあるまい乎。丁抹の農業敎育に類したことは我國の社會事業家たり社會敎育家たる留岡幸助氏が東京市外西巣鴨町に本校を有する家庭學校を中心として北海道北見國社名淵に行つて居る。コロニーシステムの社會事業である。自然味の溢れたそして自然の惠みを滿喫し得る農村において人を敎育すると云ふは非常にいゝ事である。フォート博士は此點を口において說き留岡氏はこれを實地において行つてゐる。獨逸の文化は森林の中より生まれたとか、都市よりは剛健な人物を出さぬとか、英雄は草澤の間より起るとか云ふ言葉の意味を考ねてみても、都市にばかり力を注ぐことの誤まれるは極めて明瞭である。物質の豊美と外觀の虛飾を能事とする都市の文化生活なるものは寧ろ人を毒するものである。社會政策は農村にも及ばなければ全しと言へぬのである。

更に實業家でありそして社會政策を自己の工場に實施してゐる英國のビ●エス●ラウントリー氏が日本に來て『實業における人間味』と題する意見を述べ、更に英國の社會政策、勞働政策を說いたのは、時節柄多くの人々の注意を惹いたことゝ思ふ。新政策の敢行に勇氣を有たぬ政治家、時代遲れの經濟思想と經濟政策に執着する實業家、それ等が此の新らしい英國實業家の體驗を基とした說をどう聽いたかは、吾等の與かり知らざる所であるが、最ういゝ加減に目を覺ましても可からうと思ふ。やがて普選も實施される、勞働組合も公認される、水平運動も大きくなる、農村問題も解決せねばならぬ、智識階級の生活問題も考慮せねばなら

ぬ、と云ふ風に我國も益々進みつゝあるではない乎。何時までも反社會的の不適當なる形式や理論に縛られて内に躍動しつゝある新たなる生命を藐視し去るべき秋ではない。

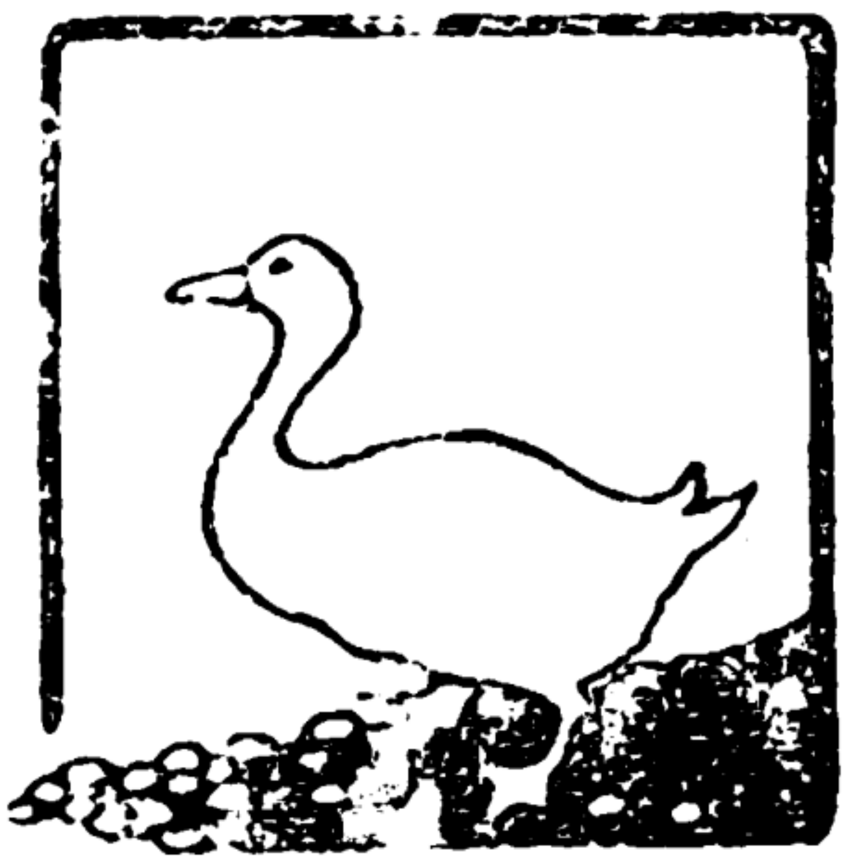
人間が智術的になつて愛情が薄れて行く、愛を生命とする家庭にまでも所有權、契約、權利、權力などいふ事が口喧ましく言はれて親子、夫婦、兄弟、姉妹の關係が論理的になる、さうした結果は果してどうなると思ふか。さなぎだに科學的、機械的、物質的にのみ進み行く文明、さなきだに人爲の技巧と細工の勝つた社會、さなきだに利己的、營利的、自由競爭的、個人主義的の經濟、それ等がますく\さうなつて、人間と人間との關係を惡化し、國内的にも、國際的にも、徒らに風波を多くすべき事は、何人にも極めて見易い道理である。印度の詩聖が人間的眞情の尊貴を呼び、支那の碩學が忠愛至誠の道を說き、法學博士が誠實信義の要を述べ、英國の實業家までが人間味の大切なことを高調するに至つたのは、洵に行詰つた時代の反響である。斯うして今は正しく新たなる生命が死せる舊殼を破つて躍り出づべき秋である、人間本來の魂のよみ更へるべき秋である、人爲の細工に泥まないで自然の情味に親むべき秋である。

淋しい不景氣の大正十三年を送つて更に淋しい不景氣の大正十四年を迎ふる今日、刻々に遷り變つて行く時代の潮流を眺め、また東洋における風氣一變の兆を觀て、吾等の感慨は無量である。本國と隔つた此の滿洲の社會にも時代の潮流は押寄せつゝある。植民政策も其の基調を改むべき秋だ。植民地の社會を古い故國の型に篏め、惡い因襲や習慣に充たさせるのは、最も好くない事である。

現代生活

◆電氣、瓦斯、水道といふ文明の利器が揃つて居る都市の生活は便利なものだが同時に稽ね物だ◆大連市では昨年中の或る一夜電氣に故障が起つて全市暗黑となり各戸では時代遲れの蠟燭を持ち出して僅に凌いだ◆さう成つたのは寒氣が急激にやつて來て風が吹く雪が降るそれが又直ぐ凍るといふ慌だしい變化であつたからだ◆人智の進歩は科學を生み科學は人間生活に都合のいゝ種々の機械器具を發明したが悲しいかな天力には到底敵はない◆同時に稽ねさせられるのは人間生活に利便を與ねる文明の利器なるものが一面人間を惰弱にし横着にすると云ふことだ◆電氣の發明で電車が走り電燈がともり鐵道その他の動力までが電化して來るのは可いとして◆人間は之がために歩くことを億劫がり明るい電燈に馴れる結果として視力も鈍つて來た◆鐵道も電車もなかつた昔時は東海道を膝栗毛でテク／＼歩き駕籠に乘つても甲地から乙地への旅には數日を要した◆今から思へば不便であつたに違ひないが昔の人はそれに馴れて居たので餘り不便とも思はず寧ろ平氣で居たのである◆昔の日本人が今人に比べて脚力に秀でゝゐたのは此のためでマラソン競爭などしないで而も足は頗る達者だつた◆乘るよりも歩くことの多かつた爲めそれが自然にいゝ運動となつて體力も概して優良だつた◆今日は運動だ體操だと騷ぎ散らして色々な事をやるが一方文明の利器に溺れて安易な享樂生活をなす爲め體力が惡くなるのだ◆力芽期の青年時代に煩雜な智術敎育を强ゆるので力芽が怪しくなり腕の力も脚の力と共に大いに弱くなつて來た◆生活卽力作であつた時代の少青年は米一俵を易々と擔いだものだが今の學校に通ふ少青年にこんな腕力のある者は尠い◆水道といふ便利なものが出來て栓を一ッ捻れば臺所にも風呂場にも便所にも水が出るのは調法だが之がために生活卽ち力作の本義が失はれて了つた◆井戸から水を得た時代には寒い時にも外の井戸の在る處に出かけて釣瓶を動かして水を汲んだもので夫が力作だつた◆處が水道といふ便利なものが出來た結果として生活上の力作が失はれ其の便利に馴れて人間が横着になり惰弱になつた◆昔は石炭といふものが發見されなかつたので山に薪を樵りその薪を燒いて炭となすなど其處にも生活卽ち

力作の本義が現はれて居たが石炭を用ふる現代人はその力作をも失つて了つた◆斯うして生活が力作でなくなり生活卽ち享樂といふことになると幾ら體育を盛んにし運動を奬勵しても人間は年と共に蒻蒻の樣に骨無しになるだらう◆骨無し動物は水母、海鼠、鮹入道などであるが人間が骨無しになつてはお仕舞だ◆現代人殊にその都市人は文明の利器を應用して享樂生活に得意然と顎を撫でゝ居るので豚のやうに肉ばかり肥ゑて肝腎な骨が怪しくなつて來た◆或る火葬場の番人の話によれば肉の肥ゑた人ほど骨が細いさうだ骨の細い人イヤ肉と骨との均衡を得ない人は精神が薄弱で氣骨がないと云ふ說もある◆それから電燈に馴れると視力が鈍くなるのも事實で近視眼が多くなつたは橫行文字や活字や何や彼が小さくなつた爲でもあらうが一ッは明るい電燈に馴れた爲でもあらうと思ふ◆昔の人は行燈の下で讀書もしまた針仕事もした豆ランプを點じてコツ〱仕事もしたそれで居て視力は非常に强かつた◆斯う考ゑて來ると文明の利器なるものは人間生活を便利にしたと同時に人間生活を墮落せしめ生活卽ち力作といふ本義が失はれて了つたわけだ◆物質の豐美を目的とする現代の文化生活なるものも人間を惰弱に導く惡魔であつて高田保馬博士の言つた通り森本博士の文化生活なるものは慥に惡魔の業である◆更に稽ゑさせられるのは機械的物質文明のために人間生活が惰弱になり橫着になると共に之を補ふべく案出さるゝ種々の方法も畢竟するに屋上屋を架するに外ならぬと云ふことだ◆生活卽ち力作の本義を失つた其の根本に眼を附けないでヤレ體操だヤレ運動だと騷ぐのは枝葉を多くする丈の事ではないか◆今となつては昔のやうな簡易生活に還元し得べくもないが眞に人間を强くし人間を正しくし人間生活を意義あらしやうと思はゞ生活卽ち力作の根本義に立還るべきであらう◆男子は外に出で金を使つて面白半分の運動などに熱中しないで一家に在つて生活しながら力作するやうに工風すべし◆婦人もまた仇花のやうな浮いた社交やダンスに溺れないで家庭に在つて生活を營みながら力作したが可からう◆東洋には東洋の精神文明がある何も一から十まで西洋の機械的物質文明に憧憬する必要はない◆人智や科學のみを賴んで天力の偉大を知らない現代人の生活法は全く間違つて居る。



國家及社會上の大問題

前大藏大臣　井上準之助

何人でも我國を一歩踏み出せば、第一に感ずるのは日本が國土狹くして人口の多過ぎる事、第二には日本が非常に天惠の薄い國であるといふ事である。我國の國體と家族制度とは吾々國民の最も誇りとする所であつて、是等の點において日本は世界に秀でた國であらうとは思ふけれども、飜つて物質的方面から觀察するときは、我國ぐらゐ天惠に乏しい國は世界に又と無い樣である。歐米各國何れの地へ行つても、未だ耕されずに棄てられて居る千里の沃野が幾つもあり、其處には又非常に有望な石炭山があり、石油坑があり、鐵山もあると云ふやうな譯であるが、悲いかな日本には世界に誇り得る斯樣な資源が無い。殊に我國は面積と比例して耕作地が非常に狹い。伊太利や西班牙は最も天惠の乏しい國と言はれて居るけれども、夫れでも伊太利の北部には日本よりも多く耕し得る沃野があり、西班牙にも豐富な鑛物があると云ふ風で、天惠の點から比較すると日本は餘程不幸な國である。そこで我國立國の基は國土に在らずして人力に在りと云ふことが痛切に考へられる。現狀は斯の如くであるが、更に將來の事を考へて見ると、我國の人口は一年に六七十萬づゝ增加するを以て、その過剩人口を今後如何に處理すべきかと云ふことは、實に國家並に社會上の重大問題で日本から一歩海外へ踏み出すとそれが一層切實に感ぜられる。

人口問題には必ず海外移民と云ふ問題が伴つて來るが、今後絶れず增加する我國の人口を海外へ送り出して、それで此の問題の解決が出來るかと言ふと、それは難事である、先づ不可能と判斷せらるゝ事實を我輩は今回の外國漫遊中に認めて來た。海外移民は我輩も之を熱望する、外交の上に於ても常に此事に努力しなければならぬ、それは勿論の事であるが、然らば其の實行上如何なる方法を執るべきかと言ふと、差迫つて居る我國の人口增加問題を海外移民に依つて解決することは不可能である。過去の事實を考へて見ても、布哇移民開始後旣に三十年を經過し、此の三十年間に於て屢々海外移民問題を耳にしたのにも拘らず、今日幾許の日本人が外國に移住して居るかと調べて見ると、僅に七十萬に過ぎない。則ち三十年掛つて一箇年の增加人口の七十萬を漸く解決したに過ぎないといふ極めて不滿足なる結果を見たのである。海外移民に依つて人口問題を解決するの難事であることは此の事實に照らして明瞭である。

歐洲大戰以來インターナショナリズムの思想が盛んになり、世界各國民は互に國境を持するが爲めに非常なる苦痛を經驗したので、其の結果、國境を見ずして世界の人類が相寄つて統合協力すべしと云ふ理想を抱く者が著るしく增加した。其の理想の一部は實現されてヴエルサイユ條約の規定となり、今や各國共に努力して國際聯盟を保持して居り、道義に基いて各國間の問題を裁決せんと企てゝ居る。此の理想的企劃が實現せらるゝならば、現に世界には猶ほ多くの沃野が橫はつて居り、それが恰かも勤勉なる日本の農民を迎へるかの樣に見れるから、之に依つて困難なる人口問題も何とか解決し得られさうにも思はれるが、歐米列國の實狀を見ると遺憾ながら此の豫想に反することが多い。現に歐洲各國の如きは大戰前よりも多くの常備軍を有して居る。リーグ●オブ●ネーション●ユニオンの總會には日本の代表者として我輩も五六日間行つて見たが、各國の有力家が名論卓說を吐く中にも、インターナショナリズムの美名の下に、各自國の立場から勝手

な議論をして居ることが容易に認められた。國家間の交渉は多くは邪推と猜疑心を以て滿たされるものだが此の會合に於ても それが現はれて居た。斯樣な次第であるから、遠き將來はいざ知らず、今日我國の差迫つた人口問題を之れに依つて解決することは望めない。我輩は素より國際聯盟を尊重する。之れは將來世界人類の爲めに必らず多大なる幸福を齎らすべく、永久平和の擁護にも偉大なる貢献を爲すべきものと確信するけれども、現狀から考へると、日本の人口難問題を解決するには不適當である。

歐米人士の中にも、日本人は非常なる活動的國民である、斯る活動的な國民を狹い國土に集めて置くのは世界の平和を脅す基である、故に日本の國民には相當に活動し得る餘地を與へ、先づ其の領土を擴げてやらなければならぬ、と云ふ説を唱ふる者がある。今日の世界の現勢、卽ち各國互に國境を尊重し互に其の國の利益を爭ふて居る情態から考察すると、自國の人民を適當な條件の下に他國に移出し、以て人口調節の目的を達することは極めて必要であつて、政府當局の大いに努力を要することで、我輩も亦その希望を有するけれども、然し實際問題としては餘程の難問題と考へる。事情斯くの如きを以て日本の人口問題は日本人自らが解決しなければならぬ事となる。天惠に乏しい國土に生れた日本人は寔に氣の毒な國民で、他國の國民と比較すると甚だ不利益な環境に在るけれども、それは已むを得ざる運命で、現今の如く列國相對峙して互に國威を輝かさんとする時代に於ては、自國の問題は自國に於て解決する外に道が無い。それには他國の國民の働くよりもヨリ多く働き、ヨリ簡單にヨリ質素な生活をなし、仍つて以て民力と國力を充實せしめなければならぬ。ヒユーマンビーイング卽ち廣く人類と云ふ立場から考へると、何故に日本人は他國人よりも多く働いて、粗食して、且苦しまなければならぬかと云ふ問題が起る。米國の勞働者には粗末ながらも自働車を持つて走り廻つて居る者もあるのに、日本ではさう云ふ生活が出來ないのは何故であらう乎、といふ疑問も

起る。さう考へると何となく馬鹿々々しくも思はれる。併し今日の如き社會、各國が相對峙して其の國威を輝かさなければならず、其の國の疆域內に於て生活して行かなければならぬ、と云ふ時代に於ては、日本に生まれた者が斯る苦境に立つのは洵に已むを得ない事であると思ふ。

人口問題の解決に關しては、種々の考案あるべく、工業を振興せしめて大いに國富の增進を圖ることも其の一解決策であるが、然し工業を振興せしめても、逐年增加する人口を巧みに按排して遺憾なきを得せしむることは困難である。現に英國の實例を見ても分る。英國では工業が旺盛で、隨つて富の程度も高く、工業界に働く勞働者の數は一千五百萬人に達するさうだが、而も十分に人口を按排することが出來ず、今日は多くの失業者に惱まされて居るといふ有樣だ。日本では工業の振興を圖つても其の資金が足らない、たとひ資金が出來て工業が振興しても、之れに依つて過剩人口を遺憾なく處理することは出來ないから、何うしても他に方法を求めなければならぬ。然らば如何なる方法が人口問題の解決策として最も適當であるかと云ふと北海道、朝鮮、滿洲等を大いに開發して此の方面に人口の捌口を作るのが一番上策だと思ふ。地味や氣候に就いて種々な議論もあるが、今日は其の樣は議論を闘はして居るべき場合ではない。試みに獨逸の情態を見るが宜い。獨逸は日本程ではないけれども、他國に比して餘り天惠に富んで居る國ではなく、地力の瘦せた土地が多い。然るに獨逸人は斯る瘦せた土地にも科學的研究を加へて種々の試作を爲し、不斷の努力を注げる結果、今日では立派な沃野美田と化して居る處が多い。北海道、朝鮮、滿洲等の地味や氣候を云々するよりも、吾々國民は先づこれに打勝つべき適當なる科學的方針を立て、之れに依つて切逼せる人口問題を解決すべきであつて、然る時は相當なる成績が必ず擧げ得らるゝであらうと信ずる。

北海道、朝鮮、滿洲等へ我が過剩人口を移すのは、卽ち植民政策であつて、海外移民とは同樣でなく、自

國の問題は自國で解決するといふ道理に合ふのである。それと同時に、日本人は他國人よりも多く働き、質素簡易なる生活を營み、そして大いに眞面目にならなければ可けない。輕佻浮華の陋俗は斷乎として排すべきである。英、米、獨、佛等でも例のダンスが流行し、我輩の外遊中にも、朝から晩まで踊つて樂しむと云ふやうな人間の廢頽した場面が屢次眼に着いたが、然し此等享樂者の多くは社會に勢力の無い人々であつて相當な有識階級の人々は戰爭以前よりも遙かに眞面目になり、且大いに奮闘努力して居る。先般歸朝の際には偶然獨逸の大使と同船したので、船中に於て種々談話を交換したが、佛蘭西革命の際、英國から佛蘭西へ行つて當時の事情を詳細に書いた人あり、その人の書いたものに依つて見ると、其時の情態は恰も現今の英國や佛國の情態と酷似して居るさうである。然らば社會に變動の起つた際、一部に好ましからぬ現象の生ずるのは已むを得ないが、然し有識階級の人々が之れと反對に非常に眞面目であるのは喜ばしい事である。予が獨逸へ行つた時は、丁度盛夏の候であつて、昔と異つた今の伯林へ赴いたところ、前陳の如き排斥すべき氣分も見ねたが、一歩地方へ入つてハンブルグ邊へ行つて見ると、事情が餘程變つて、質實剛健の俗尚ほ存し、休日などには郊外へ出て身體を錬り精神を養つて居る者が多かつた。獨逸は戰爭の爲めに絶大なる打擊を被り、其の工場の如きも戰時中一時に擴張したので、今日は未だ其の三分の一しか動いて居らぬと云ふ情況であるが、それにも拘はらず、社會の狀態は逐次良好となり、以前よりは寧ろ秩序整然たるものあり、實業家、政治家、其他有識階級の人々は何れも皆眞面目なもので、能く國家並に社會の將來の事を考へて居る樣であつた。日本國民たるもの深く省みる所なくして可ならんやである。

英國では思ひ切つた財政の整理緊縮を行ひ、之が爲め昨年は財政上四億圓も餘裕を生じ、之れに依つて公債を償却した位であつた。海外貿易も改善せられ、失業者は一時二百萬乃至二百五十萬人に達したが、近頃は

百萬人に減少した。尤も戰前の失業者は三十萬乃至五十萬人位であつたから、未だ平時よりは多いけれども然し漸次良好なる情態に復歸せんとして居る。佛蘭西も戰後極めて困難なる情態に陷つたけれども近時は素晴しい勢ひで復興の途に向つて邁進しつゝある。巴里と言へば金利の安い處で、世界各國に金を貸して居つたと云ふ聯想が浮ぶけれども、今日は斯かる面影はなく、自國の公債を募る爲め金利が非常に昂騰して居る一方同國の基礎を成して居る農民の情態は以前の通り勤勉にして貯蓄心に富むでゐる。農民の勤勉貯蓄は卽ち佛蘭西の財産である。佛蘭西農民の氣分は戰爭があつても變化せぬのである。斯の如く大戰後は各國共に疲弊して居るけれども又健全なる分子があつて眞面目に努力して居る。

日本は今や復興の途上に在る。此の復興の際、日本は果して歐洲諸國と駢進し行けるか何うか、之が實に大問題である。世界の波が上下して行く時には日本も之に乘つて行き、世界が繁昌する時には日本も繁昌し世界が不景氣になれば日本も不景氣に陷る、といふ樣な情態であれば、日本も人後に落ちずして世界の大勢に隨行することが出來るけれども、若し之れに隨行することが能きないで、歐米諸國のみ繁昌して日本が衰退する樣な事になれば、日本は世界の波の下積となり、段々底に押附けられて、遂には立場を失ひはせぬかと云ふことを憂慮する。況や人口問題といふ大問題を有する我國は、先づ此の問題の解決に力を注ぎ、此の重大なる難局に處して、國家並に社會の進運を圖らねばならぬ。政府も國民も大いに覺醒し、紊れたる內部を整ねると共に、外に向つて植民的發展の實を擧げねばならぬのである。

× × × × × × × × × × × × × × × × × × ×

都市財源としての土地増價税（上）

前田稔靖

都市計畫の財源としては法律に於て特に勅令により特別税を設定徴收し得ることゝなり、又この特別税に就ても、通常閑地税及び土地増價税の二種を擧げて居り、その內容の如きも既に公にせられ、殊に最近に至り審議著しく進捗し、殊に土地増價税は大正十四年度より實行の機運に際會したのである。都市財源としては他に特別課徵卽ち受益者負擔及び地帯收用卽ち超過收用等あり、又公債による事も有效なる方法たるには相違ないか、茲には土地増價税のみにつきその適否を吟味したいと思ふ。

土地増價税は今日我國に於ては確定的に地方税たる特別税と定められ、都市計畫の財源とされたのであるが、斯税が國税として果して不可なりや、又地方税たらざるべからざるやに就ては、未だ必ずしも決定された譯ではない。現に英國においては之れを國税として採用した。然るに斯税に先鞭を着け且幾多の經驗を重ねた獨逸に於ては、初め之を地方税として採用し、更に國税となし、各地方團體は之に對して附加税を課することゝし、其後再び之を地方税に移すに至つたのである。又英國が國税として採用せる斯税が甚だ不成績に終れる事を稽ふるときは斯税は寧ろ地方税としての存在價値あるに過ぎざるが如くに判斷せらるゝのである。我國において此の土地増價税を卒先採用したのは我が關東州で、それは林長官の時代に發布せられたが關東廳は之を地方税中の雜種税として採用した。蓋し以上先輩國の經驗に鑑みたる結果であらう。今後はこれを市の財源とすべきであらうと思ふ。今日我國に於ては既に之を都市計畫に對する財源として決定された

のであるから之れを國稅として成立せしむることは出來ないのである。

我國に於て斯稅を採用するにつき考慮を要すべき事は他の租稅と重複課稅の問題を生せざるやの點である今地租との關係に付いて見るに、地租は土地の收益を課稅標準とし、土地の課稅物件とするものなるに反し土地增價稅は土地の增價を課稅標準とし、土地移轉の行爲を課稅物件とする一種の交通稅なるを以て、此點において各々稅種を異にし、決して同一の稅源に對する重複課稅ではない。次に所得稅との關係は如何と見るに、第三種所得稅卽ち個人所得稅に於ては、營利の事業に屬せざる一時の所得には課稅せざるが故に、個人が土地の移轉によりて取得せる增價は所得として計畫せられず、隨つて之に對して土地增價稅を課するとも所得稅と重複する所はない。併し乍ら法人の所得に在つては、一時の所得も尙之を課稅外となさゞるが故に、その所有せる土地の移轉竝にその價値の異動による增價利得に對しては、當然所得稅を課せられるから之に對し土地增價稅を課する時は、重複課稅の問題を生すべきが如くである。併し此の場合に於ては、增價が獨立して課稅標準となるものにあらざるを以て、之れに對し斯稅を課するも決して酷なりと稱するを得ない。尙ほ登錄稅との關係に就て見るに、登錄稅もまた土地增價稅と同じく特別稅の一種であるけれども、前者は權利移轉の事實を捉へ、之に增價の件へると否とは問はないに反し、後者は之と異なり、土地の自然若くは不時增價を取得したるに依り給付能力あるものとして之れに課稅するのであるから、兩者は決して重複するものでない。之れを重複と視るか如きは固より大なる謬見である。

次に土地增價稅の課徵方法は如何と云ふに、之に就ては課稅物件、增價額、免除、稅率の成形及び租稅主體等の諸點を見るの必要があるから、以下順次之を逃べやう。

(イ)課稅物件

先づ課稅すべき場合に就て見るに、各國の實例によれば、間接稅としては土地所有權

の移轉、直接稅としては法人所有の土地に對して定期賦課を爲すことゝして居る。蓋し自然人に於ては死亡其他の原因により土地所有權の移轉頻繁に行はるゝに反し、法人は通常その存立期間長きが爲めに、彼是課稅の公平を得せしめたのである。例へば英國の如きは、一面土地所有權の讓渡又は死因移轉及び賃借權の設定（十四年以上）の場合を捕ふると同時に、法人所有の土地に就ては先づ一九一四年四月五日に課徵し、其後十五年每に評價課徵することゝし、獨領時代の膠州に於ては土地の賣買の際課徵するの外、直接稅として單り法人のみならず自然人に對しても、其の土地の所有二十五年以上に及ぶ時は之れを評價課徵した。獨逸帝國稅法に於ては、土地の所有權移轉の場合にのみ課徵し、謂ゆる定期課徵を爲さゞる點に於て他と稍其の趣を異にして居る。蓋し定期課稅は蓋未だ現實に取得せざる增價を奪ふことゝなり、從つて當を得ざる所があり、移轉增額取得の場合に比し多少苛酷なるの感があるが爲めである。

關東廳に於ては、間接稅としては土地所有權の有償移轉ありたる時、間接稅としては十五年間土地所有權の有償移轉なき時、この二つの場合を捕へたのであるが、我が勅令案にあつては、會社所有の土地は十五箇年每に地價を評價として課稅し、謂ゆる定期課徵を爲すのみならず、更に間接稅としても有償移轉の場合及び無償移轉の場合をも課徵せんとするものであつて、前者に比し新機軸を案出せるものと云ふことが出來る次に課稅物件に關聯して斯稅適用の地域及び土地の課目を限定すべきやと云ふに、英國に於ては或種の農業地を除くの外、全部に對しその增價を捕へ、又曾て獨逸の帝國增價稅法は地域及び土地の種目を限ることなく、內國に在る土地の所有權の移轉に際しその增價を捕へたのである。然るに獨逸に於ける斯稅の地方稅規則に於ては地目を區別するものが鮮くない。我が關東廳の規則に於ては、旅順、大連兩市及び別に指定するところの區域內に於ける民有地に付き之を適用し、斯稅施行の區域を設定したのである。併し都市計畫財源

として の斯税は、其の性質として都市計畫の施行せらるゝ都市に限らるゝものなるが故に、その施行せらるる區域も亦自ら明瞭であつて、殊に其の區域を定むるには及ばぬのである。

(ロ)增價額 次に課税標準たる增價額の決定方法及び遡及問題に付いて見るに、謂ゆる增價額は前取得價格(或は原始價格)と現在價格(或は時價)の差額より土地に加へられたる改良費を控除した價格でなければならない。然らば前取得價格は如何にして決定すべきやと云ふに、之れ頗る重大且困難なる問題であつて或は地租に於て定められた地價に據る可しとなす者がある。此の地價は明治四十三年に修正されたとは云へ土地の市場價格なるものとは固より非常なる懸隔があり、從つて直ちに之を採用することは出來ない。或は又都會地の土地に在つては保存登記又は移轉登記のなされざるものなきを以て、此の登記價格を以て前取得價格となすべしとする論者もある。前取得價格なるものを決定するにつき、別に評價委員會等を設けて地價の決定をなす場合は格別、然らざれば此の登記價格を以て前取得價格となすことは甚だ便利である。併し乍ら此の如き登記價格も亦決して市場價格に接近せるものではない。多くは登錄税との關係上極度に低價である。勿論登記所に於ても地價の標準を豫め調査し、時々之を修正して時價に近づかしめんことを怠れる譯ではないが、實際に於ては代書人の手加減によりて定まるものと見て差閊へない。

然らば理想的に云ふときは地價の決定は別に評價委員會を設けて決定するの外ない。之れ勅令案が地價の評價は市町村長が評價委員の意見によりて之を定むることせる所以である。併し乍ら現在の地價ならば兎に角數年前の地價をも決定せんとすることは餘程困難であつて、强いて之れを行はんとすれば、往々專斷に陷り不公平なる結果を生ずることになる。前取得價格を前登記價格によるものとすれば現在價格も亦之に據らざるを得ない。此の場合に於ける增價額は通例甚だ僅少であつて恐らく斯税徵收の目的を達することは困難で

あらう。獨逸領時代の膠州に於ける土地取得規則に於ては、政府は膠州の土地全部を占領前の價格を標準として見積りたる一定の賠償金を支那人所有者に支拂ひて之を買收し、又斯く買收したる土地を政府の公賣によりて賣下げ、その價格を土地登記簿に登記せしむることゝし、此の方法を以て前取得價格を一齊に決定し增價額の算出を容易ならしめたのである。因に英國法は前取得價格の語に代ふるに原始價格なる語を以てし一九〇九年四月三十日以後の土地の增價を查定評價したのであるが、之が爲め土地の評價事業は巨額の費用と異常なる困難とに遭遇し、一九一三年三月までの評價費用は百卅九萬磅、その翌年迄には二百十七萬八千三百九十七萬磅、一九一五年迄には三百萬磅に達し、評價局に使役されたる官吏の數は常に四千人を超へたのである。若し我國に於て評價制度を採用するとすれば、その方法如何によりては、英國の轍を踏まざるを得ない事になるから、此點には注意を拂ふ必要があると思ふ。（此項未完）

神社崇敬と近代的風潮

内務書記官　吉田　茂

近時神社に關する理論的卽ち社會學的、哲學的、宗敎的の研究が盛んに行はれて來たのは、甚だ悅ぶべき事であると同時に、最も注意を要する事であると思ふ。今日の社會においては神社が唯有難いから有難いと云ふ丈けでは人が滿足しない、何故に有難いか、何故に神社が日本の國に取つて大事なものであるか、と云ふことを明かにしなければ、人が納得せぬ樣になつて來た。之が爲め神社に就いて各種の方面から理論的の

研究が盛んに行はれる樣になつたのである。此事は將來も益々盛んにしなければなるまい。社會學的、哲學的、其他總ゆる見地から神社を研究して之を論ずるのは極めて必要な事である。

然しながら神社崇敬の實が斯くの如き理論的研究に依つて直ちに擧げられるかと言ふと、さうは行かない神社に關する學問を最も深くした人が最も敬神の念が深いかと言ふと之も亦自から別問題である。神祇崇敬思想の健全なる發達を圖る爲めには、一方において理論的研究を試み、國民の究理心に滿足を與へることも必要には違ひないが、それに依つて積極的に國民の情操を存養して各人の胸の裡に神社崇敬の念を燃すことが出來るかと云ふと、それは出來ないものと考へられる。理論の研究のみで神社の說明を爲すには足りない神社の價值を理論の上で確めることは出來るけれども神社崇敬と云ふ情操を國民の間に植ゑ付けて行くことは理論的研究の職分でない。然るに此事は動もすれば混同せられ易く、神社に關する論議が盛んに行はれる樣になつて來たことを以て、直ちに敬神思想が大いに興つたと云ふ風に觀察し、之を喜ぶと云ふ實例を耳にすることも少くないが、それは間違つた事で、若し斯くの如き事によつて日本國民の敬神思想が維持せられたとして安心して居たならば、將來或る時期において必らず敬神思想が思つて居つた程に涵養せられて居なかつたのを發見して吃驚する樣なことがありはしないかと危まれる。

神祇崇敬なるものは全く祖先から傳はつて來た日本國民の情操であつて、日本に傳はつて來た學問ではなく、要するに國民の心持なのである。國民の誰もが此の心持の芽生えを持つて生れて來て居るから、之を導くことが適當でありさへすれば、誰もが敬神家になり得るのである。又敬神の思想を助長發達せしむる爲めには單に理論を說いて聞かした丈けでは其の效がない。寧ろ理窟も何も言はなくとも立派に目的を達し得るやうな實例が澤山ある。現に明治神宮御造營工事の奉仕青年團の如きは其の一例である。此の青年團の人々

が東京へ到着した時には、御造營工事の手傳ひをする前に、明治神宮の大前に參拜する、其際には神職が祝詞を奏し、團員等は明日から私共は明治神宮の御境域内において御造營の御手傳ひを致しますと云ふことを神前に奏上し、其の翌日から御造營工事の御手傳ひに着手することになつて居る。此等の青年は斯く明治神宮の大前に參拜し、斯くの如き行事によつて森嚴な靈感に打たれ、それから御境域内で御祭神の御照覽があると云ふ信念の下に、十日間工事の御手傳ひをするのであるが、我輩の見る所では、此等の青年は明治神宮の御祭神と最も緊密に最も熱烈に相通じ奉ることが出來て居ると考へられる。此の境地に立ち到れば、此等の青年に取つて最早何等の說明を要しない、或は說明をする餘地がない、寧ろ說明を絕した境地であると思ふ。生半な說明を下すことは却つて其の心持を覆へす嫌ひがないでもなからう。

斯くの如き實際の敬神思想の發露と云ふものを取つて來て、之を神社に關する學問的の說明と對照して見ると、兩者は全く其の性質、職分の違ふことが分る。兩者相互に援け合ふことはあらうけれども其の一を以て他に代へることの出來ぬものであることは誰しも了解し得らるゝ所であらう。鳥渡考へて見ると、理論的の硏究と實際思想の涵養とは同じ事であるかの樣に誤解される虞れがあるけれども、實際的の敬神思想は理論の上から割出して生れて來たものでなくて、日本國民の精神その者であり、先祖から持ち傳へて來た日本國民の信念であり、情操であり、また我等の國民的性質であると云ふことを覺得せしめなければならぬ。此の性質を燃し立てることが謂ゆる敬神思想を大いに發揚する事になるのであつて、理論的硏究よりも此方が大切であるから、世人は能く此點を熟知されて置く必要があると思ふ。

歐洲の大戰後各種の新しい思想が我國にも入つて來る樣になつた。其の中には甚だ危險な思想もあり、極端な主張もあると云ふやうな譯で、此の新思想が入つて來たに付いて、之に對抗するが如き意味から、日本

の國民道德、或は神社に關する日本人の觀念と云ふものが問題となる樣な時期になつて來たが、右は餘程戒心しなくてはならぬ事であると思ふ。新思想の入つて來る防禦の材料として神社を持出すが如きは甚だ感心し難い事である。今日は日本の國に取つて危急存亡の秋である、大いに敬神の念を發揚せしめなければならぬと云ふ樣な意見を持たれる人もあらうと思ふが、重大な時期であるが爲め、又外部から入り來る思想に對抗するが爲め、特に敬神思想を發揚させるといふが如き手段に出づるのは餘程考へ物であらうと思ふ。危險な外來思想に對する對症的の押へ藥として神社を使ふが如きは事の本末を誤つた考へ方ではなからう乎。斯くの如き目的で敬神思想の發揚と云ふことに努めるならば、之がために却つて神社の尊嚴を冒瀆し、敬神の本義に徹することが殆んど難かしからうと思はるゝのみならず、外部から今日の如く盛んに新思想の入つて來ない時には神社の必要がないと云ふ結論にもならざるを得ない樣に思はれる。

神社なるものは時によつて必要であり時によつて無用であると云ふ樣な便宜の目的に供せらるゝが如きものではなく、日本の國を組織する一部として、日本國民の精神の特徵として、昔から極めて自然に發達して來たものである。神社は我等の體と切離すことの出來ない我等の精神力の發現そのものである。であるから今日の如き危局に際しては、極力國民の身體を强健にし、精神を健全にし、氣力を充實せしめて、如何なる病患が來てもそれに打克つて行き、外部から來る各種の刺戟に十分堪へて行くだけの覺悟を抱かしめなければならぬ。若し然らずして、一時的療法、例へば感冒の時にアンチピリンを飲む樣に、國民の解熱劑に神社を供すると云ふが如き念慮を起さば、それは神社の本質と甚だ遠ざかつた思想であるし、又斯くの如き對症藥ばかりを用ふることは、國民の精神を健全に發達せしめて行く所以ではないのである。外部から來る刺戟の如何を問はず、常に國民の心身を剛健にし、如何なる疫癘が外部から襲ふて來ても、能く之れに堪へて行き

縱ひ食ひ慣れぬ物を食つても十分消化し得ると云ふやうになつて、始めて神社の日本國民に對する價値、神社の國民生活上の意義と云ふものが、其の働きを完うすることにならうと思ふ。

今日の如き社會においてはまだ他にも注意すべき點があらうが、如何なる所に向つて力を注ぐべきかと言へば、前述の如き途に出で、先づ神社の本義と云ふものを常に吾人の念頭から去らしめない樣にする事である。神社は日本國民の崇敬と云ふことの上に成立つて居る。神社崇敬の精神は、吾人の祖先から傳へて來た所の貴重なる國民的信念であり、日本の國民性であり、日本人の生活から切離すことの出來ないものである社會生活が複雜になつて來ると、一時斯かる國民性の閑却される樣なこともあるべく、都會地の如き雜沓する處においては、神社の事など一時忘れられて居ると云ふ樣なこともあらうが、さう云ふ人々でも、一朝新開地とか植民地へ行つて新しい生活を營む樣になると、皆それ〴〵神社を祀り、其處に人々が集まり、之を其地の崇敬の中心として仰ぐと云ふ樣な風がある。是れ我が國民性の自然の發露である。要するに、敬祖の思想は日本國民の誰しも持つて居る貴重なる情操である、と云ふことを忘れぬといふ點が、最も時弊を避けて行き、此の思想の健全なる發達に資する所以の根元であらうと信ずる。

文化の意義と滿蒙開發

宮野庄之助

世には文化洗濯又は文化料理などの言葉もある。これは一見嗤ふべき文化の濫用らしく思はるゝけれども

例へば森本厚吉博士の唱へる文化生活の如きは、この文化洗濯、文化料理と果して幾千の距離があるであらう乎。森本博士のやうに文化生活を解して、住宅の建築及び間取をひたすら現代科學の命ずるところに一致せしめやうとすることは、文化生活を要求する人々をして悉くブルジョア階級の水平線にまで引上げしめねばならない。ブルジョア階級にまで引上げられない限り謂ふところの文化生活を營むことを得ない。言葉を換へて云へば、社會構成の大多數的要素であるプロレタリアの階級に屬する人々は、森本博士の謂ふところの文化生活は斷じて營むことを得ない。文化の一事象としての文化生活たるものは果して此くの如くブルジョア階級に獨占せらるべきであらう乎。私は大いに惑ひなきを得ない。

私はまた近頃或る人が、凡そ文化なるものは生活の安定である、享樂であると論じて、文化が産業の勃興貿易及び商業の隆盛となつて當然持ち來たさるべきを説いてゐるのを讀んだことがある。けれども私はこの議論にも賛成することが出來ない。私は文化の進展するに從つて、産業が起り、商工業が盛んになることはあつても、それが逆しまに産業が起り商工業が盛んになつて、始めて文化の創造、發展が行はれるものだとはどうしても考へられない。汽罐の發明が先行して列車が作られそして軌道が布かれたのである。現在私どもの眼の觸るゝところでは、軌道が布かれてから其の上を汽罐が列車を曳いて馳るのであるけれども、それは事の結果であつて、最初の順序は全然それと反對であつたのである。

物質的資料を豐富ならしむることによつて、文化生活が始まると考へるのは、私から云へば疑ひもなく順序の顚倒である。更に他の例を示せば産業が勃興し、商工業が隆盛になれば、人々の生活が安定し、人々の生活が享樂的になると云ふことは、歴史的事實とも合はない。謂ふところの資本制社會組織に於ける産業の勃興、商工業の隆盛は、百花燎亂たる春の野の如く眞に目も眩むばかりであるが、社會構成の大多數的要素

である無産階級の生活は益々粗野となり、俗惡となり、非人間的となり、其の勞働は一個の商品として賣買され、謂ふところの賃金奴隷なる新しき奴隷制度をさへ産むに至つた。現代に於ける社會問題の中心點がこの賃金奴隷制度の撤廢卽ち賃金奴隷の解放に存することは私の改めて解說するまでもない所であらう。世界の文化史上に燦然として輝くところの太陽であり大恩人である大宗教家、大哲學者、大藝術家及び大文學者達の現實生活は、縱令總てがさうであつたとは云へなくとも、殆ど九分通りまで物質生活には極めて窮乏であつた。然も此等の人々の生活が文化的でなかつたとは何人か斷言出來やうぞ。

文化は價値である、人格である、隨つてそれ自身自律する。謂ふところの文化生活は決して眞の文化生活でない。其の文化のにせものである點に於ては、文化洗濯、文化料理と少しも選ぶ點がない。文化は價値であり、人格であるが故に、又人間が人間性の尊とさに眼覺めることである。この芽生ゑを抱きかゝへてすぐよかに哺み育てることである。文化は自然と相ひ對する、個人を、國家を、社會を自然的でなく價値的ならしめることが文化である。その人を人間として價値あらしめ、その社會を社會として價値あらしめ、その國家を國家として價値あらしめることが文化である。産業の勃興や商工業の隆盛は、人々の生活を享樂的、幸福的にすることがあるかも知れない。然しながら人生の目的はそんなところにない。さうした物質の上にのみ人生の目的は立てられない。人生の目的は人格の完成にある。人格的完成への道、それが私の云ふ文化だ私の答案に書かれる文化の語義だ。果して諸賢の首肯を得るであらうか。

『文化』の語義を斯の如く解釋する私が、謂ふところの文化の開發を敎育普及の效果に待たなければならないと主張するものであることは、恐らく何等の說明をも必要としないであらう。隨つて私は産業の勃興や商工業の隆盛が文化の母であると主張する論者に反對、少くとも贊成しない立場を維持する。私が玆に敎育と

ことを目的としなければならない、顔回は肱を曲げて眠る、樂、其の中に在りと云つた。孟子は千萬人と雖も我れ行かんと云つた。ソクラテスが從容として獄裡に毒を服したのも、ニュートンが眞理の濱邊には無數の眞砂あり、予は僅かに其の一顆、二顆を拾へるのみと云つたのも、私の見るところに從へば、まことの意味に於ける文化生活の體現であり、又その神髓に徹底したものである。それ故に私は今、謂ふところの滿蒙の文化開發を唱道する人々に對しても、文化なるものは生活の安定である、享樂である、而して生活の安定享樂は產業の勃興、商工業の隆盛に基くとの見解を取らるゝ限り、その說くところが如何に巧妙であつてもそれは私ども多數の人類が、その重き軛に惱み苦しみ悶ねつゝあるところの近代文明の餘弊を素朴なる滿蒙の天地に輸入し移植するものである、と云ふ非難を浴せなければならない。

歐米に發達したる文明及び其の模倣に過ぎない現代日本の文明とを輸入し移植することが滿蒙文化を開發するものでは斷じてない。滿蒙の文化を創造し、滿蒙の文化を進展せしむるものは、滿蒙の天地と人とあるのみだ。古往今來數千年の久しきに渡つて滿蒙民族の間に生れ、育ち、受け嗣がれつゝある人間的努力の流れに棹してこそ、始めて其の文化を開發することが出來る。彼等の宗敎、彼等の藝術、彼等の言語、彼等の政治、彼等の道德を無視し、或は侮視して、ひたすら西洋文明の光輝に眩惑し、奪ふべからざる優越的態度を以つて望むとも、私は決してそれによつてまことの意味に於ける滿蒙文化の大業を成就し得ないことを充分に確信する。滿蒙の廣野には無限の物資が貯藏されてゐると云ふ。然しながらその物資を開發することは謂ふところ滿蒙の產業開發であつて、文化開發ではない。電力を應用し、器械を應用し、滿蒙の農業に一大改革を加へることや、牧畜を改良することや、諸種の工業を起すことや、或は謂ふところの鐵道網を張つて

運輸交通に貢することや、それらの施設がいづれも滿蒙の產業開發に多大の貢献をなすであらうことは、私といへども決して疑はない。けれども產業は文化の母でもなく又双生兒でもあり得ない。滿蒙の富が今日に幾百倍、幾千倍し、商工業が大いに進步し、滿蒙民族の生活狀態が、日本人の如く、西洋人の如く文明的にならうとも、それがまことの意味で云ふ滿蒙文化の開發では斷じてあり得ない。

ペンテイーやコール等の所說を引合に出すまでもなく、西洋諸國の社會諸相は、充分文明的であり得ても同時に充分文化的であるとは云へぬ。文明の花が爛熳と咲き亂れ、紅黃姸を競ひつゝあるが如き西洋諸國に見らるゝ殘虐な社會的缺陷は、抑も何處から生れ落ちたのである乎。文明は文化でない。謂ふところの文明が、如何に人間の靈魂を嘆かしめ、如何に人格を傷ひ、價値を傷ひつゝあることよ。人生の目的は、人間の靈魂の底より流れ出づる祈願は、人格完成への限りなき戰鬪であり、執着であり、愛である。物的生活資料が豐富になることでもなく、電信や電話や飛行機や鐵道や汽船やが完成に設備せられることでもない。軍艦や大砲の製造が益々盛んになり、其の組立が益々精巧になることでは素よりない。キルドへの回歸が社會改造の有力なる提唱として硏究され、論議せられつゝあるのは、抑もまた如何なる理由に基くであらう乎。ギルドへの回歸は中世的產業組織への回歸である。それは明らかに文明の退步であらう。けれども新らしき文化の創造發展の爲めには、眼覺めたる西洋の學者達は、敢へて荊棘の多かるべき道をも選ばうとするのである。私達は深く此の點に於て彼等に學ぶところがなくてはならぬ。滿蒙の文化を開發することは、滿蒙の產業を盛んにすることではない、滿蒙民族の生活を享樂的ならしむることではない。如何なる意味に於ても幸福即ち文化ではない。滿蒙の文化開發とは滿蒙民族の靈魂を其の深き眠より搖り覺ますことである、さうして彼等の宗敎、彼等の藝術、彼等の言語を再生せしめることである。



健康保險法と其の效果

石黒覺治

內務省當局者は、曩に失業保險に關する法律を制定し、一般失業者の救濟に資せんとしたが、更に健康保險の法規を公布し、昨年より實施の筈なりしに一年間延期し、此の大正十四年十月より實施せらるる事となつた。該法施行に依る效果並に勞働者の負擔に關しては次の如き解釋が行はれて居る。

一、健康の保持增進
一、經濟的生活の安定
一、產業能率の增進
一、醫療施設の改善
一、社會的地位の向上
一、勞資間の協調
一、社會的教育

以上の各項は、該法に依つて被保險者たる勞働者又は小額所得者の受くる利益と更に其の向上發展への效果を豫覺せしめたもので、卽ち下級生活者が單に充分なる醫療を受けられるばかりでなく、金錢上にもまた相當の補助を受くることが出來るのであるから、之れに依つて勞働者も小額所得者も等しく生活上の安定を求め得られる事となるのだ。

醫療施設に就いては、國家が之を行ふが故に、その整備は勿論、且つ簡易に診療を受くる便宜を得られる。斯くして勞働者の健康を保全し得る結果、物質上にも精神上にも一定の安固を得、其の餘裕に依り修養の途を開き、子女の教育、一般生活の改善等に心を用ふることも出來、漸次社會的地位の向上を招徠することゝなるであらう。更に進んでは、思想方面に於ても、自然的に穩健着實に歸し、勞資間の協調にも好果を得らるゝと共に、過激思想傳播の防止ともなり、また一般的には保險思想の普及を來し且つ健康保險組合、健康保險審查會等に被保險者自

ら干與する事を得る爲め自ら獨立精神を涵養し、社會教育上にも好影響があるだらう。

そして一方において、國家は健康保險實施の結果年額四百萬圓の支出を負擔し、事業主は毎年其の使用する從業員報酬の百分ノ二に相當する保險料を負擔する事となる。此の國家の負擔四百萬圓の如きは之れに依つて多大なる效果を被保險者に與へ、間接には國家の産業增進を來たすものとなるから、其の負擔は其の利益に比して全く僅少なるものと云ふべきである。又事業主の負擔も産業能率の增進に依り之れを回收し得ること勿論である。先年彼の工場法施行の際には、事業主側が直接の負擔を恐るゝ結果種々苦情を鳴らし反對もしたのであつたが、實施後却つて勞働者の勞働能率を增したるに鑑み、寧ろ實施の遲かりしを憾むものすらあつた。健康保險についても當局は同樣の結果を豫期して居る。

同時に現在の共濟組合、其他工場法や鑛業法に依る扶助義務を負擔しつゝあるものゝ大部分は、健康保險實施後不必要となり、其の負擔を免るゝのである。新法の保險料は恐らく前者に對する負擔額よりも尠かるべく、且つ從來扶助の義務を生じたる場合事業主は一時に其の負擔を支出したが、健康保險にありては毎月平均して之が爲めに出金する事となるので、負擔は一層輕減せらるゝであらう。

以上は健康保險に依る其の效果並に國家と事業主の負擔について簡單な說明を試みたのであるが、翻つて被保險者の負擔について之を見るに、被保險者は其の報酬の百分ノ一を保險金として積立つるものにして、一日最低額四厘、最高額八錢（平均一日一人二錢六厘）、即ち煙草（敷島）三本乃至十一本の節約を爲すに過ぎず、而かも此の僅少なる負擔に依つて從來の如き恩惠的施設の效濟を受くると云ふが如き狀態より脫出し得られ、勞働者各自の當然の權利として保險給付を請求し得ることゝなるのであるからその精神上の愉快は非常なものだらう。

健康保險實施の結果、生産品の價格如何と云ふに或る者は當然其の騰貴すべきを主張するも、夫れは早合點であると思ふ。健康保險の給付に要する負擔の內、被保險者並に國家の夫れを除きて、事業主の擔負額が直ちに生産品に及ぼし、消費者に轉嫁せらるゝ場合を豫想し得ざるに非ざるも、惟ふに經濟界の事情は必ずしも之を許容するもので無い。前に述

べたる如く、事業主の新負擔は頗る輕微なるが故に其の影響は寧ろ絶無と云ふを憚からない。

更に外國の例に見るに、一九一一年獨逸に該法適用の結果、各種工業につき事業主の意見を徵して議會に於て發表したる文書に依れば、社會保險（健康保險と同樣のもの）に依り勞働者の經濟生活を安固にし、健康保全を期し得たるため、其の生活程度の向上及び能率の增進を來し、一般產業界に好影響を與へたるを以て、事業主は此の施設に對し喜んで其の負擔を爲すの現狀なりとある。現在日本に於ける共濟組合機關は幾多の缺陷があつて常に忌はしき不祥事を耳にする事であるから、健康保險の實施は此點からも極めて必要であると言へる。

通貨より觀たる滿洲の社會

田邊剛三

街上の人、殊に此の滿洲の土地に生まれ其の土地で育てられた人々に「貴方は金貨が好きか又は大洋が好きか」と斯う尋ねると、彼等は「それは大洋が好きです」と答へる。支那は元來銀本位の國で到る處に於て行るゝ大小取引は總て大洋本位である。私は社會的見地から此の通貨の關係を研究し、眞に日支共存共榮の實を擧げるには、深く此點に考慮を廻らす必要のあることを感じた。仍つて今それを記して大方の示敎を仰ぎたいのである。

偖て我日本が滿洲の經濟的開發を圖るが爲めには先づ第一に自國貨幣を以つて通貨とする事にしたが之れは別に自國の勢力云々と云つた譯では無論なからうと思ふ。日露戰爭の際に便宜軍票を發行した關係上それが今日に及んで居るのであらう。然し玆に研究を要する問題は此の金票が滿洲の社會に及ぼした影響如何と云ふ事である。曾つて此の土地に生まれた古老の談話に依れば、金票出現以前における土着支那人の生活狀態は非常に簡易で、一人の勞は四

五人の家内を養ふて尙ほ餘りある狀態であつたと云ふことだ。然るに一たび滿洲に金票の流通を見るや直ちに金銀の交換相場が到る處に行はれ、其の結果第一に支那人の生活の背後に一つの陰影を投げ與へた。卽ち物價は常に動搖し、次第に高値を唱へ、而も勞銀は是れと並行せず、斯くして今日に到つたのである。所が玆に又一つ珍現象とも稱すべきは一方における支那人の經濟的發展である。日本人は自國貨幣を基準として居るのだから、自己の便も亦大なるにも拘らず、物の價値を決めると、甚だ面白からぬ結果を生じ、その土地に於ける交換價値を見定めることが困難となつた爲め、物價の標準はこれを東京及び大阪等に取り、其の結果、上海、哈爾賓、北京、天津、漢口等に比較して物價は或は數倍或は二倍或は一倍半になつた。此の間隙を狙つた支那商人はその天性の理財力を現はし、四千餘年來の長い間に養つた先天的の巨腕を振つて利潤の計算を硏究しさうして外國銀行、外商、上海方面の商人等と結んで金爲替の運用を計り、次第に根强く經濟的大發展を遂げたのである。殊に彼の大正八年前後の好況時代には大いに自國貨幣の暴騰を計つた。

此際彼等は早くも大恐慌來を豫想した。之と同時に、堅忍不拔の資本家は將來における自國の大生產を見越して、新製の機械、器具を非常な安價で自由に輸入せしめ、これを工場地に向つてドシドシ送つた。之がために長江方面の爲替相場は益々好況を呈したが一方金貨は益々下落した。大連方面は益々輸出が熾んになるので通貨の膨脹と相待つて其の國人を醉はした。猫も杓子も投機虛業に浮かされた。是等の成金は固より眞面目な事業を好まず、砂上に樓閣を築くことに腐心し、隨つて其の生活は大いに亂れたが、之れに伴ふて發展したのは遊里である。遊里の發展と共に、遊女等は異樣な聲音を出して遊蕩的の彼等の爲めに讃美の歌を高らかに唄つたが、一方彼等の家庭には愛の饑渴を叫ぶ小さな奴隷が生まれた。何と云ふ皮肉な珍現象であらう。

兎角する中に歐洲戰爭は止んだ。平和の聲は隨處に起つた。それと同時に來たのは反動的不況で、それが年を經るに從つて益々深刻となり、現代文化を誇る人類も之れに敵し兼ねてバタバタと斃れた。引續いて整理緊縮の警鐘が四方八方に鳴り響いた。貿易は逆調、爲替も逆調、物價も金利も依然として高

位、斯ういふ結果になつて、砂上の樓閣は悉く倒壞して了ひ、社會には慘風悲雨が狂ひ廻り、青い顏をした半病人のやうな憐れな有樣となつた。一方支那人勞働者は物價が幾分下落しても從前の比ではないので自然に高率の賃銀を得なければ止まぬ樣になつた。而も事業界疲弊の結果として、身體を唯一の資本にして働く勞働者殊に自由勞働者の賃銀は次第に下向きとなり、是まで六十錢であつた車賃が十五錢十錢に低下すると云ふ有樣だ。そこで彼等はお客樣たる纖弱い婦女子又は土地不案内の珍客に向つて高賃銀を強要する樣になつた。其間に立つて獨り甘露の味に舌皷を打つのは兩替業あるのみ。馬鹿を見るものは誰であらうか。更に銀行は相率ひて金融を硬塞する。事業は起らない。農業者は食料を高く釣上げる。生活は益々困難に陷る。貨幣價値は目茶々々にされる。金も銅も殆んど同一價値視される。貨幣價値の下落は則ち物價の騰貴であつて、此間には勿論いろ〳〵な物價調節策など行はれたけれども、物價は依然として同一レベルの上に止つて居る。時期を見て再び反撥せんとする勢さへ見ゐる。

世界的不況は殊に滿洲を強く見舞つた。復興策とか立直し策とかの聲も高まり、その計畫もあつたが小策を弄するので却つて不景氣の上塗りをした樣な所がある。凡そ物の根本に觸れず唯徒らに末梢に走るは最も誤れるものだが、滿洲の邦人は此點の過誤が殊に多いため、遂に今日の如き悲慘なる社會狀態を現出せしめたのである。苟も海外に在るものは先づその土地及びその國人と親善關係を結び、そして共存共榮の實を擧げなければならないが、それには先づ第一に其の土地の土着人に對する同化的施設をなし、彼等の社會、風俗、習慣等を究め、相互に文化の長所を發揮して、玆に新文化を建設せねばならぬ。更らに彼我の生活狀態を考慮し其の土地固有の通貨を標準に生活の基本單位を定めなければならぬそれが根本問題である。然るに現在における日支人彼我の生活狀態如何を見ると、大分相異があり、日本人は常に二種の生活樣式に置かれ、得たるところの通貨は或る意味から言へば相場變動に依る生活の脅威を受ける事になる。之れでは社會における最大多數者の幸福が庶幾される道理はない。

邦人資本家の内には海外投資の希望を有する者もあらうが、本國と同一の貨幣價値、並びに一樣の標

準に制せられ、加ふるに海外投資の危險を思ひ、容易に手を出さない。若し我國の幣制が銀幣本位であつたならば、常に動いて居る爲替相場の高低の機を窺つて、彼等も海外に放資を試むるであらうが、そんな事は固より望まれない。眞面目に考へる實業家は餘程のいゝ條件を付し更に之を保護助長するといふ保證のない限り容易に投資すまい。翻つて滿洲の銀行は邦人救濟とか市場繁榮とか云ふやうな合理的な方法を考へる餘裕がない。這般の爲替で喜捨した大穴の爲めに寧ろ四苦八苦の態だ。一方爲替兩替業者は「私は金が本位です、私は銀が本位です」と云ひながら、裏に廻れば將來の生産は土地である、お前の爲替の缺損は私の利潤として頂戴しやうと云ふやうな始末であつて、頓と埒が明かない。滿洲の社會狀態が惡くなつたのは當然である。

在滿日本人の社會的現狀は凡そ以上の如くであるが支那商人の現在の隆盛は何を意味するであらう乎私は思ふ、一は社會力、二は金融上の共調、三は金銀による爲替の利用、是であると。現在市場における同一マークの商品は、彼によれば安價を以つて仕入れられ、同じ市場に於ける邦商を壓倒せんとして居るではない乎。又彼等は常に邦人の買物心理の研究に努力して止まない。殊に彼等の社會は邦人社會の遠心的なるに反して求心的であるため其の共同繁榮の實は着々として擧げられて居る。社會の信用制度も實に鞏固なものである。此くの如くにして彼我の間には非常な懸隔を生じた。金と銀との二樣の貨幣の爲めに起つて來る所の利害は我等邦人の一大痛手と謂はなければならないが、之がために市場を荒らし、支那人との經濟生活の上に於ける共存共榮の趣旨を却つて害する事がありはせぬ乎。故に我々は大いに此の金銀爲替に依る社會進展の如何を研究し共存の社會、共榮の社會のために最つと眞面目に富の本質を考へなければならぬと思ふ。

通貨より觀たる滿洲の社會は、大體斯うした狀態になつて居るが、此間には我が經濟策の過誤も多量に含まれて居るのである。土着支那人との關係についても、日本人の經濟的考慮は淺薄であつて、其の淺薄なる考慮から好んで自分を窮地に陷れる樣な事にもなるのである。金融業者の態度、本國と異なつた處における金融政策の如何も、此の問題と共に今後大いに改める必要があると思ふ。

國際勞働總會の結果

總會に於て採決したる勸告及び條約案

昨年（大正十三年）六月十六日瑞西國ジュネーヴに於て開催せられたる第六回國際勞働總會は二十日間に亙つて極めて愼重にその會議事項を審議し七月五日閉會した同總會に於ては主要會議事項たる「勞働者の餘暇利用に關する勸告案」を採擇したるが其の勸告案は實に左の如きものである。

　勞働者の餘暇利用に對する便宜促進に關する勸告

華盛頓に於ける第一回總會に於て採擇したる一日八時間及び一週四十八時間制に關する條約は勞働者に對し必要なる睡眠時間の外勞働者をして其の欲する所を爲さしむるに充分なる時間を保障することを主要の目的となしたるが總會は勞働者をして其の餘暇により自由に其の身體上、智能上、道德上の能力を發達せしむる事而して此の餘暇は文明の進歩に取り貴重なる價値を有するものなるに鑑み又餘暇の適當なる使用は勞働者に對し一層變化ある福利を求むるの手段を與へ且其の日常の作業の疲勞を緩和せしめ依て以て其の生産能力を高め其の生産額を増加せしめ得べく斯くして八時間制より最大限度の經濟上の能率を獲得すべきに鑑み又諸國の風俗及び地方的事情は充分に之を考慮すべきも最も能く一般的に餘暇を利用するに適當なる原則及び方法を定むること及び或國に於て之に關して爲されたる業績を各國に知らしむることの有用なるべきに鑑み更に時間制に關する條約が各締盟國において批准せられ而して又實施せらるゝ際において斯る智識を利用せしむることは特に必要なるべきに鑑み各締盟國に對し左の指導的原則を考慮せんことを勸告す。

　法律により一日勞働時間を限定したる締盟國が斯る措置に依て賃銀勞働者又は社會の爲めに期待する所の總ての利益を得んと欲するときは勞働者が其の餘暇の時間を完全に利用することを保障する手段が執られざるべからざるに鑑み總會は（a）勞働者に於ては彼等に與へられたる餘暇の價値を充分に尊重し

且如何なる事情に於ても之を完全に保持することを努むること(b)使用者に於ては常に勞働者の生活に注意を拂ひ而して其の必需品を得るに足るべき賃銀を與へ以て勞働者をして餘暇の時間中に於ても規則的に賃銀勞働を爲すが如きことを不必要ならしむるやう努むべきことの希望を表示す。

法律により規定せられたる勞働時間以上に同一の使用者又は異なれる使用者の許に於て規則的に賃銀勞働を繼續することを立法により禁止することは之が勵行困難なるのみならず勞働者が其の欲する所に從つて餘暇を利用するの權利を侵害するの虞あるも總會は尙之に關して數國に於て採られたる措置につき注意を喚起するを適當なりと思考す。

更らに餘暇を最も能く利用することを得る爲めに凡ゆる種々の便宜が與へらるゝを要し斯くして始めて餘暇の充分なる利用が確保せらるべきに鑑み總會は左の事項を行はんことを勸告す。

地方的慣習、產業の必要、各種の勞働者の特性又は傾向を能く參酌して各締盟國は餘暇の時間の最大の繼續を確保するやう勞働時間を按配するの方法を研究すること(例へば各班の交替晝休時間の短縮、季節により勞働時間を按配すること等)、善く計畫せられたる運輸制度を實施するの必要は言ふ迄もなく更に運賃の低減及び適當なる時間割に依り勞働者の家庭と勞働地との間に於て費さるる時間を可及的短縮すること又斯る制度の最善の計畫方法に關し公の又は私の運輸機關は廣く使用團體及び勞働者團體と協議すること

總會は諸國政府に對し集合協約の締結を助成し該協約に依て法定の勞働時間に對し勞働者の普通生活標準を確保し且使用者及び勞働者間の任意契約に依り勞働者が他の賃銀勞働を爲すことを防止する爲め採るべき措置を決定せんことを勸告す。

勞働者の餘暇の利用に對する便宜は社會が社會の各階級の健康と福祉との增進の爲めに採る一般的措置と分離することは能はざるにより且其の解決が勞働者の生活狀態を改善するに與つて力あるべき福祉上の重大問題及び其の各個につき詳細に研究することは之を避くべきも總會は之に關して左の措置の重要なることを締盟國に向つて注意を喚起す。

必要なるときは國及び地方廳の援助に依り相當の健康と愉快とを保障する條件の下に田園都市を開設し或はまた郊外に低廉なる家賃にして且相當規

模の住宅を建設すること

公衆浴場又は水浴場等を設くること

アルコホルの濫用、肺結核、花柳病及び賭博に對する立法的又は私的行爲

其の個人趣味に從つて其の餘暇を自由に使用する機會を勞働者に與ふる所の而して其の發展は各國の風俗及び習慣にのみ係る所の無數の施設物間に或る差別を設けんとは無さゞるも總會は特定の要求に應ずるにあらざる施設物を創設することを避くるに依つて努力を集中するの緊要にして且極めて必要なることを指摘すること又各種の勞働者の爲めに該施設物が創設せらるゝ其の勞働者の要求、趣味及び特殊の希望を充分に考慮するの重要なることを力說することも亦有用なるべしと思考す。

總會は同時に個人の完全にして調和的なる發展を助け且社會の進步に貢献し得る施設物のうち特に左記の目的を有するものを推獎す。

勞働者の家庭經濟及び家庭生活の改善（例へば勞働者庭園、狹小の畑地、家禽飼育等）　そは娛樂の利益と多少なりとも家庭の收入を增すとの感情を融合せしむるものである。

運動競技に依る體力及び氣力の增進　そは近代的産業に伴ふ極端なる分業に從ふ青年男女に對し獨創性及び競爭心を奬勵する方法として其の活動力を自由に發現せしむるものである。

技術的並に一般的教育の促進（例へば圖書館、讀書室、講演、技術に關する課業、教育的課業等）　そは筋肉勞働者の痛感する必要に應ずるものなるのみならず常に勞働者がより多くの餘暇を要求したる又産業社會に最も確實なる進步の手段を供與したる根本原因たるものである

故に總會は締盟國が勞働者の道德上、智能上及び身體上の發達を目的とする團體に對し補助を與へ以て此種の活動を奬勵すべきを勸告す。

（二）大産業國の勞働者は常に工場及び製造場以外に於て完全に自由且獨立に生活を爲すことを確保せんと努めたること又此等の勞働者は特に其の感情の熾烈なるの結果其の自由を減縮せらるゝやも知れずとの危惧よりして餘暇の利用に付ては國內的にも國際的にも之を審議せんとする企圖に對し反對を惹起するものあるに鑑み總會は勞働者に或る特定の施設物の使用を餘儀なくせしむる如き直接又は間接の企畫に對し勞働者の個人的自由を保護するの必要なることにつき注意を喚起す又總會は最も實際的にして

且實效ある施設物は勞働者自身の力にて創設し發展せしめたるものなりと思考する。

總會は公の機關又は使用者が勞働者庭園、運動競技又は敎育的施設の奬勵の爲めに財政的其他の援助を爲し之に依て其等既設の管理に參與する適當なる權利を有する場合に於て個人的自由を毫も害せざるやう深甚なる注意を爲さんことを勸告す。

(二)總會は餘暇利用業務に關する系統的組織につき考究せずと雖も之を助成するために爲されたる若干の成功せる努力に促されて各締盟國が公の機關の代表者及び使用者團體並に勞働者團體の代表者より成る地區的又は地方的委員會にして娯樂機關を備ふる各種既設物の活動を調整する委員會の創設を促進し得るや否やを考究せんことを勸告す。

(三)總會は尙ほ各國に於て勞働者の餘暇を適當に利用する必要なることにつき世論を喚起する爲め有效なる宣傳の爲さるべきことを勸告す。

總會は各締盟國が餘暇の利用を促進せしむる爲めに執りし措置につき可及的詳細なる報告を毎年國際勞働事務局に提出せんことを勸告す。

總會は國際勞働事務局が餘暇利用に關する新資料を蒐集し且締盟國より提出せらるゝ年報を基礎として諸國において爲されたる努力及び獲られたる結果の概要定期に刊行せんことを希望す。

次に勞働者の災害補償に關する内外人勞働者均等待遇の條約案及び勸告、タンク竈を使用する硝子製造製工程週休に關する條約案並にパン製造業に於ける夜業に關する條約案は孰れも本年は假採決に止め確定採決をば明年の總會に讓つたが各條約案及び勸告案の内容は次の如きものである。

勞働者の災害補償に關する内外人勞働者均等待遇の條約案

第一條　本條約を批准する國際勞働機關の各締盟國は該條約を批准する他締盟國の國民にして自國の領土内に於て起る產業災害の被害者たる勞働者に對し又は該勞働者の承繼人に對し勞働者災害補償に關して其の自國民に附與すると同一の待遇を與ふることを約す右均等待遇は外國人勞働者及び其の承繼人に對し居住に關し何等の條件を附せずして之を保障すべし若しそれ締盟國が本原則の適用上その採擇すべき措置については關係締盟國間に於て特別の協定を爲すべし

第二條　他の締盟國の領土内に存在する事業の利益の爲めに一時的に又は間歇的に一締盟國内に於て

雇傭せらるゝ勞働者につき生ずる産業上の災害に對する補償については關係締盟國間における特別の協定に依り其の他國の法令により支配せらるべきことを定むることを得

第三條　本條約を批准する締盟國は更に本條約の適用に勞働者災害補償に關する各國法令の執行を容易にする爲め相互に援助を與ふるを約す

第四條　勞働者災害補償に關する現行法令中の變更は之を國際勞働事務局に報告し國際勞働事務局は他の關係締盟國に之を通知すべし

第五條　本條約を批准する締盟國にして勞働者災害補償の制度（保險又は其他の方法に依り）を有せざる國ある時その國は本條約の批准後三年以内に該制度を設立することを約す

勞働者の災害補償に關する內外人勞働者均等待遇の勸告案

一、特に一締盟國の法令に依り補償金を支拂はるべき者が他の締盟國の領土內に居住する場合に於て該補償金の支拂を容易にする爲めに又その支拂に關し上記法令中に規定せらるゝ條件の遵守を確保する爲めに必要なる措置を執るべきこと

二、補償金に關する權利の發生したる締盟國の領土內に居住せざる者に支拂はるべき補償金の不拂、支拂の停止又は其額の減少に關し爭ある場合に於て該國において權利を有するところの司法裁判所に其の者が自ら出頭するを要せずして訴訟を提起するの便宜が與へらるべきこと

三、一締盟國の法律に依つて勞働者災害補償に關聯して與へらるゝ手數料及び租税の免除、公の文書の無料交附及び其他の特典に關する利益は本條約を批准する他の締盟國の國民に對しても同一の條件の下に與へらるべきこと

四、現に補償を有せざる國の政府は其の國に住する外國人が其の自國の法律の下に補償を受くるに關し十分便宜を與ふべきこと

（備考）一乃至三の事項は條約案原案より分離して勸告に變更したるものである

タンク竈を使用する硝子製造工程に於ける一週二十四時間の作業中止に關する條約案の案

第一條　タンク竈の使用せらるゝ硝子製造工程に於て以下規定する條件及び例外の下に一週に繼續二十四時間作業を中止すべし

第二條　作業中止は原則として日曜又は國若くは地方の立法、風俗又は慣習に依り既に定まれる他の日に於て之を爲すべし

第三條　各締盟國は左の作業に關し前二條の規定に對する例外を許可するを得べし

(一)技術上又は經濟上の事由に依り必然的、繼續的に行ふことを要する所の作業

(二)作業日において通常の事業を遂行するが爲めに從業者の不在中に爲すことを要するところの準備的、補足的又は修繕的作業

第四條　第三條に規定する作業に關係を有するころの表は之を各締盟國の權限ある機關に於て責任ある使用者團體及び勞働者團體が存在するとき之と協議の上にて作製し而して之を國際勞働事務局長に通知すべし該表には其表中各種の作業が例外とせらるゝ理由の說明書を添附すべし

第五條　硝子工業に於ける技術工程又は作業組織上に變更を來し之が爲め第四條に規定せる表の改正を必要としたるときは該締盟國は國際勞働事務局に對し「ヴエルサイユ」條約第四百八條及び他の平和諸條約の對當條約文に從つて提出する手續を以て該表中に加へたる變更につき其の變更を來せる理由を示し之れを通知すべし

第六條　一般休息時間中に爲すことを許可せられたる作業に使用せらるゝ勞働者は工業的企業に於ける週休に關する一九二一年の條約の規定に從つて各個別的に又は交替的に少くとも繼續二十四時間の週休を與へらるべし

第七條　第一條及び第二條の規定に對する一時的例外は現に災害あり若くは其の切迫せる場合、機械若くは器具につき緊急の處置を施すべき場合又は不可抗力の場合においてのみ之を許容す但し此くの如き例外は單に該企業の通常の操業に對する重大なる障害の生ずることを回避するに必要なる限度に止まるべきものとす

使用者は權限ある機關に對し右に規定する一時的例外を利用せる總ての場合を報告すべし

パン製造業の夜業に關する條約案

第一條　以下規定する例外を除きパン「ペーストリー」又は其他小麥粉の「コンフコクショナリー」の製造は夜間之を禁止す本規定は大規模の「ビスケツト」製造を包含せず

本規定は前記の製造に從事する總ての者、使用者並に勞働者の作業に之を適用するものとす但し同一家族に依り且その家族の爲めに爲さるゝところの作業に對しては之を適用せず

第二條　本條約に於て「夜」なる語は少くとも繼續七時間の期間を意味す

右期間の始時及び終時は各國の權限ある機關に於て關係使用者團體及び勞働者團體と協議の上之を定むべし右期間は午後十一時より午前五時に至る時間を包含すべし但し氣候又は季節が之を要求するときは午後十時より午前四時に至る時間を以て之れに代ふることを得

第三條　各國の權限ある機關は關係使用者團體及び

勞働者團體と協議の上にて之れが規則を定め左の例外を規定することを得

(イ)正規の勞働時間外に必然的に爲すを要する限度に於て準備的作業の遂行に必要なる恒久的例外但し嚴格に必要なる數以上の勞働者及び十八歲未滿の年少者を使用すべからず

(ロ)熱帶國に於ける特殊の事由より生ずる要求に必要なる恒久的例外

(ハ)週休の按配に必要なる恒久的例外

(ニ)事業をして異常なる業務の繁忙又は國家的必要に應ぜしむるに必要なる一時的例外

第四條　既に災害あり若くは其の切迫せる場合、機械若くは器具につき緊急の處置を施すべき場合又は不可抗力の場合にては第一條の規定に依らざることを得但し此の如き例外は單に該企業の通常の操業に對する重大なる障害の生ずることを回避するに必要なる限度に止まるべし

第五條　本條約を批准する各締盟國は第一條に規定する禁止が有效に施行せらるゝことを確保するに必要なる總べての措置を執るべく且使用者、勞働者及び其の各自の團體をして第五回國際勞働總會において採擇せられたる勸告に準據して右の措置につき協力し得せしむべし

第六條　本條約の規定は一九二七年一月一日に至るまで其の效力を生ずることなし

尙ほ第六回國際勞働總會に於ては上記の勸告及び條約案の審議の外、失業問題並に炭疽病問題につき決議を爲し更に各國が總會の採擇する條約案を批准するに便なるやう條約案の改正問題につき審議したが本問題に付いては直接條約案改正問題を解決するよりも條約案採擇の初めに於て最善の方法を盡すを可とし之に關し數種の決議を爲した。

◉土地增價稅案決定

都市の財源を增す爲めに計畫せられた土地增價稅案は大藏省と內務省との間に意見の相違があり爲めに永く未決の儘に任せてあつたが最近內務省側の意見に從ひ課稅を土地所有權の移轉の際に限らず所有權の動かぬ場合に於ても大體滿十五箇年每に當時の時價に差增ある場合之に課稅する案とするに同意を與へたので玆に勅令案の決定を見濱口藏相の決裁を得て法制局へ廻付するに至つた而して該勅令案は此の勅令に規定したる條件を具備する都市に於て內務大藏兩大臣の認可を受けて土地增價稅を特別稅として新設するを得るものである而して其の稅率は地價の騰貴せる部分に對し百分ノ五乃至百分ノ三十の課稅を爲すものである。



留岡氏の家庭學校

本校と分校、農牧業、其他姉妹事業いろ〱

留岡幸助氏が校長として拮据經營しつゝある家庭學校は昨大正十三年十一月九日を以て盛大なる記念會を擧行した。家庭學校といふと、何か家庭に關する教育を授ける學校のやうに思ふものがあるかも知れないが、此の學校は世の不良少年を教育するのが當初からの目的であつて、東京市外西巣鴨町に本校を置き、北海道北見國遠輕村社名淵と神奈川縣茅ヶ崎町海岸とに分校を設け、猶ほ北海道の分校には姉妹事業として社名淵に第一農場と畜産部、白瀧シウベツに第二農場を設け、學校の兒童を土壤と自然とに親ましめて感化教育の實を擧げてゐる。留岡氏が最近に著はされた『自然と兒童の教養』は此の教育の眞諦を遺憾なく述べたものである。

家族制度の組織

少年を收容する組織に兵營組織と家族制度との二種ありて、兩者孰れも長短あれど、家族制度を以て最も教育的にして人情的であると云ふことに結論は一致して居る。留岡氏の家庭學校は此の家族制度に則つたものであつて、我國における其の最初のものであり、從つて家庭學校の稱ある所以である。生徒を入れる寄宿舍を家族舍と呼び、そこに十名乃至十五名を容れ、之を治むるに家族長夫婦を以てする。家族長は父親に代りて生徒を教育保護し、其の妻女は母親のつもりで細大となく生徒の心性及び言動に注意し、之を善き方面に導くのである。家族長は學課の教師ともなり、實業の指導者ともなり、時としては刑事又は檢事のやうにもなり、又使丁にもならねばならぬ。家族長の妻女は之を主婦と稱し、教師にもなり、おさんどんもなり、看護婦にもなり、またお針婆さんにもならねばならぬ。家族長夫婦にて手の足らない時は補助者を

置く。補助者は男女孰れを問はないが成るべく女子を可とする。家庭學校は斯うした仕組みの下に温かい愛を中心として不幸なる少年兒童を敎養して居るのであつて洵に美しい仕事である。

規律的訓練 不良少年兒童の多くは概して放縱、剛情、執拗であるから、其の性癖を矯むるがために、普通の家庭では施すことの出來ない秩序ある規律的訓練を與へる。東京巣鴨の本校における生徒の日常生活は午前起床、五時半禮拜、六時禮拜、七時朝食、午前八時より午後四時まで實科、午後四時掃除、五時晩食、六時より八時までが學課、九時就眠といふ事になつて居る。また家庭學校ではキリスト敎主義を以て校内の空氣を作り、行住坐臥その雰圍氣中に薫染せしめ、且つ形式的お談義的でない實踐躬行の德育に重きを措いてゐる。

本校と分校 本校でも分校でも右の敎育方針に變りはないが、本校ではやゝ改善せる年長生に實科敎育を施して居る。これは世の謂ゆる職業敎育である。目下その種類は木工と西洋洗濯の二ッだけだが、更に適當のものを選んで增設することになつて居る。實業部に入れるのは本人の希望、家庭の事情、技能の適否等を考査した後の事であるが、實科敎育を受けない他の改善生は、それ〲恰當の商店へ頼むなり、適當の學校へ入れるなり、父兄の手許へ返へすなり、其のむき〲を精査して處理するのである。茅ケ崎分校では專ら十四歲以下の生徒に純然たる義務敎育を正則に施し、之れを助くるに農業運動、水泳等を以てして身體を强健にし、更らに純家族的にこれを敎養する。在學中十七八歲になれば事情に依り社名淵へ轉せしむる事もあるが、大抵はその地で感化を終了する。社名淵分校の生徒に對しては、雄大なる自然の懷裡に於て嚴正なる訓練を與ね、主として農業を以て之を指導し、僻遠の寂寥たる天地間に在る少青年に温乎たる家庭的敎育を與へて其の性癖を矯正するのである。自然の感化が殊に偉大であるのは爭はれない。

成績の一班 留岡校長の定めたる家庭學校の德目は獨立、勤勉、正直、忍耐、清潔等で、之を總括して死せる德目に活力を與へるものは則ち信仰であるとしてある。創立以來滿二十五年の間に取扱ひたる生徒は、入校總數五百七名、退校總數四百四十五名、現在六十二名であつて、其の退校生を內譯

別にすると改善卒業が三百四十八名、事故退學が四十六名、不結果が四十九名、死亡が二名といふ事になる。事故退學といふのは轉居、病氣、家事の都合その他の事情のために退學した者で、其内には改善の部に入れて然るべき者もある。また不結果と云ふのは、當校の設備と方法では到底改善の效を奏する能はずと鑑定して諭旨退學せしめた者で、つまり感化の望みなき惡質兒童である。改善のうへ卒業したものゝ其後の狀態を表示すると

小學校在學	八	養蠶業	二
中學校在學	四九	商業	三六
官公吏	七	銀行會社員	三
教師	三	工業	九
技師技手	四	同徒弟	一三
兵役服務	八	洋服裁縫	一三
飛行家	二	寫眞、製版印刷業	一二
農業	六七	大工、木工	九
畜産業	四	俳優、活動寫眞辯士	五
船員	六	自宅手傳	一二
西洋洗濯業	八	入院療養	六
僧侶傳道師	二	其他	一五
新聞記者	四	死亡	一八
在米遊學	三	不明	二三
給仕、使丁	七	計	三四八

と云ふ結果であつて、つまり退校生の百分の七十八以上が改善された事になつて居る。

姉妹事業 家庭學校は少年の感化教育を本來の事業として居るが、單にそれ計りでなく、少年感化の働きを基礎として、廣汎なる社會改良の思想を鼓吹し、其の事業を作興促進するに努め、此の方面にも次第に手を擴げつゝある。

(一)雜誌「人道」の發行 は即ちその一ッで、凡ゆる社會問題を論議し、報道し、穩健なる思想の養成に努めて居る。其の掲ぐるところの記事は、何れも洗練されたもの計りで、專門大家の有益なる論文も載せる。主筆は留岡幸助氏である。臨時號として報德號、救命號、監獄改良號、明治天皇哀悼號など發刊したが、最近には家庭學校創立滿二十五年記念號を發行した。本號には留岡主筆の三十五年前を顧みて、牧野英士氏の一羊會の一夜、山室軍平氏の社會事業家の資格、其他種々掲げてある。

(二)社會事業養成機關 社會事業には資金と人物との双方を得なければならないが、殊に人物が絶對に必要である。此の見地からして此の機關を設けた

のであつて、初めは慈善事業師範部と稱したが、後その名稱を改めたのである。活きた實驗場とも云ふべき家庭學校に在りて、汎く理論を研究せしめ、諸般の視察をなさしめ、且實際を知らしめた上、その向はんとする事業に赴かしめて居る。今その退部者則ち卒業者の職業別を表示すると

感化院長	四	新聞記者	一
感化事業	一一	雜誌記者	二
教育事業	一〇	傳道事業	七
社會事業	一〇	會社員	四
官吏	五	齊家	九
農業	三	死亡	三
商業	二	不明	五

卽ち今日までに計七十六名である

（三）思齊塾の經營　家庭學校は劣才を感化教育すると共に一面秀才を誘掖して居る。初め友人知己等の子弟にて東京に遊學するものを託せられ、それを校內の一室に寄寓せしめて思ひ／＼の學校に通學せしめたのであるが、之れを聞き傳へて同居を乞ふ學生漸く多くなり、最初はこれを遊擊隊と名づけ、漠然たる組織の下に置いたところ、其後益々多くなつて來たので、大正元年十一月に規則を定めて一箇所に集めそれを思齊塾と稱するに至つたのである。その秀才青年は主として官私大學、高等學校、專門學校以上へ通學するもので、學術優等品行方正の者のみを入塾せしめて居る。塾舍は現在のところ假設的のものだが他日理想的の校舍を建てることになつて居る。彼等は感化生と共に日常生活における規律を嚴格に守り、時としては「大なる兄さん」となりて感化生に良模範を示し、また親切に指導するので、彼我共に少からざる效果を上げてゐる。

（四）種々の文化運動　家庭學校ではまた近隣のために文化的福祉の增進に努めてゐる。その第一は日曜學校で、これを巢鴨日曜學校と名づけ、家庭學校以外の兒童を自由に招致し、その地方のために盡してゐる。社名淵分校でも同樣の事をして居る。第二は夏季學校で、夏休中には樹木鬱蒼たる野天にて繁茂せる青葉の陰に小さなベンチを列べて通俗學校を開き、廣くその邊りの子供を集め、毎年缺かさずに之を實行する。第三は運動場の開放で、家庭學校は比較的廣い庭園を有するため、近隣の遊園なき兒童のために之を開放し、毎日時間を定めて自由に遊ばせる。第四は公開講演で、時々名士を招聘して學術

講演會を開き、何人にも聽講せしめ、之れに依つて一面思想の善導に努める。第五は娯樂で、時々教育講演、活動寫眞、少年音樂會、又は花の日會などを催し、そして一般人の入場を歡迎する、斯うして家庭學校は多方面に活動して居るのである。

　家庭學校の創立者たり校長たる留岡幸助氏は、夙に基督教を奉じ、博愛義侠の精神に富み、京都同志社を出てから丹後で牧師の任に當り、次いで北海道空知集知監に赴任して罪囚の教化に努めた。此の罪囚教化中、罪囚の十中八九が初年時代に犯罪の萌芽を有つてゐた事を發見し、犯罪を減少する最善の方途は之を少年時代に教育するに在りと考ね、遂に少年感化に志し、明治三十二年の秋、東京市外巣鴨に今日の家庭學校を創設したのである。

　爾來滿廿五年の歷史を積むまでの間には、凡ゆる艱難、凡ゆる障害、凡ゆる災害に逢つたのであるが留岡氏の堅固なる信念と百折不撓の毅然たる精神とはその總べてに打克つて、遂に事業の基礎を固めたのである。明治三十八年十月十一日、留岡校長は宮内省に召され、學校創立以來成績佳良の趣、天聽に達したとて當時の聖上陛下（明治天皇）、皇后陛下（昭憲皇太后）より御思召を以て特に金壹千圓を下賜せられた。校長及び職員は意外の聖恩に感激して益々奉公の志を固くした。次いで明治三十九年六月に此の御下賜金に壹千七百圓の資金を加へて家庭學校を財團法人となし、留岡校長を理事長に、八名の理事を定めた。理事の中には滿鐵理事長であつた國澤新兵衞氏、滿鐵社長であつた故早川千吉郎氏などもある。尚ほ明治四十二年十二月一日内務大臣より感化救濟事業奬勵のため金貳百圓を下附され、爾來年々或は助成金を或は奬勵金を下附され、大正五年二月には東京府よりも奬勵金の下附を受け、爾後或は助成金を或は臨時經費の補助を、また大正十一年度よりは東京市よりも奬勵助成金の下附を受くるに至つた。至誠が遂に天に通じたのである。

　斯うして大成し玉成した留岡幸助氏の社會事業及び社會教化事業は、決して小成に安んぜず、時代の進運に鑑み、將來のために更に種々の計畫を有つてゐると云ふことであるから、今後益々その大を成す事であらう。殊に北海道北見國遠輕村社名淵におけるコロニーシステムの社會事業が、少青年の感化教育を中心として、兒童を大自然に親ましめ、都市教

育の弊より超越して田園教育の妙味を發揮して居るのは尊ぶべき事である。（山田生）

巴里に於いて 國際社會事業の大會

滿洲はダメ、牧野氏は委員を斷つた

特殊事項を目的とする國際大會は少くないが社會事業全體に關係する國際大會は未だ嘗て開かれなかつた。然るに第三回赤十字社聯盟總會は各國赤十字諸社を經て千九百二十五年（卽ち大正十四年）夏季を以て佛都巴里に國際社會事業大會を開催することに決定した。此のエポック●メーキングなる國際社會事業大會開催場所は佛國官憲に依りソルボンヌ（巴里大學講堂）を以て之れに充つる事なり、期日は千九百二十五年七月二十七日（月曜日）より同月三十一日（金曜日）、又は多分その七月二十九日より八月一日までとなるだらう。日本赤十字社には昨年（大正十三年）七月二十八日附にて赤十字社聯盟書記長ドクトル、ルネ、サン氏より通知があつて、日本も此の大會に參列する意思を表明した。

北米合衆國においては五十一年來毎年缺かさず社會事業擧國會議なるものを開き、千九百二十四年には加奈陀のトロントにおいて三千名會合し、此の常例會議を續行した。之れは勿論國際的のものではないが、此の會議が亞米利加における社會事業團體の組織上に進歩を促したことは明瞭で、從つて今回巴里に開催せらるゝ國際社會事業大會にも著大なる裨益を與ふる事であらう。トロント會議は言ふ迄もなく國際社會事業大會の計畫に贊同した。赤十字社聯盟總會が國際社會事業大會の招集計畫を承認したのは千九百二十四年五月一日で、承認と同時に、各國における本計畫に對する斡旋は赤十字諸社を經てこれを爲すべしとの希望を表示した。

此の國際社會事業大會は、他の種々なる國際大會

と同樣、外國人と接近して智識を交換する事、現時の問題を討議する事、個人の關係を結ぶことを得せしむるを以て目的とするもので、此の國際大會に參加する一個人又は團體は、毫もその自由を喪失するものでなく、何等服從する所もなく、將來に向つて何等の約束をなすものでもない。要するに此の大會は硏究をなすも結論はこれを各人に一任するのである。公用語は佛語と英語である。此の大會の準備として參同各國においては其の赤十字社の手を經て準備委員を設くる事になり、日本赤十字社は中央社會事業硏究會と協議のうへ昨年(大正十三年)十一月該委員を組織した。是等諸國における委員會の會長は國際組織委員を構成して國際大會の準備をなすのである。國際大會は學說の事については決する所なきも國際大會の規則、事務局員の選任、次回大會の期日及び場所等については議決する。

此の大會の部門及び部長は左の如し

第一部　社會事業の一般組織
　部長　シカゴ　ジエーン●アダムス孃

第二部　社會事業と特殊の場合
　部長　倫敦　パーシ●オルデン

第三部　社會事業と勞働問題
　部長　ジユネーヴ　アルベール●トーマス

第四部　社會事業と社會衞生
　部長　コペンハーグ　ドクトル、マドセン

第五部　社會事業學校
　部長　伯林　ドクトル、サロモン孃

第六部　國際社會事業
　部長　羅馬　ドクトル、サントーキト

斯うして社會事業も國際的となり、權威を增して來るのであるが、飜つて日本の社會事業、殊に滿洲における社會事業を見ると痛嘆に堪えない。我が滿洲社會事業硏究會は、各種の社會問題を硏究し、社會事業の必要を唱道し、且その實行促進に努めて居るにも拘はらず、之れを冷眼視するもの、之を理解せざるもの多く、進んで之れが實行のために心からの努力と援助を致すものも少い。從つて滿洲には眞の社會事業と目すべきものは何程もない。良好な事業も資力と人物を得ないが爲めに發達しない。滿鐵のものも社員のウエルフエヤーに關する施設以外は一般向きの學校、病院又は產業奬勵など、寧ろ文化施設とも言ふべきものであつて、社會事業としての

眞價値は具れて居ない。困つたものだ。日本赤十字社々長男爵平山城信、中央社會事業協會長子爵澁澤榮一兩氏より滿鐵審査役牧野虎次氏に國際社會事業大會準備委員會の委員に推薦した旨の通牒があつたが、右の次第なので、牧野氏は安廣社長、松岡理事田村課長と協議のうへ辭退したさうだ。

三重縣の方面委員制度

一記者

三重縣に於ては大正九年六月縣廳內に社會課を設置し、百般の社會事業を管理して居るが、其の事業中最も發達したのは方面委員の制度である。今その概要を記載する。大連の如き社會事業の幼稚な處では大いに參考となるだらう。

三重縣下は他縣に比し面積において狹隘であるが比較的細民多く、之れが調査及び救濟には方面委員を擧げて之に當らしめて居る。大正十二年六月二十二日左の方面委員設置規程を發布し、同時に執務心得、取扱事項概目、設置規程實施內規を定め、而して七十八名の委員を囑託し、昨年五月二日十八名の委員を大阪府と岐阜縣に派遣して本制度の視察をなさしめた。其の方面委員の配置は左の如し。

津市	一〇	宇治山田市	一五	四日市	六
桑名町	一二	桑名郡大山田村	三	日郡益生村	二
安濃郡新町	一二	阿山郡上野町	一二	飯南郡松阪町	一二
阿山郡城南村	四	計	七八		

右に要する經費は特別會計たる慈惠救濟費より支出し、十三年度豫算に二千圓を計上した。然し各委員は全部無報酬であつて而かも精神的に活動してゐるので設置以來日尙ほ淺きも相當の成績を收めつゝある。方面委員設置規程は左の如し。

三重縣方面委員設置規程

第一條　社會狀態及び生活狀態を調査し而して其

の改善向上を圖る爲め特に必要と認むる地方に方面委員を設置す

第二條　方面委員は縣下居住の篤志者、市町村吏員、警察官吏、學校關係者、神職、宗教家及び社會事業關係者等の中より郡市長の推薦に依り知事之れを囑託するものとす

第三條　方面委員を設置すべき地方及び其の員數は別に之れを定む

一地方に二名以上の方面委員を置きたる場合は其の一名をして事務の連絡を圖らしむ

第四條　方面委員の職務左の如し

一、一般社會生活の實狀を調査し而して之が改善向上の方法を研究すること

二、特に必要あるものに就いては戶別的に其の生活狀態を調査し而して之れに對し適切なる匡濟方法を講ずること

三、各種社會事業機關との連絡を保ち之が利用の途を講じ其の目的達成に助力すること

四、社會事業の施設上必要なる事項に關し其の意見を知事に提出すること

五、其の他特に委囑せられたる事項の調査竝びに其の實行に當ること

尙ほ方面委員として取扱ふ事項は左の生活狀態の調査を始め、生活の保護、少年少女の保護、戶籍の

整理及び社會衛生の改善等であつて、方面委員は之れを精細に調査することになつて居るが、今それを項目別に記載すれば則ち左の如し。

一、生活狀態の調査　分擔地域內の事項にして左記に屬するものに就いては其の生活狀態を必らず調査票に登錄すること

(イ)第一種に屬するもの　單身にして自活し得ざる者、獨身にあらざるも扶養者なく後見者もなく隨つて自活の途を得ざる者、疾病その他の事由に依り自活困難なる者

(ロ)第二種に屬するもの　辛ふじて自活し得るも一朝豫期せざる事故に遭遇するときは忽ち自活困難に陷る虞あるもの

二、生活の保護　(イ)生計困難なる者に對しては審らかに其の實狀を調査し而して之を除去する方法を討究すること

(ロ)軍人家族遺族及び廢兵にして生計困難なる者ある場合は軍事救護法に依る救護及び軍人援護資金等の救助を受けしむる事

(ハ)老衰幼弱、不具、癈疾等の自活し能はざる者あるときは其の扶養につき親戚故舊に謀り若く

は隣保市町村よりの救助方法を考究し尚ほ足らざるときは恤救規則大禮紀念恩賜賑恤基金規定に依り救濟其の他適當なる方法を以て生活に困憊せざる途を講ずること

(ニ)懶惰の風に染み逸居徒食して勞働を厭ひ誠實業務に從事するを欲せず爲めに貧困となり又は貧困となる虞ある者に對しては懇切に說諭を加へ之が善導に努力すること

(ホ)失業者に付ては其の狀態及び思想に留意し慰安並びに督勵を加へて其の惡化を防ぎ一面職業紹介機關等に謀り又は其他適當なる方法に依りて就職口を得せしむること

(ヘ)釋放人に付ては釋放後親族近隣等の之れに對する仕向及び本人の思想行動に留意し常に刑務所、保護機關、職業紹介機關等と連絡して之が改善の實を擧げしむること

(ト)常に生計上餘裕なき者に對しては或は副業の斡旋獎勵等に依り收入增加の途を指示し或は貯蓄其の他の方法に依りて恒產を有せしむるやう之が指導に努むること

(チ)高利の借財に苦む者に對しては之を低利に借替へしむるやう斡旋すること

(リ)救濟を爲すの要ある場合は成るべく金品の施與を避け已むを得ざる場合に於ては濫救に陷らざる程度において救濟すること

(ヌ)簡易生命保險若しくは貯金產業組合等に加入せしめ又は郵便貯金乃至は銀行貯金を爲すやう之が勸告斡旋を爲すこと

三、兒童並に少年少女保護　(イ)姙婦產婦あるときは產前產後において醫師又は產婆の診療を受けしむるは勿論、必要と認めたるときは相當注意を與へ母子の健康を圖ること

(ロ)幼兒の爲め生業を妨げらるゝもの又は幼兒の保護救養を充分に爲すこと能はざるものあるときは之れが保育を相當機關に委託せしむる等適當の手段を講ずること

(ハ)育兒に關し母姉の知識乏しき者に對しては育兒方法につき相當注意を與ふること

(ニ)繼子、貰子、里子、私生兒に對しては特に營養狀態に意を拂ひ養育不適當又は虐待を受くる者あるときは父兄に相當注意を加へ尚ほ不充分なる時は相當手當を講ずること

(ホ)棄兒、遺兒、迷兒等の保護に關しては相當なる保護手段を講ずること

(ヘ)義務教育未就學兒童に對しては公費就學奬勵金の交附の外資産家、宗教家等の篤志に訴ふる等之が方法を講じて就學せしむること

(ト)不良少年少女、浮浪少年少女、犯罪少年少女白痴、盲唖、低能、不具、癈疾等の兒童又は少年少女の保護方法を講ずること

四、戸籍の整理　(イ)内縁の夫婦又は私生兒等變態的家庭關係の下に生活する者あるときは其の屆出の世話を爲すこと

(ロ)出生屆未了の者に對しては戸籍法に依り親切にその屆出の世話を爲すこと

(ハ)無籍者の發見に努め就籍せしむる事

(ニ)寄留者の整理を爲すこと

五、社會衛生の改善　(イ)家庭訪問に際し患者あることを發見し而して醫師の診察を受くることを能はざる者に對しては濟生會赤十字社その他救療機關に紹介斡旋を爲すこと

(ロ)種痘の濟否に注意し猶ほ癩病、結核、トラホーム患者あるときは直ちに之をして醫師の診察

を受けしめ又相當機關と連絡を保ち能く法令の趣旨を徹底せしむること

六、其他の注意　(イ)貧家の子弟にして學業特に優秀なるも進んで就學し得ざる者に對しては其の父兄の相談相手となり公共の育英資金の交附を請ひ又は篤志者に訴ふる等十分に手を盡して之が解決に努むること

(ロ)　不良住宅の改良を努むること

方面委員の實施に就いては別に内規を設けてあるが、其の大要を見るに、先づ方面委員一人の受持世帶數は大凡三百戸を標準とし、事情によつて五百戸まで增加することになつて居る。其の設置地域及び員數は當該市町村長の意見を聽き知事之れを定めるまた事務用として調査表用紙、名刺、手帳、門標徽章及び提灯を交附する。之が連絡統一を圖るため毎年一回總會を開き、其の總會には縣内の方面委員が全部集會する。此の外に各地方の方面委員だけで年數回の會合を開く。而して其の最後の統轄は縣廳内の社會課に於て處理して居る。

この方面委員の最も努力を要するは自分の受持區域内の居住者の生活狀態を調査することである。夫

れには「生活票」といふカードが出來て居つて、其の欄内に記入するやうになつて居るが、今その大體の標準を示せば左の如きものである。

一、世　帶　世帶には普通世帶と準世帶との二種がある。この生活票の世帶は普通世帶を意味するものであるが、此の普通世帶といふのは住居及び家計を共にする家族の集團をいふのであつて、一人にて住居を有し家計を立つるものもまた一の普通世帶となる。然し家計を共にするも住居を異にするときは、之を各一個の普通世帶とし、住居を共にするも別々に家計を立つる者は、家計を異にする毎に各一個の普通世帶とする。間借りして自炊を爲せるものは矢張り別の普通世帶である。

二、年　齡　年齡は戸籍によるのが一番正確であるが、下級細民になると自分の氏名さへ記入出來ないものがあるので、普通呼んで居る所の年齡を記入することになつて居る。

三、職　業　職業は農工商等の如く總稱に依らないで、如何なる種類性質の職業であるか、一見して直ちに知り得る樣に細別し、そして日常の稱呼に基いて居る。例へば左官とか大工とか或は人力車夫といふやうに記入されるのである。

四、本業と副業　本業とは主として一身の生活を委するものを稱し、その他を副業とし、若し正副何れとも區分判明し難いものは、收入額の多い方を本業とする事になつて居る。

五、職業所得　一定の職業を有せずして單に恩給手當、年金等の收入に依りて生計を立つる者は同欄に恩給手當年金等と附記し、その收入額を記入することになつて居る。また官衙傭人或は職工等の如く一定の賃銀を受くる者は其の制度によつて日給又は月給額を、收入不定のものに就いては一ヶ年の收入見積額を記入するのである。

六、教育程度　全く文字なきものは（無と）し漸く假名のみ知るものは（假名）、尋常中途退學したるものは（尋退）、高等小學校中途退學は（高退）、尋常卒業若くは之れと同等の學力を有するものは（尋卒）高等卒業若くは之れと同等學力ある者は（高卒）、之れに準じて（中退）は中學を中途で退學した者、（中卒）は同卒業又は同等學力を有する者として斯く略記することになつて居る。

七、嗜　好　嗜好物中酒に就ては特に一日の

飲酒量を記入して參考にして居る。

八、宗　教　宗教は佛教、神道、基督教の三種に分ち、佛教は眞宗、禪宗（臨濟宗、曹洞宗、黃檗宗）、淨土宗（融通念佛宗、時宗）、日蓮宗、眞言宗（新義眞言宗、眞言律宗）、天臺宗、律宗、法相宗、華嚴宗等、神道は神道、禊教、大社教、天理教、金光教、黑住教、修成教、扶桑教、神習教、大成教、實行教、神理教、御嶽教の十三教、基督教は日本聖公會、日本洗禮教會、日本基督教會、其他に分けてあるが、佛教が一番多きを占めて居る。

九、貧困原因　貧困の原因調査は六種に分類して取扱はれて居る。大要を示せば

▲個人的關係　精神的には賭博、情慾の亂用、飲酒、浪費、惡習慣（怠惰、不規律）無教育（技術拙劣、無能）、生理的には虛弱、不具、疾病（住宅不良、非衞生的職業其他）、老衰遺傳性（花柳病、盲啞並に聾癩）、瘋癲白痴等

▲家族的關係　系累過多、主働者の死亡、失踪、入監、離婚、家族の疾病又は死亡、家政の拙劣（戶主、主婦）家庭の不和

▲職業的關係　商業又は事業の失敗、失業、轉業若しくは投機等

▲社會的關係　物價騰貴、勞働需要の缺乏、教育の缺陷、耕地不足、親戚部落に對する失費の過多、生活上の上進等

▲自然的關係　天災地變（地震、暴風、洪水、旱魃、大火災、虫害、霜害、降雹、その他）地理的關係、土地不良、氣候の不順等

▲其他の原因　不時の災難、他人の債務保證、高利の負債、分家其の他

十、其他の事項　以上の外に方面委員の調查すべき事項は、一家の生活の狀態を始め、家族の氏名、職業並に其の生活狀況、失踪者がある場合はその氏名、家族でないもので同居した者がある場合はその氏名及び職業等で、猶ほ戶籍未整理の家族に就いては世帶主との續柄及び其の整理し得ざる理由を取調べ、私生子、庶子に就いては內緣の夫婦間に生れたる者と其の他の者との區分を明かにし、犯罪者に就いては犯罪の種類、年月日、刑期、金額等を調べ、宗教にあらざる宗教に類似の信仰又は迷信を有するものは其の旨を記入し、更に扶養義務者の扶養額及び公私團體より受くる救助金の如きは其の金額並に救助を受くる團體若くは個人名、救助を開始せられたる年月日等を記入するのである

東坡生日雅會と遼東詩壇

日支親善を目的とする詩壇と東亞聯盟

東坡蘇軾逝いてより茲に當に八百載、その生日たる昨年(大正十三年)十二月十九日、淮海田岡正樹兄主催の下に大連電氣遊園登瀛閣樓上において東坡生日雅會を開く。會するもの日本人側より立川卓堂、野村柳洲、原田恕堂、外數詞兄にして余も亦席末を汚す、而して支那人側よりは、傅立魚、陳塵隱、尹介甫、黃越川、外十詞兄。一堂の裡に日支人相會して此くの如き雅會を開ける、蓋し之を以て嚆矢とすべく、淮海、柳洲、零亭三兄が日支親善の目的を以て組織せる遼東詩壇の面目、自ら此間に躍如たるを覺ゐたり。日支親善上最も地の利を得たる滿洲に此の詩壇あり、又此の雅會あり、兩國民族の情意を疏通して親善の誼を厚うするや疑を容れず。詩壇竝に諸詞兄の任、亦甚だ重しと謂ふべし。

此日雅莚の中央に畫家小室翠雲兄筆の東坡衣冠像を掲げ、開宴に先ち、淮海兄は最も謹嚴なる口調及び態度にて東坡の閱歷性行の一班を叙べて挨拶に代へ、支那服を着せる立川卓堂翁は來賓を代表して謝辭を述べ、斯くして宴に入る。宴半ばにして陳塵隱兄の感想談あり、余もまた日支親善を目的とする遼東詩壇の意義と東亞聯盟竝に我が植民政策の要諦について大略左の如く語れり。(芙峰)

嚶鳴、浩然兩社を打つて一丸としたる遼東詩壇は文學を以て日支兩國竝に兩國民族の親善の誼を厚うすると云ふ大目的を有つてゐる。私は漢詩については乳臭兒であり末輩でありますが、田岡淮海詞兄より此の抱負と目的を承つて感激し、進んで詩壇の御仲間入りを致し、諸兄の驥尾に附して覺束なき歩みを運ばせる事になつたわけで、本日の雅會にも淮海詞兄の御懇篤なるお招きに接して出席した次第であります。其處で潛越ながら此の機會に私の所感を卓上談として一言し、諸君のお耳を汚したいと思ふのであります。

私は臺灣に約十年、朝鮮に約六年、此間支那の各地を漫遊し、此の滿洲に參つてからは既に十有三年と相成ります。隨つて不敏ながら植民地の事に

ついては多少の智識を有し、研究も致し、意見も有つて居ります。私の考へます所では、日本の從來の植民政策は他の總べてと同じく歐米の模倣であり直譯でありましたが、それは間違つて居たのであつて、今後はその政策の基調を改めなくては成らぬものと信ずるのであります。諸君御承知の通り、歐米の植民地は白人種の天地たる英國の濠洲、ニユージーランド、加奈陀等を除いて何れも有色人種の棲地である爲め、また其の文化と實力に大懸隔がある爲め、其の植民政策は劣等人種を支配し統御すると云ふ方針を以て進み、隨つて帝國主義、軍國主義、資本主義となり、强壓的、專制的、覇道的となつたのでありますが、日本の植民政策もそれを模倣し、そして之を臺灣と朝鮮に用ひたのであります。民國人その他の東洋人が日本に誤解と反感を起したのは此故です。併し今日は當然之を改むべき秋であります。

私は思ふ、日本の植民地たる臺灣又は朝鮮の原住民は、臺灣の生蕃人を暫く除外し、何れも吾々日本人と同じ亞細亞有色人種であるから、白人種と有色人種との關係の上に樹てられた歐米の植民政策と同一であつてはならぬと。私は堅く斯う信じて居ります。況や日支人の共同生活を營める關東州及び滿洲の植民政策においてをやです。文化の上に多少の差異があり、言語、風俗、習慣等が異なり、民族性も亦隨つて同じでないから、萬事同一には出來ませんが、日本がその植民地に歐米と同一なる植民政策を行ふと云ふことは根本的に間違つた事であります。そこで日本の今後の植民政策は、東亞聯盟と亞細亞民族の親善提携を圖る一階梯として之を行ひ、相互扶助、共存共榮を旨とし、相與にその文化と實力を進める、と云ふ方針を以てすべきであると考へます。滿洲においては殊に然りと堅く信ずるのであります。

雅會席上において斯樣なことを申すのは甚だ附かぬ樣でありますが、日支親善を目的とする遼東詩壇の旨趣精神に鑑み、支那の事情と學問に精通さるゝ淮海詞兄の抱負に照らし、敢て此の言をなす次第であります。文學を以てする日支親善は利害關係を以てするそれよりも意義深く、且力强きものであり、眞摯以て事に當らば、必ずその目的を貫徹し得るものと確信いたします。



支那勞働運動の考察

滿鐵會社囑託　黃子明

私は今度滿鐵會社の囑託を受けて滿洲に於ける勞働者の狀態を視察しましたが、何人も御承知の通り最も多數の支那人勞働者を使用して居るのは大連の埠頭と撫順の炭坑とであります。兩所とも相當の設備をなして彼等を優遇して居るので、滿洲における支那人勞働者間には勞働運動が餘り多く起らず、彼等も今の處は頗る平穩無事に働いて居る樣です。それで夫等の係員に就いて聞いて見ますと、支那勞働者に對しては出來るだけの待遇をなし、一定の宿舍を給與し、食堂を設置し、日用必需品を廉賣し、浴場を開放し、娛樂機關を整ね、病者負傷者を救濟施療してゐる等、十分に手を盡して居るから、勞働運動の起る餘地はないと樂觀して居る樣です。併し之れは日本人の外面的考察ではないかと思ひます。幸ひ滿洲一帶に出稼ぎせる支那人の多くは山東、直隸奉天の三省住民であつて、性質が概して温良である爲め、能く〳〵の事でなければ勞働問題を惹起すやな事はあるまいと思ひますが、餘り樂觀しては可けません。そこで御參考までに支那全土に於ける一般勞働運動の傾向を述べて見ましやう。

民國革命以來、支那の思想界にも一大變調を來たし、それが勞働者階級にも及ぼし、支那本土には今や到る處に勞働團體が組織されました。最初は團體的結合と聯絡が薄弱であつた爲め、その運動も組織的でなく、且資本家と結託せる官憲が事每に干涉と壓迫を加へたので、罷業運動は概ね失敗に終りました。併し支那にも社會主義的空氣が逐年濃厚を加へ來つて、勞働者側に同情援助する者が多くなつたと同時に、勞働者自身も次第に覺醒し、運動の方法も漸く組織的となり、勞働團體の聯絡も地方的より全

國的に進み、その結果として、官憲も不當の干渉をせぬ樣になりました。それで最近に至り議員李慶芳氏の如きは勞働立法の必要を絶叫して、旣に勞働法案を作成して之を發表し且議會に提出したといふやうな有樣で、この趨勢に鑑み、農商部も勞務局を新設せんとの意嚮を有するに至りました。

勞働問題が此くの如く進展するに隨ひ、民國人の間に對外的不平の氣が鬱積し、それが反帝國主義の提唱となり、勞働者と相呼應して、動もすれば對外的報復の擧に出でやうとする氣配があり、政客輩は有力なる勞働團體を利用して之を煽動して居ります斯くて支那の勞働問題は啻に經濟的方面のみならず政治的にも大なる注意を惹起するに至りました。此間に幾多の勞働運動が起つたのは勿論です。それで最近に於ける勞働爭議の主要なるものを示せば、大正十一年の香港海員の大罷業、開灤炭礦の罷業、十二年の京漢鐵道從業員の罷業、昨大正十三年七月の廣東沙面における對外的大罷業の如き、何れもその重大なるもので、世の注意を惹起しました。之等の罷業は支那の勞働問題に注意を拂つて居る人々の記憶に新たなる所であらうと存じます。

香港海員の大罷業は賃銀値上の要求拒絶と海員勞働者の總機關たる海員工會が香港政廳の爲めに封鎖されたのに原因したものです。此際外國汽船乘組員の支那海員は全部同盟罷業し、これが導火線となつて香港に於ける外人雇傭支那人全部の同盟罷業を誘發し、廣東の各勞働團體は一致聯合して此の罷業者を收容し、其の生活を援助し、以て罷業の目的貫徹に全力を注いだので、香港は開闢以來の大恐慌を來たしました。罷業日數五十日、停船實に三百餘隻に達し、貿易上の損害五千萬元と稱せられ、之れは遂に罷業側の勝利に歸して落着しました。

京漢鐵道從業員の大罷業が起つたのは、全線勞働者より成る總團體の成立大會を十二年七月七日鄭州に開催せんとするに際し、軍閥及び官憲が之を極度に危險視して干渉壓迫を加へたのに原因します。その結果、出動軍隊と勞働者との間に一大衝突を生じ死傷者三百餘名を出し、遂に全線に亘る大罷業となつたのです。京奉、京綏等の國有鐵道の勞働者までがこの爭議に同情して罷業に參加し、北京に於ける學生聯合會は勞働結社の自由を絶叫し、元宵節の夜隊を組みて北京市中に一大示威運動を試み、之れま

た軍警と衝突して十餘名の負傷者を出し、問題は益益紛糾し、各地の勞働團も結束して事を擧げやうとしましたが、辛うじて解決を告げました。

開灤炭鑛の大罷工は、十二年の十月下旬、坑夫の總團體たる開灤五礦工人總倶樂部の名を以て賃銀値上、養老金及び休暇等に關する六ヶ條の要求をなしこれが容れられなかつた爲めに起つたのであります。此時も炭礦當局が直隷全省警務處長楊以德氏と相結んで武力干渉を加へましたので、大衝突を生じ、遂に數十名の重輕傷者を出しましたが、之がために却つて波紋を大きくし、全礦夫三萬七千餘名の大同盟罷業となり、紛糾すること約二十餘日に亘りました第十七混成旅長董國政氏と天津保安隊の武力鎭壓とにて、月俸十五元以下のものに一割五分、十五元以上のものに一割增といふ修正を加へ、唐山の外國宣敎師が調停の勞を執り、要求の六ヶ條は漸次實施することゝして、漸く瀰縫的解決を見ましたが、此の事件に關して唐山の交通大學々生三百餘名は罷業側に同情し、罷業期間中示威運動を行つて罷業資金を募集しました。處がその首謀者五名が退學處分を受けたので、今度は學生全體が同盟休校を行ひましたが、遂に軍隊の干渉を受けて大多數の學生は强制的に唐山より驅逐さるゝに至りました。

更らに十三年七月廣東沙面に勃發しました事件は從來の罷業とは全くその類を異にしたもので支那勞働界空前の新現象であります。廣東の外人居留地たる沙面の領事團は、支那人の沙面出入に對して新取締令を發布しましたが、それが甚だしく支那人を侮蔑したものであつたので、それに激昂して、遂に沙面外人雇傭の支那人全部が同盟結束して業を罷めたのです。此の對外的罷業は偶々勃發せる反帝國主義的思想の强風に煽られて益々氣勢を揚げ、罷業日數二十餘日に亘り、之れにも廣東及び各地勞働團體が援助を與ね、一歩も讓らなかつたので、竟に領事團側の大敗となつて一段落を告げました。

以上の大罷業及び其他各地に蜂起した無數の勞働運動によりて仔細に之を考察して見まするとその原因は大要左の如くならうと思ひます。

一、支那全國に社會主義的思想の瀰漫し殊にマルキシズムが濃厚になつた事

二、この環境裡にあつて勞働者それ自身の思想並びに智識も著しく進步した事

三、この智識の增進によりて勞働者が階級意識に甚だしく目覺めたる事

四、勞働團體の設立を見た事

五、勞働團體の設立と共に各所の勞働團體が協力提携し更にそれが全國的となつた事

六、勞働者の運動が次第に組織立ち罷業が其の問題如何に因りては各地の勞働團體を動かし彼等の聯絡と結束を堅めしめ更にそれが相呼應し相援助するの態度を執るに至つた事

七、獨り勞働階級のみならず各地の學生團が加はりて輿論を喚起した事

八、多年鬱積せる對外的不平が反帝國主義的思想と相觸れて一層その氣勢を高めしめ更にそれが反資本主義的思想を高めしめた事

九、直接の勞働問題以外更らに國際間の問題に對しても國民間に少しでも不平あれば之れがまた勞働運動を激成し易くなつて來た事

十、勞働團體及び勞働運動の實際的勢力が擴大せるに乘じ政客又は策士等が之れを政治的に利用せんとする傾向ある事

十一、勞働者自身も問題の如何に因りては勞働問題を離れて政治的に其の團體的勢力を提げて奮起せんとする傾向を有する事

十二、從來慣用せる温情主義のみを以てしては勞働者の滿足を得難くなつた事

奉天の庶民金融機關

在奉天　田原漢東

奉天市中に於ける庶民金融機關とも云ふべきものは奉天信託株式會社、滿洲共濟貯蓄組合、奉天實業信用組合の外に個人經營の質屋及び高利貸等が存在するだけだ。個人經營の質屋及び高利貸なるものは下層民を相手に高利の金を融通するもので、眞に庶民の利便や福祉增進や貯蓄を眼目としたものでない

之れは誰も能く知つてゐる。公設質屋や信用組合の必要はそこに存するのだ。此の社會的缺陷を補はんが爲め、昨年の春、在奉の一部有志は株式組織の公設質屋を計劃した。此の計畫は大資本を擁し低利で庶民金融の利便を計るのみでなく、一面庶民の生活的安定を促進する意味で無盡講を兼營し、此の方面より得たる貯蓄資金を利用して利殖を計らうと云ふのであつて、當時の警務署長末光源藏氏等は大いに贊成し、此の計畫に對して何かと便宜を與ねたものだが、質屋同業者との間に諒解が出來ないで、折角の此の計劃も遂に畫餅に終つた。

斯様な有樣で、依然質屋業者及び高利貸が庶民を喰物にして居る始末だが、此間僅に此の社會的缺陷を補足し幾何か庶民金融機關としての働きをなして居るのは、前記の奉天信託株式會社と滿洲共濟貯金組合と奉天實業組合の三つだけである。前者は信託業務の傍ら積立講、建築資金積立會の外、大正十三年の初めより信託貯蓄劵の發賣を開始し、後者は前者と稍その趣を異にして居るが、矢張り庶民の貯蓄積立を主眼とし、會員に限り貯蓄資金を貸付けてゐる。兩者とも庶民の貯蓄心と勤儉力行の美風を涵養し、自助の精神を振作し、一面對人信用を原則として小資本の貸出又は慈善貸付を行ふのである。今此等機關について調査し得た所を紹介しやう

奉天信託株式會社

奉天信託株式會社は大正十年末從來の信託會社を改組し資本金五十萬圓四分の一拂込みで創立されたものだ。同會社は信託業務の傍ら庶民の貯蓄心を涵養し、利殖を助長し、猶ほ之に依つて得た零碎なる資金を低利に且簡易に積立會員相互に貸付け、會員各自の利便に供すべく初め積立會を起し、其後更に建築資金積立會を計劃し、大正十一年より之を開始し、次いで信託貯蓄劵を發行した。各種業務の內容に就いて見るに概略左記の如し。

▲積立會　本積立會は會員を募集し、一定の金額を積立てしめ、積立金の內一定の金額を會員に順次に低利で融通し、會員相互の金融及び貯蓄利殖を圖るもので、種類としては二百圓會、三百圓會、五百圓會、一千圓會、二千圓會及び參千圓會に區別し、更に其の各會を甲乙丙の三種に別けて居る。今その各掛金及び償却金を表記すると

種別	積立金	期間	利息	償却金
甲種一千圓會	八二二、〇〇円	四〇月	一七八、〇〇円	一〇〇〇、〇〇円
甲種五百圓會	四一一、五〇	四〇	八七、五〇	五〇〇、〇〇
甲種二百圓會	一六八、〇〇	四〇	三二、〇〇	二〇〇、〇〇
乙種二千圓會	一、六一四、〇〇	四〇	三八六、〇〇	二〇〇〇、〇〇
乙種千圓會	八〇七、〇〇	四〇	一九三、〇〇	一〇〇〇、〇〇
乙種五百圓會	四〇三、五〇	四〇	九六、五〇	五〇〇、〇〇
乙種三百圓會	二四二、一〇	四〇	五七、九〇	三〇〇、〇〇
丙種五百圓會	四四四、〇〇	二四	五六、〇〇	五〇〇、〇〇
丙種千圓會	八八〇、〇〇	二四	一二〇、〇〇	一〇〇〇、〇〇

即ち四十箇月或は二十四箇月に一定の積立をなし滿期の後、一定の利息を附して償却するのであるが會社は毎回期日までに掛金の拂込みをした會員に對し特に時間奬勵費として抽籤に依つて一定の賞金を分配して居る。大正十三年十一月末現在の積立口數は五百圓會七組千圓會二十二組である。

▲貸付方法　積立會員の貸付は抽籤貸付と入札に依る貸付との二法より成る。抽籤は積立期間四十箇月のものは八回、二十四箇月の積立會は五回で當籤者は積立金全額の貸付を受け、翌月より毎回積立金を以て償却する。入札に依る貸付は滿期前資金の必要なる會員が入札して貸付を受くるもので、此の場合は會社において豫め最低限度の金額を假定し之れに最も近い金額の入札者に落札し、落札金額の中から一定の入札奬勵金を控除して貸し渡すので償却は抽籤の方法と同一である。兩者とも積立金の未了前自己の積立金と信用とに依り會社より無利息の金融を受け、之を月賦償却するのであつて、被貸付會員の多くは此の資金を活用し、其の利益を以て償却に充てるから、元金は丸々浮いて來るのである。此の積立會は小資本を平易に而かも低利に融通するのみならず、償却も月賦償却であるため、小商人の商業資金に最も能く利用されて居る。

▲建築資金積立會　滿洲に於ける住宅問題は財界不況後の今日も猶ほ社會問題の一として考慮を要する點がある。殊に財界好況時代の一般家屋拂底と家賃暴騰とは庶民の生存上に大脅威を與へたが之が緩和を計り、併せて邦人の土着永住を理想として計劃されたのが此の建築資金積立會である。同社が此の會を開始したのは去る大正十一年で、初め三十口を一組として組織すべく會員の募集を開始したところ、豫定數に達しなかつたので、十八人の加入者を以て一組を成立した。本積立金は三千圓を限度とし、毎月六十圓宛を五十箇月に積み立て、滿期の後

之を建築資金として住宅を建築するものと、會社の所定に依り、特別積立をなして直ちに家屋を建築し會社に對する債務を四十二箇月間に月賦償却するものと、此の二方法がある。前者の場合、會社は積立金に對し日步二發五厘の利息を附し、滿期の後、元利金を返戻する事になつて居る。今建築資金積立償却金率表を掲ぐると左の如くである。

建築着手回次	自次回至滿會償却金	建築着手回次	自次回至滿會償却金
一	七一、〇〇円	一四	七八、五〇円
二	七二、〇〇	一五	七七、五〇
三	七三、〇〇	一六	七七、〇〇
四	七四、〇〇	一七	七六、五〇
五	七五、〇〇	一八	七五、五〇
六	七六、五〇	一九	七四、五〇
七	七七、五〇	二〇	七三、五〇
八	七八、〇〇	二一	七二、五〇
九	八〇、五〇	二二	七一、五〇
一〇	八二、〇〇	二三	七〇、五〇
一一	八一、〇〇	二四	六九、五〇
一二	八〇、〇〇	二五	六八、五〇
一三	七九、五〇	二六	六七、〇〇
二七	六五、五〇	三五	五〇、五〇
二八	六四、五〇	三六	四七、五〇
二九	六二、五〇	三七	四四、〇〇
三〇	六一、五〇	三八	四〇、五〇
三一	五九、五〇	三九	三五、五〇
三二	五七、五〇	四〇	三〇、五〇
三三	五五、五〇	四一	二四、〇〇
三四	五三、〇〇	四二	一六、〇〇

▲信託貯蓄券 同社は本年初め奉天總領事館の特許を得て信託貯蓄券の發賣を開始した。此の信託貯蓄券は割增附債券と其の性質を異にし、純然たる貯蓄奬勵の目的で零碎な資金を積み立て、以て不時の急に備ふると共に、一面抽籤に依つて長期低利の方法で貯蓄資金を融通する趣旨の下に計劃されたものである。額面は金十圓で、千口を以て一組とし會員は之を十箇年間据ゑ置き、十年後利息金五圓を附して十五圓の元利金償却を受けるのである。會社としては元々貯蓄を主眼としたものであるから、中途の拂戻は希望しないが、會員中特別の事情ある者には元金の七掛と一箇年毎に五分の利率を加へ拂戻して居る。既に六組卽ち六千人の加入者に達したが

更に昨年中第七回の募集に着手した。

▲特別貸付　本貯蓄券は前記の如く年五分（但し單利法）の利殖のみでなく長期低利資金の貸付が特典として附せられて居る。夫れは一組毎に一回で最も公平なる抽籤に依つて行はれるのであつて貸付金は左の九種より成るのである。

第一彩	五百圓	第二彩	三百圓
第三彩	三百圓	第四彩	二百圓
第五彩	二百圓・	第六彩	二百圓
第七彩	百圓	第八彩	百圓
第九彩	百圓		

合計二千圓を貸付期間五箇年、利息年三分で貸付ける。此の貸付は表面上期間を制限し年三分の貸付利息を制定してあるが、事實は無擔保、無保證、無期限、無利息同樣で貸付けて居る。會社は右二千圓を或る場合、回收し得ないものと覺悟して居るらしい此の寛大な貸付は餘程人氣を惹いて居るが此の特別貸付を小商業資金として利用するものは餘り多くない樣だ。猶ほ會社は一般加入會員に不安のない樣に特に總領事館の命令に依り毎回拂戾資金を銀行に保證準備として預けてゐる。現在の貸出額は一萬二千圓で貸受人は五十四名に達するさうだ。

滿洲共濟貯蓄組合

本組合は勤儉貯蓄の美風を涵養し、その貯蓄金を安全にして且確實有利なる方法に依りて利殖し、一面共濟金並に慈善事業の促進をモットーとし、大正十年三月中に計畫されたものである。發起人は一口金三百圓宛を出資し、之を基本財産として會員を募集し、同年九月三日開業した。餘程その期日を選んだのである。當時の組合の基本財産は一萬五千圓で發起人は組合の基礎を鞏固にし一般の信用を繫ぐ爲め出資に對しては三箇年間利益の配當を行はず而して其の利益は基本金に繰込むことに申合せ、爾來會員の募集に力めたが、事業其のものゝ性質が有利であるのと、今一つは積立額が少額であるとの爲めに庶民階級に歡迎され、豫想以上の成績を示した。昨年九月その第一回の償却を行つた。此の貯蓄組合の内容は概要左の如くである。

▲組合の組織　當組合の會員は賛成會員、正會員の二種で、賛助會員が其の中心となつて正會員の利便を圖り、正會員は毎月一口金三圓宛を三箇年間繼續して積立てる。滿會の曉、組合は元金百八圓

に對し年一割の利息を附し、元利金百二十五圓を返却するのであるが、猶は滿會の後此の元利金を其儘据ゑ置く時は、組合は之れに對して年一割の利息を附し、年々之れを元金に繰入れる。又滿會の後元利金を据ゑ置き、更に月額三圓宛を積立てる會員の積立をも取扱つて居るが、第一年から十六年に至る十六年間の利殖表は左の通り。

年數	月額三圓三箇年滿期後据置けば	四年目再び月額三圓宛三箇年繼續し据置けば	七年目再び月額三圓宛三箇年繼續し据置けば
一年	三六、〇〇円	—	—
二年	七二、〇〇	—	—
三年	一〇八、〇〇	—	—
元利金	一二五、〇〇	—	—
四年	一三七、五〇	三六、〇〇	—
五年	一五一、二五	七二、〇〇	—
六年	一六六、三七	一〇八、〇〇	—
元利金	—	二九一、三七	—
七年	一八三、〇一	三二〇、五一	三六、〇〇
八年	二〇一、三一	三五二、五六	七二、〇〇
九年	二二一、四四	三八七、八一	一〇八、〇〇
元利金	—	—	五一二、八一
十年	二四三、五八	四二六、五九	五六四、〇九
十一年	二六七、九四	四六九、二五	六二〇、五〇
十二年	二九四、七三	五一六、一七	六八二、五五
十三年	三二四、二〇	五六七、七八	七五〇、八〇
十四年	三五六、六二	六二四、五六	八二五、八八
十五年	三九二、二八	六八七、〇一	九〇八、四六
十六年	四三一、五〇	七五五、七一	一〇〇〇、〇〇

▲貸出及び成績　本組合は會員相互の共濟を圖る爲め會員に限り貯蓄貯金の貸付けを行つて居る利息は一定せず、生産方面に使用するものは月歩六錢内外であるが、不慮の災禍に依る貸出に對しては日歩二三錢の低利で融通する。大正十三年十一月末現在の貸出は第一回償却の爲め大部分回收したが猶ほ六萬圓近くの貸出帳尻を示して居るさうだ。現在の加入會員は一千三百七十三名で口數二千三百十九口に達した。創立當時は一般に理解されなかつたので、勸誘に餘程苦心したらしいが、其後次第に理解され、自ら加入を申込むものが增加した。殊に第一回滿會の會員の六パーセントは元利金を其儘据ゑ置きて積立を繼續するものである。

▲慈善及び慰安　本組合の特徴として特記すべき事は慈善及び共濟公益事業である。組合員にして火災類燒に罹つたものは、規約により弔慰し、一定の見舞金を送り、又病氣の際は事情に依り組合贊助員の醫師が特に無料で診察し、藥價の割引施藥を

なし、また貧困者の兒童に對しては敎育費の貸付補助をも行ひ、猶ほ品性を淘冶する爲め隨時宗敎家の講演會を催し、家族制度を重んじ、毎年運動、慰安會、觀劇會等を催し、組合員相互の親睦を計つて居る。會員中不幸にして死去した者がある時は、その遺族に對し香典を贈る事になつて居るが、金額は二箇年以上の積立をなした者には金二十圓、二箇年未滿の者には一圓以上二十圓以下を贈るのである。之が爲め組合では市內の醫師、敎育家、宗敎家等三十七名を名譽贊助會員とし、更に從來の成績に鑑み資本金五十萬圓の株式會社に改組し、積極的に社會奉仕をなす計畫中であるとの事に聞く。

奉天實業信用組合

奉天實業信用組合は在奉一部の商人が貯蓄と各自の實業資金の融通に便せんが爲めに設けられたもので、組合は此の旨趣の下に貯蓄會を組織し其の貯蓄金を信認金として會員相互間に手形保證其他の金融上の便宜を圖るのである。本組合は當時の駐滿鮮銀理事故太田三郎氏の諒解と援助の下に去る大正十年七月二十一日創立を見たのである。

財界變動後の金融界は極度の硬塞狀態を呈し、小商人は之が爲め困憊の極に達して居たが、本組合の成立を見て以來、組合員相互の信用に依り金融は圓滑となり、從つて亦各自の經濟的安定を期し得られ意外に好成績を擧げた。大正十二年一月より鮮銀は從來の貸出制度五萬圓を十萬圓に增額し、猶ほ組合の積立金を引當に金融する事に改め、爾來順調に發展し、最近は常に十萬圓內外の貸出帳尻を見るの狀態で、積立金の如きも大正十三年十一月末は六萬圓に達し、內容の堅實化と共に信用程度も向上し、奉天に於ける一般的金融機關として前途を囑目されて居る。今其の內容を記すと概要左の如し。

▲組合の組織　本組合は組合組織で、組合員の責任は有限とし、存續期間は五箇年なるが、滿期後は總會の決議に依り更に延長する事が出來る。現在の會員數は創立後一名の退會者を出したのみで十八名であるが、本組合內に隷屬する貯蓄會は一口金千圓とし、入會後一箇月金五十圓宛を積立て、組合の基本財產として鮮銀の貸出に對する信用保證金に充當して居る。役員は組合長一名、副組合長一名、評議員五名で、毎年一月、七月の二回に定期株主總

會を開催し、前期間の業務報告をする。

▲金融概要　本組合員は各會員の相互信用及び保證に依つて鮮銀より貸出を受け、各會員の納入する積立金の範圍内で融通を受くる場合は、單に會員の承認を求むるに過ぎないが、積立金を超過した借受を要する場合は、組合員中より一名の連帶保證人を選定して手形の裏書を爲し、そして貸出を受くるのである。然し此の借受は金額に制限が附せられて居る。即ち一口の會員に對し最低二千五百圓、最高七千五百圓で、限外の貸出は特殊の事情と組合員の諒解の無い限りは爲さないことに規定されて居る斯くの如くして各組合員は循環的に常に貸出を受けて居るが、借受高は常に一定せず、平時は五六萬圓内外で、年末その他商品の仕入期には十萬圓以上に達する。十一月末現在の調査に依ると、總貸出額が十萬圓に達した事になつて居るが、組合員は組合員相互の信用に依り何時でも右の範圍内であれば無擔保で金融の便を得られるのである。

▲利益及び維持　本組合員に對する鮮銀の貸付利息は二種に分れ、一は組合員の積立金高の範圍内で貸付ける場合の利息と、一は積立金高を超過した貸付けの場合で、前者は日歩二錢三厘、後者は日歩二錢九厘である。本組合は維持費の捻出策として各組合員が借受けを爲す毎に組合より全金額に對し日歩三錢五厘の利息を附し、其の内より前記の利息を鮮銀に支拂ひ、殘餘の利息金は組合の利益金として積立金に振込むのである。創立當時より今日に至るまでの殘餘利息金は合計一萬三千圓に達し而して此の一部を經常費に充てゝ居る。

內容の概略は前述の如くで、本信用組合は內地に見るが如き信用組合法とは全然趣を異にし、一種のシンジケートにして、實は庶民金融機關と稱すべきものでないかも知れぬ。本組合は組合員相互の信用を月々納入する積立金の範圍に於て各組合員が個人的小資金を融通するもので、財界凋落後の奉天には此種組合が續々計畫されたが、多くは不結果に終り獨り奉天實業信用組合のみが逐年堅實なる步調の下に發展しつゝあるのである。現在の會員を商業別に記すると凡そ左の如くである。

軍需用品雜貨商、煙草商、食料雜貨商、菓子商、書籍店、旅館業者、吳服商、化粧品雜貨商、藥種商、雜貨商、洋品雜貨商

社會問題彙報

支那勞働運動の趨勢と滿洲

滿鐵調査課にては邦人對支企業家に採り興味あり且つ參考となるべき支那勞働史なるものを編纂中なるが聞く所に依れば支那の勞働界は北支那よりも文化程度の進步せる香港、廣東、上海等を中心とする南支那において早く發達し勞働組合は地方的團結より漸次全國的に擴大せんとしつゝある傾向にあり最近上海に於て支那國有鐵道從業員聯盟會なるもの組織せられ吉長四洮兩鐵道從業員にも之が入會方を勸誘し來れる程である從つて勞働爭議も地方的より全國的に且つ組織的に行はるべき狀勢となつて來た從來行はれた支那の勞働爭議は物價騰貴及び銀の下落等に因る生活難に基く賃銀値上の要求を主因とするもの最も多く排外的思想に因るもの之れに次ぐ狀態なるが爰に注意すべきは今後の同盟罷業が單に經濟的のみならず併せて政治的の目的を以て行はれんとする傾向ある事である。

一方滿洲に於ける勞働界は支那本部に比して極めて幼稚にて大正七八年頃大連奉天等にて行はれたる同盟罷業の如きは頗る無雜作に企てられ從つて賃銀の値上をなすか官憲の干涉を試みるかの比較的簡單な方法を以て容易に解決した程であつたが最近一種の勞働團體として大連沙河口に中華工學會なるもの組織せられたのを始め各地にも大小勞働組合の組織されんとする模樣あり而して前記の如く支那本部の勞働運動は全國的に動かんとしつゝある趨勢を有して居るから滿洲勞働界も當然之に刺戟せられて漸次大きくなり階級意識を基調とする勞働運動も軈て行はるゝ時代が來るに至るであらうと見られて居る。

北公園及び電氣遊園の改造

大連北公園事務所は日露戰爭時代の家屋を其儘使用し來つたものであるが最早使用に堪ゐざる迄に腐朽し且つ公園の風致を損する點が多いので今回建坪百五坪百八坪工費三萬一千四百四十圓の豫算を以て現在の大弓場跡に本年早々新築工事をなし年內に竣工の豫定であるが右は事務所、溫室、倉庫、大弓場を含み大弓場は現在事務所跡に移して之等の各部は一轄して成るべく遊園地の擴張を圖るさうである尙ほ今の北公園の設計は舊露西亞時代の遺物で樹木の配置宜しきを得ず何等の風致を成して居ないから公園事務所新築を機として現在三個あるテニスコートのうち中央部の一つを撤廢し其跡に瀟洒たる芝生を植へ之と相對して猿小屋前の小池を擴張利用し兩者相待つて公園の中心を形造り面目を一新するといふ事である次に圖書館としての一部利用を企圖せられてゐた問題の記念館は萬一圖書館として使用不可能の場合は之を兒童の室內運動場或は兒童俱樂部として施設開放すると云ふから愈々之が實現の曉は眞に理想に近い公園が出現するだらうと思はれる。

滿鐵は北公園の改造と共に電氣遊園擴張計畫をも樹てゝ居る卽ち曩に中央ホテルに貸下げられ期限內にホテル建造を見なかつた爲め再び民政署へ逆戻りとなつた伏見臺電氣遊園下の千八百七坪を利用し電氣遊園表玄關の大擴張を圖るべく該土地の貸下げを民政署に請願中であるが今その擴張計畫の內容を聞くに現在電氣遊園入口の狹隘なるため僅かに一部分のみ利用されて海岸側は閑却された感があるので今回現在の賣店裏より鹿小屋下方まで取擴げると共

に崖には植物を配し小欄干、聖德街電車交叉點を電園の正門となし其邊に車馬の溜りを設くると共に道路の配置を變更し園内の奥行を深く觀せる爲めに適當に樹木を植ゑるといふのである猶ほ玄關の整美と並行して小欄干方面の改善に就いては現在殆ど廢物同様になつて居るローラースケート場を一尺位堀下げ事務所近くの池より水を通はして兒童の徒渉池とし剝製標本陳列場及び射的場は兒童の休憩室にし本年度より來年度に亘つて遊動木、辷り臺、ブランコ等の兒童用運動器具の設備を完成し大いに兒童の爲めに利便を圖るといふ

次に星ヶ浦公園に關してもゴルフ場上手の小丘には溪あり芝生あり中々景勝で風雅に富み公園として最も望ましい地域なので星ヶ浦公園の一部として併合の上それ〴〵施設をなし臺山屯舊無線電信敷地に充てられてゐた土地には植物園及び完全なる兒童運動場を設け更に一歩を進めて水族館の新設等遠大なる公園政策を逐次實行する筈だと云ふから聽ては完備した行樂地が實現するであらう。

滿洲でも要求さるゝ托兒所

廣く全滿を見渡して聊か物足らぬ感じのするのは社會事業が餘り行屆いてゐない事である職業紹介所や免囚保護事業等の二三があつても充分その使命を果すには微力である其の程度において行はれて居る兒童幼兒に對する施設あることも一部の人には知られて居る其の一つは大連播磨町の育兒ホーム他の一つは旅順にある鎌倉保育園等であるが夫等の缺點とする處は孤兒院系統の色合を多分に持つことであつて廣く一般に利用されない傾きがある殊に托兒所的なもの皆無の感があるが滿洲でまだその必要を感じてないのに依るのであらうか之は俄にさうと斷言出來ぬ節が多い滿鐵では社會課が夙に之に着目し何等か具體的計畫を建てさうであつて而もそこに至つてないが最近さうした事が大分具體化さうとして居る某社員の談に依れば沙河口工場の職工或は埠頭勤務の下級員の間には此の托兒所を要求するものがあるさうだが彼等の境遇から見て無論さうあるべきで獨り夫れ等滿鐵現業員と限らず市中に於てもその必要に迫られて居るものが多いと思はれる斯うした際にこれを施設することは最も適切であらう。

子供の家といふ名稱で何うであらう托兒所といふと何となく冷たい感じがする斯うした名稱でその事業も晝間だけ預かることを本義とし入院その他の場合において夜間も預ることが出來る位にしてやれば不純なものにもなるまいと思ふ差當り沙河口に實現させたい資金は何うにかなるだらう是はまだ話に過ぎないが斯うした提案が社會課にあるだけは事實であるから遠からず實現するであらう「子供の家」何となく響のよい名稱だ父や母やの歸るまで子供の家に集つて保姆の指導を受けながら面白く愉快に遊ぶことが出來たら子供の幸福は言ふまでもない又夫れを殘して勤務に或は副業に出掛ける父や母やの安心も言ふ迄もないことで子供の爲めに講習會其他に出掛けて知見を廣めることの出來ないお母さん達に取つても非常な助けになるだらう。

生活改善會で結婚式の新案

結婚といふ事に莫大なる費用を投じて之を行ふことの不經濟にして無意味なは明白にて此の不況の時節柄最も愼むべき事なるが東京の宮田修、東郷昌武、肖守諧吾の三氏はこれを最つとたやすく行ふ事に苦心中であつたところ此程漸く新案が出來上り三氏の屬する生活改善同盟會でこれを實施することになつたそれは第一に嚴肅にして意義あり而も簡便を旨として式場は何處にでも直ぐ設けらるゝ立體式の洋七和三の和洋折衷式で花嫁の式服は

白（これは後のつぶしがきく、又式場で貸してもいゝ）司式者とそれから謂ふところの男蝶女蝶の少女二人には襟だけ紅の白麻か又は白羽二重の洋服とそれに和服にも適した上衣を纏はせて威嚴を添へるのである。

尙變つた點は當分同志の間だけなりとも三三九度を廢して誓約書を交換し新夫婦署名してこれを當日來式者に入口で自筆署名とした奉書の綴り書と共に永久に記念として保管する樣に手渡しすることで音樂はピアノ琴オルガンを用ひ神佛式ならば笙しちりきも用ひるソシて式の時間は約三十分で直ぐ披露會にかかるのだが一人前二圓を越さぬ事といふ會則が定められてゐる此の間花嫁は色直しするならば一回だけしていゝと定まつてゐる式場披露會場は別々でも出來るが生活改善會本部ではこの案によつて式場會場の附屬した二階建ての婚禮場を設立しようと費用六七萬圓の豫定で星野錫、本野久子兩副會長を始め澁澤子伊藤子の後援の下に基金募集中であるが何れ宮內省に請願して東京市の中央に近くその敷地を見つけて設立する筈であると。

社會事業の國際的機關新設

昨年九月末日から十月始めにかけてプラーグにおいて開かれた國際勞働立法協會と國際失業協會との聯合大會である國際社會問題大會を機會として社會問題と勞働問題に關する既存の國際的協會の合同を行はんとする計畫がある卽ち此の計畫は過去二十五箇年の歷史を有する國際立法致會と十五年の歷史ある國際失業協會の外に常設國際社會保險委員會等をも加へて社會的政策に關する國際協會を新たに設立せんとするものであつて其の目的としては既に平和條約中の勞働篇の前文に明示されて居る諸原則に從つて社會正義の政策促進に從事して居る各國の人々の努力を指示し統轄及るにある之れに就いて我が日本も失業問題及び移民問題と共に直接に關係ある事ゆゑ日本にも此際是非國際失業協會の支部を作つて欲しいと協會本部の幹部ヴアレー及びフス等の人々から再三國際勞働局東京支局の淺利順四郎氏の許まで言つて來るので同氏も此の趣旨を容れて各方面の代表的な人々と相談して設立に努めて居ると云ふから早晚設立される事だらう右に就き淺利氏は語る。

此の事は自分が日本へ歸る時にも協會の人人から日本に於ける少壯熱心家を以て支部を作つて貰ひたいと云ふ事を呉々も賴まれて居た然し自分としては折角勞働問題に關する國際的の協會を作るならば單に失業や移民の問題のみでなく一般勞働問題をも取扱ふ協會を設立したいと思つて居る現に國際勞働局長アルベルトーマ氏も既に日本においては過去數回の勞働總會に種々の資格において參列した人々も多く言はゞ幾多の國際勞働局援助者を有して居る事であるから之等の人々が勞働條約の中に揭げてある勸告を實施する爲めに一つの協會を作つて呉れる事を希望して居つた位で自分も此際斯うした協會の設立を心から望み現に各方面の人々とも相談をなし贊成者も大分得て居る尙此の種の協會には是非とも雇主團體や勞働組合代表者の參加を得なければ善き成績を擧げ得まいと思ふと。

凡有惡事を働く不良少女團

最近驚くべき不良少女團を警視廳が探知し丸ビルの各會社を始め郵船ビルや海上ビルに散在して居る此の團員を一齊に檢擧する事となつた夫れはハート團と稱し六十餘名の少女團員がタイピスト或は事務員となつて居る此の團長は現在丸ビル西入口の邦文タイプライター出張所タイピスト林キミ（二二）で自らカルメンと稱し活動の脚本の樣な筋で凡ゆる惡事を働いて居たキミが警視廳で自白する所に

依るさ小遣ひに困つて居る女事務員や新しがり屋の女を至る所で誘拐してタイピストや事務員に世話をして置き丸ビルの西北角に在る喫茶店茶楠の女將さ渡りを附けて鼻下長の男さ見たら片端から右の喫茶店に引摺り込んで女事務員を世話するさ云つて件の女等を引合せ無理無體にその操を提供させ男の骨まで甜らうさ云ふ仕組でさうしつゝある中に誘拐された女は何時か其道に染み込んでしまつて遂に團員さなり濟ますのである斯うした女は丸ビルを中心さして何十名あるか判らないさ云ふ事である團長キミ子は府下淀橋角筈の專賣局前の林靴店の娘で邦文タイピストを勤める旁ら掏摸や脅迫迄やつて居たさ云ふ。

聽け一市民の切なる此要求

内地には可なり小さな都市にまで公設又は私設の托兒所さいふものがあつて人手少い家庭にされだけの利便を與へてゐるか知れないこの大連市も滿蒙の玄關口であるの文明都市であるのさ振れ込みだけはなかく大きいがこの托兒所のないことは市社會事業における一大缺陷であらう數年前に私が來連した當時まだ就職も出來ずして徒食し僅かの蓄へも遣ひ果たして夫婦さ當歳の長男が共に餓死せんばかりの悲境に陷つた事があつた幸ひ愚妻は看護婦免狀の所持者であるため知人が頻りに病院への就職を勸め且その口まで探して吳れたので何うやら餓死は免れたが嬰兒一人のために如何さもすることが出來なかつた當時の苦境は思ひ出すのも涙の種である。

今日では薄給ながらも某所に勤務してゐるが其後また一兒を擧げたのは先月であつた然るに產後の經過が面白くなくて妻は遂に入院するの已むなきに至つた嬰兒は共に病院に運んだが目下三歲の長男のため勤めを休まねばならぬ狀態にある内地さ違つて親類緣者を早速呼ぶ譯にも行かず一日休めば一日だけの日給が減つて入院の費用など何處から出やう的もない實際心細さの限りである斯かる悲運の際は素より恁んな事がなくても益々世智辛くなる當節子持の夫婦が共稼ぎせねばならぬ家庭も決して尠くはなからうさ思ふ市で企てゝ貰へれば勿論申分なし個人でも誰か特志家が蹶起して社會公共のためせめて實費で托兒をして下さる人はないでせうか他の都市に比して一箇の托兒所さへもないさ云ふのは大大連市の一恥辱ではないでせうかさ一市民さいふ名で遼東新報に出てゐた滿鐵でも別掲の通り此の事は考ねて居るさ云ふことだ。

不良少年窃盜團と其の組織

年末を齊入時に大阪市内外を横行する不良少年を取締るべく大阪府刑事課致護係は昔臘中大いに活動したが不良少年は大阪において月々五六十人の割を以て增加し最近の統計では住所不定のもの千二百人、家庭にあるもの二千三百人、計三千五百人の數字を示してゐる最近の傾向さして憂へられてゐる犯行は彼等が團體を組織して竊盜を働くことで昨年十一月濟寺附近で檢擧したとき三組の不良少年竊盜團を發見したが何れも巧みに道具を利用し販賣係、活動係等を定めて組織的に智能化した竊盜を働くさいふ事が分つた。

それから近米運動獎勵の上に學校當局や家庭が特別の注意を拂ふべき一新現象があるさいふのは此頃日曜でもないのに中之島やその他公園空地で盛んに圓盤投、走高跳等の練習を朝からやつたり乃至は白木屋、高島屋、三越等の大百貨店に大概毎日の如く五人、八人組の中學生が入り込んで食堂でパクついて居るのがあるからで致護係の取調べによるさそれ等の大部分は學校さ家庭さを欺いて運動や遊戲に熱中する手合ひで中には通學簿を僞造して半年も教師父兄の手前を胡麻化してゐる

連中がある激しい運動の結果は自然美食を要求し暴食には極まつた樣に所々の飲食店で食事をするため親から貰つた小使錢では足りなくなつて不良の群に投ずると云つた徑路を踏むものであるが教護係から教護の目的を以て學校に通知してやると學校の威信等から割出し直ちに眞向から除籍や退學處分を喰はせるがこれでは本當の教育の目的は達せられぬ又運動の健全な發達も期せられぬので同教護係は近く學務課邊りとも協議の上何とか善後策を案出したいと言つてゐるさうだ。

航空ボーイスカウトの計畫

陸海空軍の三對立に倣らひ少年團にもボーイ・スカウト、シー・スカウト及びエヤア・スカウトの陣容を整へやうと云ふので「空の少年團」設立の議があり目下航空局の伊藤囑託の手許で海外少年團の組織内容等を調査中であるが元來部會と田舍の區別なく少年はまだ六、七歳の模型飛行機を愛玩する頃から飛行機に對する智識慾が極めて熾烈でこれを正確に且つ健全に指導助長するとせぬとで將來の「航空日本」に及ぼす影響は甚大なるものがあるそれで幼時から航空機一般に關する常識及び航空思想を適宜に教導し一方團體的訓練に馴らす必要があると云ふので航空局の波多野次長以下大乘氣で學校教育の延長の如き形式を採らず全然縱斷的に有志の少年を集めやうとして居る平素は學科、講演、飛行場見學等を行ひ飛行機の發着に對する場内の警戒にも任じ墜落や不時着陸等の事故發生の際には救助その他の働きをなし猶ほ資金の餘裕があれば飛行士を養成したいと言つてゐる。

設置場所は東京、大阪、岐阜、名古屋、福岡等官民飛行場に近い場所から創めこれを東京本部で全國的に統轄する仕組みだが最初は先づ東京と大阪の二箇所が同時に發會式を擧げる筈で大阪では本年早々佐木航空官が關係者に集つて貰つて創立の相談をする豫定である總裁に誰を推戴するかは問題だが成るべくは帝國飛行協會や航空局等と直接關係のあるものとせず全然獨立した自由なものとしそして制服なども或る程度まで航空の氣分を表現するやうなものを撰ぶと云ふことだ。

常識化されて來た産兒制限

享樂主義や或はその他の不健全な利己主義的考へ方からでなしに産兒制限といふことは今や智識階級の常識と化さんとして居る限りある生活の裡において無制限に子供を産むことの善い事であるか惡い事であるか將た又好ましい事であるか好ましくない事であるか夫れが單に表面的消極的に考へられるばかりでなく進んで内面的にその實行方法如何を討究するやうな時代になつた大きく言へば優生學又は人口問題の立場より小さく言つても各自の生活を充實させ平靜を亂さぬやうにして子供の教育を出來るけ完全にするため産兒制限の智識は時代の常識と言はればならぬものがあると云へる東京に於ては早くから此の方面の運動が開始され活動を續けてゐたが最近殊に大震災後に至つては是等の團體が注意深い活動を開始したかの如くに見受けられる先づ例の石本男夫妻の主宰する産兒調節研究會は大正十一年年に創立されて以來可なり確かりした仕事をして來て居りまた京橋區木挽町平民病院を中心にした社會政策實行團は加藤時次郎、小川隆四郎兩氏が頻りに努めて居り下目黑妊娠調節相談所では飯島銀次郎氏が西巣鴨庚申塚人口問題研究所では岡野辰之助氏がそれ〴〵その目的のために活動してゐる中にも妊娠調節相談所は京橋の第一相互館の三階に事務所を設け全國で會員三千人を有してゐる筈である加藤、小川兩氏の平民病院は質問者に一々解答を與へるといふ遣方の外に一種

の手術をも公然行つてゐるといふ事で大分進んでゐる次に飯島氏中心のものは錠劑をもつて目的を自由に達するといふので藥劑師の飯島氏が率先して頻りに活動してゐる。

何は兎もあれ此の運動は決して排すべきものではないとされて居るタトヒ健全な人口問題的立場からや或は優生學などゝいふ仰山な考へ方からでなくとも産みたくないものを産まずに濟むことは好い事で殊に注意すべきは是等の各種産兒制限運動團體の目的とする宣傳活動者は主として中産的知識階級でありました事實とうした機關をば利用して實行しようといふのは中産の知識階級に多いのであるから是等に今一層の醫學的安全が加へられ且つ一種の法の保護が與へられる事になるならば種々な意味において喜ぶべき結果が得られるであらうと一般識者に見られてゐる但し斯かる運動の一面において男女關係の頽廢墮落の生じないやうな健全な道德の皷吹せられねばならないのは言ふまでもない事だ。

寡婦の保護に就いての調査

夫に死に別れて子供を抱へ路頭に迷ふ寡婦第二の國民を抱き母の愛は溢ふるゝ程あつても身に職なく足手纏ひの子供のために職業の市場で就職の機會を得られぬ寡婦に對して日本では全く國家が顧みぬのは人道上憫惘である許りでなく此の狀態をこの儘にして置いては將來不良少年少女がかうした所から生るゝと云ふ懸念より今度婦人社會事業懇談會ではこの問題はモハヤ一人々々の寡婦に對して涙を流してゐる場合でなく議會に迫つて寡婦保護法案を制定する必要ありとなし偶々內務省がこの問題に心を潛めてゐるので委員を擧げて遂に運動に着手する事になつた。

今同委員會の調査によると恩給局の事帳に載つてゐる恩給を受けてゐる寡婦は大正十三年度九月で文官一萬二千八百二十二人、陸軍三萬千七百五十二人、海軍四千二百九十六人敎育千百一人、警察千五百九十九人、廢兵十六人、待遇三人等で遺兒扶助料を貰うてゐる者の數は文官一萬四千二百二十三人、陸軍九萬四百十三人、海軍一萬一千九百三十九人、敎育一千二百五十一人、警察千八百十人、廢兵八十四人、待遇三人である以上は夫の生前の月給の三分の一に當る扶助料を受けられるが政府に何等關係のない民間のもので夫を失ふて生活に困る寡婦は全國で十五萬人に達し遺兒の數も夥しいものであるが同會の問題とする寡婦保護法案の骨子とするところは此の種の寡婦並びに遺兒に對して生活費敎育費を國家が負擔すべしと云ふのである。

支那婦人の纏足禁止と廳令

支那婦人の纏足を禁止防止して人類愛に浴せしめやうとの趣旨から大連管內の纏足協議會が主動者となつて實行貫徹に努め大連の中華青年會もこれを援けて昨年中盛んなる放足宣傳と講演會を開催したが之が實行に就ては單に會屯長より慫慂してもその可能性が薄弱であるとの理由から何等か拘束力ある方法を採つて貰ひたいとの意見あり民政署側としてもこれを諒とし多數支那人代表者の希望なれば廳令を發布して纏足防止禁止の實行をなすも可なりとの意見に一致したらしい。

右の廳令が發布さるとせば其の廳令の制限內容は（一）出生兒は絕對に纏足せしめざること（二）二十歲未滿の者にして旣に纏足せる婦人に對して放足を爲さしむること（三）違反者には夫々の罰則を設くること等の規定を設くるに至るべく而して習慣に囚はれ易き支那婦人をして直ちに放足せしむることは一部に於てやゝ實行困難なる點あり右廳令實施期間を一箇年延期する等の便法を設けやうとの說もあるがまだ決定しては居ないやうだ。

生活不安

◆我國の現狀は之を一言に要約すれば生活不安の時代で社會の各方面が總べてソワ〳〵して居る◆政治界でも經濟界でも思想界でも悉く渾沌として天地開闢の太古時代に似た所がある◆近因は大正八年前後の物質萬能觀と投機虚業であるが其の由つて來るところ遠く且深しで遠因と視るべきものは種々ある樣だ◆卑見を以てすれば歐米の物質文明に陶醉して東洋の良所を閑却し國粹や歷史や民族性を餘りに藐視した爲であると思ふ◆英國に端を發した產業革命後の資本主義的經濟制度をそつくり其儘模倣した結果は遂に面倒な勞働問題を發生せしめた◆資本主義的經濟政策は商工業に熱中せしめ都市に人口を吸取する爲め農村を衰頽せしめ農村の衰頽は質實健剛といふ我國の良風美俗を失はしめた◆財界沈衰の時代にも拘らず都市人の多くが尙ほ浮華輕佻の陋風を改め切らないのは旣に全く朱に染つて何うにもそれを改めることが能きないからで有らう◆其癖一般の生活は非常に不安を感じて居る不安を感じながら贅澤な眞似をするのは甚だしい矛盾だが其處が變態心理とやらの致す所であらう◆官吏には恩給と云ふものがあつて十年以上勤續すれば失職しても幾らかそれで喰ひ繋がれる◆處が民間の者には斯うした生活保障がない大きな會社に勤めた高級社員は在職中に貯蓄も出來やうし罷めた時に相當多額の退職金も貰へるが中以下の者はさう行かない彼等の涙金なるものは多寡が知れてゐる◆我國では勞働者に對する生活保障さへもまだ滿足に出來て居らないのだから智識人に對する生活保障は丸で成つて居ない◆彼等の中には平素多少の貯蓄をした者もあらうが一年も遊んで居れば忽ち顎の下が乾上がる◆妻に內職をさせ男の子を給仕などに出し女の子を女事務員にして一家總掛りで生活するとしても其の生活の貧弱且不安なることは掩ふべくもない◆個人的に視れば彼等は斯くして生活の苦患と鬪ひつゝ肉も靈も次第に滅びて行く迄だが之れを社會的に視ると斯樣な者が多くなる事は容易ならぬ問題である◆勞働者は團結力を有つて居るが智識階級、中產階級には其の力がないと多寡を括つて居たら飛んだ事にならうぞ◆智識階級に屬する者は相當の敎育を受けたもので其の內には最高學府を出た者もある◆大學を卒業する迄に

は可なりの費用を掛けたに違ひない卽ち元を卸して學問したのだ夫れが社會に出で生活不安を感ずる様になれば勢ひ不平の氣が彼等の間に醞醸して來る◆それに政治界でも經濟界でも其他のどの方面でも大體繩張りが出來て了つたので後進の士が直ぐいゝ地位を得ることは能きない◆維新後の明治の初めには二三十歳で顯要の地位に就いた者もあつたが人間がウンと殖ゑて而も社會の行詰つた今日さうした事は全く望めない◆大學卒業生でも天秤を肩に擔がねばならぬ時代となるかも知れないが斯うして彼等の間に不平の氣が醞醸して來ると勞働問題以外に今一つ重大な而も厄介な社會問題が起つて來る虞がある◆德川の江戸幕府時代には其の初め戰亂後の落武者卽ち浪人といふ者が社會的問題であつたが能く氣を注けないと今日は生活不安から何んな豫期せぬことが起つて來ぬとも限らない◆勞働者間に生ずる失業は資本主義的經濟制度に伴ふ周期的不況の致す所だが此の以外に智識人の失業者が雨後の筍然とドシ／＼出るのは憂ふべき現象だ◆其の禍源は何處にある乎といへばヤハリ資本主義的經濟政策であると答ふるの外ないが革命手段に訴ゑて之を打破した處で萬人の生活不安が除かれると云ふ確かな保證は能きない◆多少の犧牲を拂つても社會政策に依り穩健着實なる手段を以て弊根を除き徐々に改めて往く外に良策はないと信ずる◆生を養ひ死に處して憾みなきは王道の始めなりとの古語があるが王者の國たり皇道の國たる我國は深く此點に思ひを致して其の政治も其の經濟も明るい合理的のものにせねばならぬ◆勿論個人としては飽くまで自力的に生活せねばならぬが今日の生活不安なるものは主として社會的のものであるから其處に勢ひ社會政策の必要があるのだ◆無能、怠惰、放縱などで職を失つた者もあるに違ひないが失業問題は斯樣な個人的原因からではなく重に社會的原因に依つて起つて來るのである◆古い頭の人は此邊に精透した理智がなく又同情もなく『食ふに困るのは自業自得だ』抔といふから益々智識人や勞働者の反感を高める事になるのだ◆滿洲にも今日は生活不安を感じて居るものが多い智識人の失業者も萬一を僥倖して滿洲に押掛けて來るといふ狀態だ◆此の大きな社會問題を冷かに視て自分さへ食ふに困らなければ可いと云ふやうな調子では困るのである。

道德と社會

◉昔は君臣又は主從の關係で人と人とが繫がれさうして社會が組織せられて居た◉處が現代はそれが崩壞して了つたので忠といふ道德觀念が薄らぎ孝といふ道德觀念も家庭に個人主義が入込むに從つて何うやら怪しくなつて來た◉併し忠も孝もその道德の根本觀念には變りがないのだから此の縱の道德が社會的に橫の道德となつて現はれなければ成らぬ筈だのにそれが出て來ない◉人類愛などゝ大きな事をいふが個人間、家庭間、社會間に人間味が乏しくなつて愛が窒息して了つては困る◉昔の道德は片務道德だ服從道德だ奴隸道德だ强制道德だと云ふけれども劫々良い所があつた◉君無道なるも臣は臣としての道を竭し父邪惡なるも子は子としての道を守るそれが忠孝の極致であるとした處に妙味があつた◉斯うして忠臣、孝子、義人、節婦が出て世の儀表となつたが近頃は此の人倫の別を無視した對等思想が强くなつて主人が何んだ先輩が何んだおやぢが何んだと云つた樣な調子になつた◉官衙でも社會でも銀行でも商店でも主從關係なるものは全く失はれ其の關係は情愛でない物質の力で繫がれて居る◉上の方から下の方へのみ道德を强ゆることは最早や出來なくなつたのだから今後は墨子の謂ゆる相愛を發揮し寧ろ上の方から愛の光を放たなければならないのにそれが亦滿足でない◉曰く權柄ぶる曰く成金ぶる曰く優越ぶると云つた調子のものが多いので下の方に不平と反感が起つて來るのである◉斯んな社會に人間の美しい良心や愛が現はれて來る道理がないそして理窟が榮ゑ爭鬪心が强くなり人各々心に刄を磨いて相對し相競ふやうになる◉同時に利己心が激しくなり個人主義が利己主義となり自分さへ好ければ他人はどうなつても構はないイヤ他人を押し除けても自分だけいゝ兒にならうとする◉之れでは社會心や社會道德の芽を吹く筈がない仁義や忠孝の道德的根本觀念を時代化しそれを更に社會化せねばならぬ今日それでは丸で話にならぬ◉廉恥心の薄くなつたことも酷いそして恥を恥としない厚顏無恥の徒が多くなつた◉此の無道德の社會に道德を與ゑ此の無情味の社會に情味を與ゑて荒める人心を和らぐるのも社會政策の一任務だ◉政治に經濟に社會政策が徹底すれば時代化した新道德も生まれて來るわけだ。



金絲鳥の愛

木枯山人

僕のところに飼つてゐる金絲鳥が此の冬空になつて卵を三箇孵へした。雛の二羽は父親に似て頭の黒い俗にハイカラと云ふ奴で、他の一羽は母親そつくりである。

雌が巣に入つて卵を抱いてゐる間、雄は粟や菜葉や玉燒きなどの餌を口に入れて、雌のゐるところに飛んで行つて、それを口移しにして彼女の饑ゑないやうに努める、少しもヂッとして居ない。人間の男の中には妻を虐待して平氣でゐる者もあるが、金絲鳥の雄の雌に忠實なところを見たら彼等は何と思ふだらう。生物には皆それ〴〵斯うした本能が與へられてある。鳩に三枝の禮あり、烏に反哺の孝ありとかで、本能の表現には美しい所があるのに、最高生物たる人間には却つて不德な奴が多い。

『さう女房の側にばかりへバリ付いてゐないで、偶には浩然の氣を養へよ、カフエーに往つて純白なエプロンを着た魅惑的な姿に陶醉して見るのも一興ではないか、待合に泊つて藝者といふ者を抱かないと紳士たるの資格がないとさへ言ふぢやないか、君のやうなサイノロジーでも困るよ』

斯んなことを言ふ人間の男の話を金絲鳥の雄が聞いたら嘸ぞ吃驚するだらう。況んや夫婦仲の睦まじい鴛鴦に聞かせたら、それこそ眼を廻して、卒倒してしまふだらう。

だが鳥にも鷄のやうな一夫多妻主義のものがあるから可笑しい。併し鷄も元は一夫一婦であつたのだが、人間がそれを飼つて、人間の利益主義から澤山卵を取るため、一羽の雄に六羽も十羽も雌を配遇させた結果、それが第二の性となつて、遂に一夫多妻主義となつたのだと云ふ説もある。さうかも知れない。すると人間といふ奴、どこ迄も横着で我儘で、勝手な事ばかりするものと見ゑる。

おつと話が横に外れた。更に靜かに金絲鳥の籠を覗いて見る。

三羽の雛が巣立ちすると、雄の親は、今度は子供の養ひに懸命となつて、盛んに餌を口に含んで はその餌を三羽の雛に互み交りに不公平のないやうに口移しにして喰はせてやる。

それを見て居るうちに又いろんな考ゑが浮んで居る。

雌は卵を孵化するといふ大役があるので、雄は此間雌のために食を運ぶが、卵が雛になつて覺束なげに巣立ちすると、今度はその雛のために食物傳搬の役に當り、成るべく雌を煩はさない樣にして、雄自身で雛を育てる。此邊は人間と少し違つてゐる。人間は子を生んでそれを育てるのが女の役目で、その爲め女には乳といふものが附いてゐる、乳が出なければ牛乳なり重湯なりを女の手で嬰兒に與ゑる。男とても多少は手傳ふが金絲鳥の雄のやうに直接に自ら食物を運ぶやうな事はしない。

併し子を愛する至情において人間と鳥との間に甚だしい深淺はない筈だ。燒野の雉子、夜の鶴、いづれか子を思はざらんやである。愛し方は違つても、愛する上において、男と女の區別はない。女がやさしくするのも、男がきびしくするのも、等しく子を愛するからである。

親が子を愛する、それが先天的本能であり至情である以上、子もまた親を愛すべき本能と至情を有つて居るべき筈だ。處が此頃の西洋學問を半噛りした若い奴の中には、親として子を育てるのは當り前だが、子として親に必ず仕へなければならぬといふ義務はない、抔といつて、平氣で親不孝をする者がある。彼等は母親の生みの苦みも父親の育ての苦みも御存知ないのだ。

尤も子を喰物にする親があつて、孝行といふ事を看板にして、子供に無理を強ゆる者もあるが、斯んな親があるので、子供にも親不孝のものが出て來るのであらう。困つたものだ。

愛が生命だ。金絲鳥は天から與へられた愛といふ本能によつて夫唱婦和し、雄がいゝ聲で鳴けば雌もそれに調子を合はし、仲睦まじく暮らし、雛が出來ると夫婦してそれを育て上げる。此間には何等の技巧もなく細工もなく、道徳とか倫理とか云ふものもなく、總て是れ自然の有のまゝだ。

黄い嘴を開けて、身體をよた／＼と動かして、父親から食物を口に移して貰ふ時の金絲鳥の雛の愛らしさよ。籠を唯一の天地として今に美しい聲で鳴き出すであらう。

× × × × × ×



反感

永田新郷

或る朝、喇叭の音に目を覺まして起ると、頭が重かつた。朝から陰鬱な雲が、鉛を流したやうに、重さうに、毒々しさうに、空一面に蔓つて居た、灰色に凍り固まつた營庭の土は、冷却した死人の心臟を思はせるやうになつて、其處に立つた新兵の感情を滅入らすのであつた。新兵は姓を堂下と呼ぶのであつた。彼は身體の不健康に對する恐怖と不安とで胸の中が薄墨色に彩られてゐた。彼は左の手首を右の手に握り、動脈の通つて居る處に拇指を當てゝ、頻りに脈を數へたりした。更に額に手を當てゝみて、主觀的に熱があるやうに思つて、自分で自分を病人にしてしまつた。

「感冒をひいたに違ひない、昨晩の洗濯が惡つたのだ」

彼は斯う胸の中で呟きながら日朝點呼のために營庭に整列したのである。

「昨夜の洗濯が……」と再び胸の中で思ふと、彼は急に古兵の内田の仕打が憎らしくなつて、内田に對し烈しい反感を起さずには居られなかつた。

寒い風が容赦なくピユッ〳〵と虚空に鳴つて吹きつけて來た。洗濯場はカラッとして、凍つた風が水に漬けてゐる被服の上に砕けては、石鹼の泡を吹き飛ばしつゝ、小さな氷塊を立どころに作つて行つた。洗濯した衣服を後の柱の折釘に吊して置くと、いつの間にか、カサ〳〵と云ふ音をさせて、棒のやうになつて風に動いて居る。洗濯場には堂下の外に誰も居なかつた。彼は薄い襯一枚になつて、腕をまくつて、ぢやぶ〳〵と洗濯をした。時折手を休めると、水の冷めたさと風の寒さとで、手が痺れるやうに痛かつた。彼は辛さと痛ましさと、不平と憤りとで、胸の中が無暗にこんがらかつて了つた。

それはその筈である。彼がしてゐる洗濯物の大部分は、全く彼自身の物でなく、内田古兵のもので、それも強制的に命ぜられたのであつたからだ。こんな寒い晩に、洗濯をさせてやつて、へと〳〵に懲らしてやれと堂下にばかり意地の悪い内田がたくらんだ仕事だつたからだ。彼はそれを知つてゐた。知つて居たから不平と反感とが嵐の如く彼の胸の中を吹きまくつたのである。然しその不平も反感も結局は自分で自分を苦しめるに過ぎなかつた。肉體的の苦痛と、精神的の苦痛と、此の二重の苦みに彼は悩まされたのである。心の中では忌々しくて、厭で〳〵仕方がないのだけれども、彼の手は機械のやうにぢやぶ〳〵と石鹼の泡を飛ばして行つた。命ぜられた丈けの洗濯をやらなければ、やらなかつたその事によつて、更らに大なる苦痛を身體と精神とに與へられることも彼は知つてゐた。彼の手はその大なる苦痛の豫覺を打ち消すために現在の彼が意識とは殆ど全く反對になつて形式的に働いてゐたのである。

「非道な仕打だ、内田の奴は娑婆の惡魔だ」。彼はさう思つて泣きたい位忌々しくなつた。けれど「何うする事も出來ないのだ」といふ觀念が直ぐ頭を擡げて來て、色々と逃るべき手段も考へたが、やはり何うする事も出來ないのであつた。彼はその結論を繰返す毎に忌々しさで胸が一杯になつた。

酒保の方から温かさうな汁粉や、燒芋や、うどんの匂ひなどが一緒になつて流れて來て、空腹な彼の腹の中を唆るのであつた。その刹那に食慾の衝動がむら〳〵と起つたけれども、現にしてゐる洗濯のことを考へると、それも氷のやうに冷へきつた感じに變るのであつた。

堂下は斯うした内田古兵の仕打が今朝の病氣の原因に違ひない、と思ひながら、不愉快な朝の修養と日朝點呼後の體操をやつた。心はすつかり病氣の方に奪はれてゐたが、形だけ班長の號令する通りにし、手や足を機械のやうに動かした。僅か八分間か十分間の體操であつたけれども是迄に經驗したことの無いほど苦しさを覺へた。體操が終ると、班長は班員全部を引率して、直さま厩に行つた。

「これから朝の馬房の手入れに取りかゝるんだな」

彼はさう思ふと　體に一層惡寒を感ずるのであつた。思ひ切つて診察を受けさせて下さいと班長に言はうかと思つた。けれども診察を申出でる時間は、日夕點呼か日朝點呼の時に限られて居るのだから、もう時を逸して了つて居る。それに自分が今診察を受けさして呉れと云つたつて、あの若い熱狂的な班の成績を擧げることにのみ努める班長が聞き入れないのは分つてゐる、聞き入れないばかりか、却つて「何だ弱虫奴、死

んでしまへ」などゝ大きな聲で頭から叱り飛ばされるに違ひない。

彼はさう思つて、他の古兵たちが馬を引出した馬房の中に入つて、馬の尿と糞とでぐしやぐになつた寢藁を、襯衣一枚になつて手で抱きかゝへる樣にして、直ぐ厩の外の寢藁干場に持ち出した。上の方の寢藁は乾いてかさくして居るけれども、だんぐ下にゆくに從ひ、馬の小便で黑くぐしよくになつて居り、それに上から重い馬の體で壓しつけられて居たものだから、非常に熱氣を持つてゐて、手を觸れると熱さを感ずる程であつた。壓しつけるやうな馬糞の匂ひが鼻を突いて、五本の指の爪の間には眞ッ黑く馬糞の粉末が喰ひ入り、手はさゝらの如うにがさぐになつて、ちよつと堅いものに打ち當ると、血が滲み出る程であつた。班長は始終彼等初年兵の寢藁を出してゐる動作を監督してゐた。

堂下はやつと我慢して二馬房分の寢藁を出し切つてしまうと、頭が急にぐわんと鳴つて、全身の神經が一時に波を騰げた。咽喉が乾いて、舌が硬張つて、眼がぐらくして、不愉快で堪らなかつた。彼は堪らなくなつて、馬房の柱に身を寄せて、暫らくそこに立竦くんでゐた。

その時、厩當番所の方から、内田古兵が竹箒を擔いで、墓のやうな顏をして、のそりくやつて來た。實際内田の顏は下等な動物的色彩を豐富に持つて居た。殘忍な面影が、その眼のあたりからきつと結んだ唇のあたりにかけて、著るしく表はれて居た。彼は初年兵の缺點を見出さうと思つて此方へやつて來たのだ。堂下は内田の姿を見出すと慄へる程に厭な苦しみを感じた。内田はまた堂下の姿を見出すと早や口汚く遠くか

ら銅羅聲を張り上げて怒鳴り立てた。堂下は默つて下を向いて居た。

「此の野郎ずぼらだ、身體の惡い振りをして居やがる」

と內田は堂下の前へ來て斯う言つて、肩から竹箒を下して、堂下の顔を睨みつけた。堂下は腹の中が煮ゐくり返へるやうであつたが、じつと怺ゐて、それを表面に現はして反抗的な態度を見せやうとはしなかつた其の時、廐週番上等兵が「各班から馬糧取りに一名宛出ろ」と大きな聲を擧げて怒鳴つた。彼は其の聲を聞いた時ハッとした。その刹那、意地惡の內田は

「馬糧取りには貴樣行け、ずるい事をするから仕方がないんだ」

半ば命令するやうに、半ば小言を云ふやうに、斯う云つて外へ出て行つた。實際此の馬糧取りに行く事は身體の工合の惡くない時だつて、彼には何よりも苦しいものゝ一つであつた。二町あまりもある道程を、麥俵を擔がされて、馬か牛のやうに、後からほうい〳〵と追ひ立てられる。堂下にはこの麥俵を肩まで擔ぎ上げると云ふことが非常に苦しみを感ずるのであつた。內田はそれを知つてゐて態と堂下に馬糧取りを命じたのだ。彼の苦しみ惱む姿を見て、或種の不純な快感を貪らうといふ事、彼を極度に苦しめて、暴力的權力行使の實現に伴ふ愉快を味はうといふ事、それが內田の腹であつた。

堂下は其の不當無法な暴力的壓制を常に呪ふて居た。今日もまた內田は、堂下が病氣に惱まされて居るのを知つてゐながら、此の快感と愉快を貪らうがために、橫暴な命令を彼に下したのであつた。それで彼はも

う堪らなくなつて、胸が掻きむしられる樣にくしやくしやして

「內田の奴、何といふ惡魔だらう、彼奴は實に地獄の鬼以上だ」

と斯う心の中に叫んで厩當番の方に步いて行つた。彼は此時已に自暴自棄的になつて居た。

「死んでも構はない、然し今日の此の怨みはいつか晴らしてやる」

彼は斯う考ねながら、厩週番上等兵の後に從つて、馬糧庫へ行つた。

馬糧運びの仕事が終つて、彼は自分の班の厩へ來て見たが、もうすつかり綺麗に片づいてゐて、其處には誰も居なかつた。無理な過度の勞働に刺戟されて彼の身體の工合は一層惡かつた。びつしよりになつた全身の汗が乾き始めると、烈しい惡寒が起つて來て、肉體を苦しみの巢のやうにした。總ての感覺が苦しみの中に溶け込み、悲哀の底に落ち込み、人間らしい精神と肉體とが刻々にさいなまれ破壞されて行くのを知つた

相變らず頭が重く呼吸する度に胸部が壓しつけられるやうに苦しい。

空は今にも降り出しさうであつた。火藥庫の土手の上に步哨の姿が淋しく動いて居る。兵營の黑い瓦の屋根が、惱ましい陰鬱な彼の胸の中と同じやうな色彩を放つて、不愉快な氣分を空に向つて漂はして居た。死後の肉體を解體した時の暗紫色のうるほひを有つた骨を思はせるやうな櫻の枝が衛門の上の空間にひよつこりと出て居た。彼が中隊へ歸つて行くともう皆んな食事に出て行つた跡であつた。

彼も直ぐ食堂に行つた。すると中隊の兵卒は食事を濟まして、その週番下士が食堂監視の將校に挨拶して

今食堂を出やうとする處であつた。彼は空腹を感じて居た。それにも拘らず、食慾の衝動が起つて來ない程それ程に彼の健康は調子が狂つて居た。彼は急いで自分の席に着いて、湯だけを呑んで、匆々に食堂を出る事にした。二三の初年兵が彼の病氣に對し同情ある言葉を寄せて呉れた。それが今の彼に取つては此上もない嬉しいものであつた。同じ初年兵の仲間でも、同僚の永井は特に心配して呉れて、班長に申し出て不時診斷を受けるやうにしたら何うか、と言つて呉れた。彼は衷心より永井に感謝した。けれども内田の仕打に對する反感と殆ど自棄的になつた心の彈みとで彼は强いて診斷を受けない事にした。

「俺なんか死んでもいゝんだ」

彼は親切な永井に對して迄も、斯んな捨鉢なことを言つて、不愉快な微笑を漏らした。

「然し身體は大切にしなければいけない」

永井はさう云つて、それ切り言葉を打切つて、食堂を出て行つた。彼もその後から續いて食堂を出た。恰度彼が食堂の入口から身體を出さうとする時、ふいと酒保の庭の方から内田が獸のやうな姿を現はした。内田はつかつかと彼の前に歩み寄つて來て、險しい眼をして彼を睨みつけたが、物も言はずに、拳骨を固めて二つ彼の横顏を撲つた。この無法な拳固が彼の筋肉に觸れると、彼は耳の奥から頭の中心にかけて、ぐわんと或る恐しい響きを感じた。痛いと云ふよりも口惜しいと云ふ反感の方が遙かに强つた。内田は撲つておいてから、ぶつきら棒に、勝ち誇るもののやうに、荒々しく野卑な句調で言つた。

「貴樣は生意氣だ、なぜ今朝厩で俺が物を言つたとき返辭をしなかつた、生意氣な事をすると承知せんぞ口惜しがつて膨れ面をすればぐん〳〵遣ッ付けてやる迄だ」

內田は斯んな憎らしい橫暴な言葉を殘して中隊の入口の方へ歩いて行つた。

「ちゑつ忌々しいなア……」

堂下の全心の筋肉は急に引締つた。神經が火を噴かうとするやうに感じられた。

「全く橫暴だ、理由の無い暴虐極まる仕打だ、少しも人間味といふものが無い」

彼は心の中で更に斯う叫んだ。暴力を唯一の武器とする、人間的修養の足らない、動物的殘虐性に富んだ人間、之れほど卑むべく、之ほど憎むべく、また之ほど恐るべきものはないと思つた。

「內田は人間ぢやない、人面を有する畜生だ、ウン慥かに野獸だ」

斯う思つた時、彼の憤怒と、反感と、忌々しさとは幾らか消ゑ去らうとした。と同時に、その反面に於て「畜生と一緒に起臥し、生活を共にすることは、人間として大なる恥辱だ」と感じた。そして更に「俺は其の畜生に虐待され迫害されて居るのだ」と考へると、自分の意氣地なさが思はれて、何となく悲しくなつて自然と淚が出るのであつた。遂には古兵の誰もが皆內田の仕打と同じ事をするやうに思はれて、「軍隊といふ所は人間を暴力本位の獸に造り代へる處ではないか知らん」とまで考ゑ込んで了つた。

「さうだ、それに違ひない、そこらに居る奴等は皆んな二本の脚で立つて歩いてゐる獸なんだ、見ろ、あ

の橫暴な殘虐的に血走つて居る瞳を……」

彼の感情はこゝまで激越した、そして彼は中隊の入口の扉を開けて內に入つた。

其の日の午前の演習は徒步敎練と單砲敎練であつた。彼の此時の感情は極度に亢奮し、頭の中がぴり〱痛み、重い壓しつけられるやうな氣持が呼吸に伴れて起り、惡寒が全身の神經を刺戟して痙攣的の苦痛を發作させなどした。彼は思ひ切つて演習を休まうかと思つたが、その反面に於て

「死ぬまでやる丈けの事はやり通す」

とも思つたが、併しまた「イャ死ぬんぢやない、その時は虐殺されるんだ、獸に等しい人間の暴力で殺されるんだ、それでもいゝ、併し甘んじて眼をつむつて、息を引きとることが出來るか何うか」と自分で自分に問ふてみたが、その結論はやはり同じことであつた。

「死ぬまでやる丈けのことはやり通す」

彼は遂に戰場に肉彈を提げて臨む勇士のやうな決心をした。で演習には斃れる覺悟で出ることにした。不平と、憤怒と、反感とが彼に斯んな悲痛な、或る點から云ふと劇的な、一面ひねくれた根性を有たせてしまつた。それは恐ろしい結果だ。彼はその恐ろしい結果だと云ふことも知つて居た。彼は自分の有つて生れた尊い個性の殿堂が、內田の無道と不法とのために、刻々に破壞されて行くことを、非常に痛ましく、悲しくまた苦しくも思つた。さうして其の苦しみも、悲しみも、痛ましさも、今では唯一の不愉快なひねくれた悲

観の極度に走つた自暴自棄的な根性の中に凝結してゐるのであつた。

「大丈夫か、演習は出來るか」

彼が銃劍をつけて、卷脚袢を穿いて、軍裝をして、階段を下りて外へ出やうとすると、永井が心配さうに斯う言つて呉れた。永井の親切は今に始まつた事ぢやないが、今日に限つて一層有難く、親切深く感ぜられて、彼の胸の中はその感激の情で火のやうに熱くなつた。

「大丈夫だよ、何をして死ぬるも同じことだもの、長命をしたつて、短命であつたつて、それが何になるだから虐殺されたつて構はないさ」

彼の心は既に甚だしくひねくれて了つて、自暴自棄的になつてゐたので、永井への答へとしても、また斯うした言葉の外は殆ど言ふ術を知らなかつた。

徒歩教練が始まる前に嚴格な軍裝檢査が行はれた。不動の姿勢の良否、武器の手入れの工合、それから被服の手入れと、この三つに分類して、各擔當を定め、十人ばかりの初年兵掛りの下士と上等兵とで、綿密な然し底意地の惡い檢査を行つた。やがて初年兵敎育係助手の軍曹が堂下の前に來た。

「帽子のかむり方を直せ、右足前、腰を左へ送れ、上體操が前」、と言つたやうに、彼の服裝、姿勢等に付いて細かに矯正してゐたが、やがて彼の不愉快さうな顏を見つけ出して

「何處か惡いんぢやないか」

と言つて「惡かつたら我慢をすることはないぞ」と附け加へた。

「はい」と彼は返辭をした。軍曹は彼の方に進み寄つて來た。濕ッぽい寒い空氣が軍曹の顏の皮膚面に陰欝な影を作つて居た。幅廣い鼻の格好と、燒石のやうな筋肉と、黑いばつちりとした瞳と、それから堅くきつと結んだ唇と、それ等は皆この男の生命の中に潜在してゐる力を表現してゐるものであるらしかつた。軍曹は鐵の如くに固い筋肉を有つた掌を堂下の額に當てゝ見て

「熱があるぞ、今日は練兵を休め」

命令的な言葉には違ひなかつたが、いつも聞く命令的な聲とは違つて、堂下にはそれが近頃にない温みを覺えさせ、限りなき感謝の念を起させるのであつた。暴力を本位とする内田等の口からは容易に聞くことの出來ない人間味を有つた言葉であると思つた。

「まだ此處にも俺を救つて呉れる人が居るんだ」

彼はさう心の中で思つた。すると、今朝の食堂の前に於ける内田の横暴な、殘虐な、無法極まる散々な仕打が胸の中に甦つて來て、妙にまた心がひねくれ出した。

「死ぬまでやります」

彼はさう言つて了つてから、餘り言ひ過ぎて軍曹の感情を害しはせぬか、その反感的な仕打を受けはすまいか、と氣遣つた。然し結果は全く意外であつた。軍曹は力強い聲で言つた。

「宜しい、元氣がある、其の精神さへあればもう練兵はやらなくとも可い、今日は俺が休ましてやるから室へ歸つてゆつくり休め、心配せんでもいゝ」

堂下はハッとした。有難いと云ふよりは、軍隊といふ處は變な社會だ、常識では判斷のつかない事ばかりだと、今の軍曹の突飛な言葉を疑はずには居られなかつた。

「本當なのか知ら……」

彼は自分で自分に問ふて見た。彼は思ひ切つて列を離れることが出來ないで躊躇してゐた。すると軍曹は命令的の言葉に溢るゝばかりの同情をこめて

「可い、もう可いから歸れ」

本當だ。やつぱり噓ではなかつた。彼はさう思ひながら、叮嚀に敬禮して、列を離れて室へ歸つた。軍曹は平氣な顏で順々に服裝や姿勢の檢査を行つていつた。

彼は其の日一日練兵を休むことが出來た。そして其の時だけは內田に對する極度の反感も總て忘れて居た內田への反感から起つた軍隊に對する反感は無論和らいで了つた。

研究會の旨趣目的

滿洲社會事業研究會は其の名稱の如く研究を主さする間接機關でありますが研究さ共にその研究の結果を發表し講演會その他の集會をも催ふし宣傳、鼓吹、報道、論評さ相待つて實行促進に努力しますから直接に自ら實行しないでも漸次實行を促すことになります場合に依り又事業の性質によりては本會自ら實行するやうな事があるかも知れませんが本來の使命は間接的に助長、發達、進歩を計り社會問題に對する正しい理解力を一般に普及したいのであります夫れから本會は會員組織でありまして會員を別つて贊助員及び普通會員さし役員は會長一名、副會長二名、幹事長一名竝に幹事若干名で外に顧問、相談役及び評議員若干名を置くことに成つて居ます評議員は贊助員の中より選擧し其の任期は二年です評議員會は會長において必要さ認めたるさき又は評議員五名以上の請求ありたるさき開くのです評議員會は今日までに既に拾回開きました本會の經費は會費及び寄附金を以て之れに充て會費は贊助員毎月貳圓、普通會員同上壹圓です追つて沿線重要地に支部を設けます。

研究會の組織綱領

●支那貨幣に就きて…………上海、東亞同文書院研究部

●滿蒙開發策……石山福治著

在外鮮人事情研究會發行

◉蒙古貿易さ東支鐵道……………

(附)呼倫貝爾地方に於ける漁業

◉勞農極東沿海縣之近況……………

滿鐵哈爾賓事務所調査課

◉高砂歌集……………

臺北、高砂同人歌集編纂會

◉咸鏡北道の大富源……麻生音波著

◉滿洲日日新聞、遼東新報、大連新聞、日滿通信、滿蒙、讀書會雜誌、海友、調査時報、滿洲建築協會雜誌、大陸、滿洲經濟時報、關東新聞、(以上は大連)◉大陸日日新聞、奉天新聞、奉天每日新聞、滿蒙經濟新報(以上奉天)◉調査彙報(長春商議所)◉大乘(上海)◉調査彙報(朝鮮總督府)◉朝鮮地方行政、京城日報、朝鮮新聞(以上京城)◉臺灣時報、臺法月報(以上臺灣)◉滿鐵東亞經濟調査局經濟資料、東洋、支那、愛國婦人、人道(以上東京)◉東亞經濟研究(山口)◉福岡日日新聞(福岡)

每月一回發行

定價表

本號は壹部金七拾錢

冊數	定價	郵稅
三箇月分	壹圓九拾錢	五錢
半箇年分	參圓八拾錢	郵稅共
一箇年分	七圓五拾錢	郵稅共

▲半年分及壹年分には特別號を含む▲誌代は總て前金拂の事▲郵券代用は一割增

廣告料

等級	半頁	一頁
特等	四拾圓	八拾圓
一等	貳拾五圓	五拾圓
二等	拾五圓	參拾圓
三等	拾圓	貳拾圓

●三回以上は割引可仕候●年極めは特別に御相談可致候

●〆切りは前月二十日限り

大正十四年一月一日發行

發行人　山田武吉
編輯人　大內四郎
印刷人　太田信三
印刷所　小林又七支店　大連市大山通

發行所(電話五四二六番)　滿洲社會事業研究會
大連市松山町五番地七號
振替口座大連一二三九番

FC

福昌公司

大連市山縣通二一三番地
電話代表番號七一一番

輸出入
保險
倉庫
土木、建築

▲營業品目

◎東京製綱會社製ワイヤロープ、マニラロープ、ターロープ一手販賣
◎安川電機製作所電動機、發電機、變壓器、配電盤、其他附屬類一手販賣
◎米國ヴアキユーム鑛油會社製車軸油、機械油、汽筒油、自動車油、其他各種滑油並にグリース類一手販賣
◎瑞典SKF會社製SKFボール並にローラーベアリング一手販賣
◎丁抹サブロー會社製炭酸瓦斯式冷藏裝置請負
◎イングリツシユ、エレクトリツク會社製電氣汽關車、ダービン發電機裝置其他電氣機械類
◎英國ジヨン、アイ、ソーニクロフト會社製貨物用自動車、附屬品並に船用機器汽鑵一手販賣
◎日本皮革會社製鳳凰印ベルト一手販賣
◎日本化學工業會社製象印カーバイト一手販賣
◎米國フアイヤーストーン會社製各種タイヤー其他護謨製品類一手販賣
◎米國ヴイクター會社製蓄音器各種レコード並にアルバム類
◎歐米各種乘用貨物用自動車並に附屬品一式
◎金物、諸機械、米松其他木材アルコール、セメント麥粉
◎砂糖、米、海產物、洋酒、毛糸、其他各種洋雜貨類輸入販賣
◎ドロマイト、石灰石、花崗石、土砂採掘販賣並に煉瓦製造販賣

▲保險代理

◎豐國火災保險株式會社
◎大阪海上火災保險株式會社
◎日本共立火災保險株式會社
◎セノース、ブリチシ、エンド、マーカンタイル保險株式會社